

第Ⅱ期 ガリラヤ伝道

イエスは、神の国の福音を説きまた教えながら、

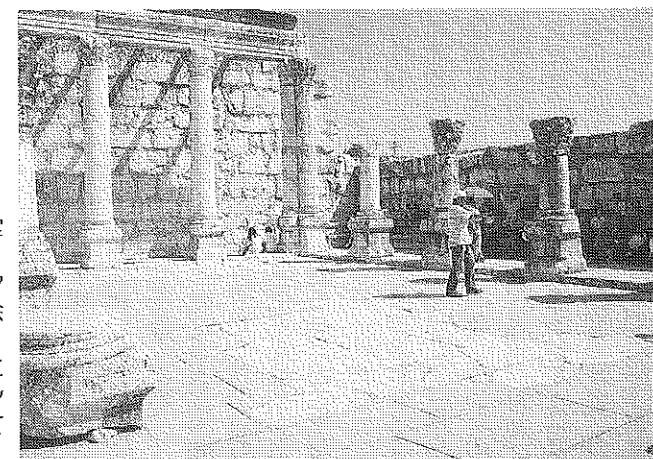
町々村々を巡回し続けられたが、

十二弟子もお供をした。

ルカによる福音書 8章 1節



カペナウムの町（廃墟）

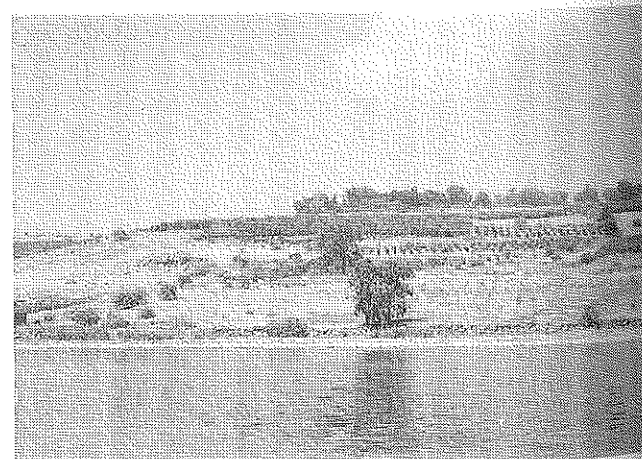
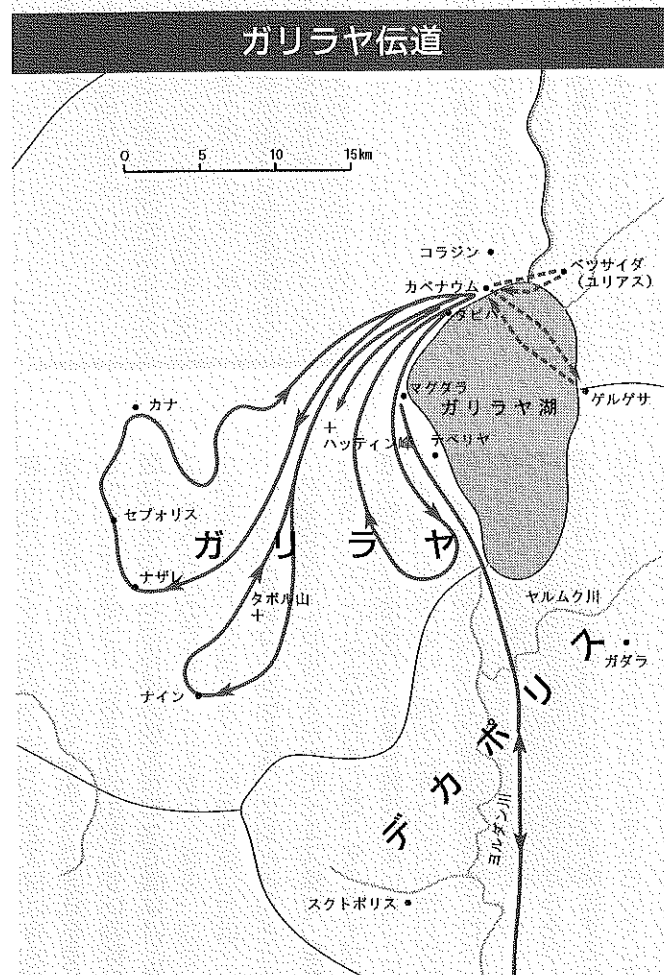


カペナウムのユダヤ教会堂（シナゴグ）跡
主は、カペナウムをガリラヤ伝道の中心地とされ、この会堂でも教えられた。
（現在のものは、4世紀頃に建てられ、主が説教されたシナゴグは、この下に埋っていると考えられている。）

主イエスはパレスチナ北方のガリラヤ地方を中心に、活発な伝道を展開されました。また、ガリラヤ湖の漁師ペテロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネを最初の弟子として召され、後にもう八人の弟子が加えられます。

ガリラヤ湖畔の町カペナウムに移り住み、ここを「ご自分の町」とされ、会堂でみことばを語り、みわざをなさいました。また、ガリラヤ湖周辺の町々村々を巡り歩いて、教えを説き、しるしを行なわれました。この時期、湖を望む丘の上で「山上の教え」をなさいました。

やがて、主イエスの名声はいよいよ高まり、ユダヤ全土はもとより、海岸地方やシリヤ地方からも、イエスの教えを聞こうとする人々が押し寄せてきました。



ガリラヤ湖から見た、
山上の丘教会や周辺の丘。

●週 題 ナザレ伝道
●聖 書 ルカによる福音書4・14～24
●暗唱聖句 主のめぐみの年を告げ知らせるの
ルカ4・19
●目 標 ナザレ伝道の様子を学び、親しい
人にも恐れず伝道できる勇気をも
てるよう指導する。

導入

暑い日が続きますね、体をこわさないように、
神様に守っていただきましょう。
さて、みなさんは、友だちを教会に誘ったこと
がありますか。なかなか勇気がいりますね。イエ
ス様はどうだったでしょう。

ナザレに帰られて

先週は、イエス様が、ユダヤからガリラヤへ向
かわれる途中で、一人のサマリヤの女の人に出会
われたお話を聞きましたね。その後、イエス様は、
御霊の力に満ちあふれて、ガリラヤに帰られました
。そして、諸会堂で力強く神様の教えを語って
いかれました。すると、ガリラヤ中にイエス様の
うわさが広まり、評判になりました。

しかし、有名になられたからといって、いい気
になるようなイエス様ではありません。イエス様
は、ご自分がお育ちになった村ナザレに行かれま
した。それはナザレの人々に、何とかして神様の

恵みをお伝えするためでした。イエス様は有名だ
からといばったりするのではなく、ご自分を子ど
ものころから知っている人々の住むナザレの村を
愛し、村の人々に神様の教えを知ってほしいと願
っておられたのです。

イエス様のメッセージ

ある安息日に会堂に入られたイエス様は、聖書
を朗読しようとして立たれました。そこでイザヤ
書の巻物が手渡され、61章を読みました。ここ
には実に素晴らしい、恵みに満ちたメッセージが
書かれてあります。イエス様が何のためにわたし
たちの所に来てくださったのか書かれているので
す。イエス様が来られたのは、わたしたちをが
んじがらめにしばる罪からわたしたちを解放するた
めです。罪はわたしたちの心の目をふさいでしま
います。たった一枚の十両玉でも目にあてると
太陽の光を見ることができません。同じように、
どんなに小さくても罪がわたしたちの心の中にあ
るなら、わたしたちは光なる神様を見ることがで
きないのです。ところが、イエス様はその罪を完
全に取り除いてくださるために、何の罪も犯され
なかつたにもかかわらず、十字架にかかって尊い
血を流してくださいました。このイエス様の十字
架を心から信じるなら、どんな罪でもゆるされ、
救われるのです。

主のめぐみの年

イエス様は「主のめぐみの年を告げ知らせる」

分級 A

〈分級活動例〉

イエス様は、ナザレという村で子どもの時から
おとなになるまで住んでおられました。そこには、
お父さん、お母さん、弟や妹、おじさん、おばさ
ん、そして小さいときからよく知っている近所の
おじさん、おばさんたちがたくさんいましたよ。

イエス様は、そのナザレの村に行って、「神様を
信じなさい」と、聖書のお話や神様のことを伝道
しました。すると、まじめに聞いてくれる人もい
るけど、「なーんだ、おまえは大工のヨセフの子じ
やないか、小さい子どものときからよく知ってる
よ」とか言って、ひやかしたり、からかったりす
る人もいました。

イエス様はきっとはにかしいなと思われたでし
ょうね。でもね、勇気をだして一生けん命「神様
はわたしたちを愛してくださるから神様によるこ
ばれる生活をしなさい」といって伝道しました。
ケンちゃんどうかな？

お父さんやお母さんに神様のことをお話したこと
あるかな？ お友だちやおじさんやおばさんに天
国のお話をしたことあるかな？

マリちゃんは？

幼稚園のお友だちに「教会にいくつ」ってさそ

分級 B

〈キーポイント〉

つたえよう

〈導入〉

イエス様の「はじめの伝道」にはいろいろと目
を見張ったり、感動することがありましたね。さ
て、この八月は、このイエス様の「弟子」につ
いて学びます。わたしたちはいま、誰の弟子？
○牧師先生の弟子？ 教会学校の○○先生の弟子？
あるいは○○君の弟子？ わたしたちはみんな一
人ひとり、イエス様の弟子になろう！

と言われました。そのころ、ヨハンの年といつて、

五十年に一度めぐって来る年があり、この年にな
るとすべての土地に休みが与えられました。そし
て、すべての奴隷が解放され、たくさんのお金も
みな帳消しにされるという、実に素晴らしいおき
てがあったのです。この時にはあちこちから「や
ったあ！解放された！」という歓声がわき上がりま
した。

イエス様は「この聖句はこの日に成就した」と
おっしゃいました。イエス様が来てくださった十字
架にかかってくださった事によって、わたしたち
はどんな罪からでも解放されるのです。ところが
イエス様が聖書を読み終わって席に着かれると、
人々はいっせいにイエス様を見つめ、口々に「あ
のイエスはヨセフの子じゃないか」と語り合っ
ていました。そこにいた人たちはびっくりしてメッ
セージを聞きながら、ついには信じることをでき
なかつたのです。イエス様はどんなに悲しまれたこ
とでしょう。イエス様は、この罪からの解放を宣
言するためにこの世にいられたのです。

結び

わたしたちにも、この主のめぐみを伝えていく
使命が与えられています。あなたの友だちは救わ
れていますか。あなたの家族の人たちは、本当の
神様を知っていますか。身近な人たちにイエス様
のことを伝えるのは勇気がいることでしょう。し
かし、私達もイエス様のように、恐れないう
ばらしい救いを告げらせていきましょう。

〈聖書に親しむ〉

ルカ4・14～24です。一節ずつ輪読しましょう。
暗唱聖句はもう一度、みんなで読み、線を引いて
覚えましょう。

〈ナザレワークです〉

○や□の中に、文字やことばを入れましょ
う。

〈わたしたちもナザレ伝道を！〉

イエス様は、「おまえは、ヨセフの子、大工の子
じゃないか」と軽蔑されるようなふるさとのナザ
レで、神様のことを伝えられました。わたしたち
のことを良く知ってる人たちに、神様やイエス様
のこと、教会のことを話するのは、恥ずかしい
かもしれません。やりにくいかもしれませんが、で
もイエス様のように、勇気を出してナザレ（ふる
さと）伝道をしましょう。

〈きょうのおいのり〉

神様、おうちの人や学校の先生やおもだちに、
イエス様のことを教会のことを話せるよう、助け
てください。

分級C

〈キーポイント〉

伝道に励もう！

〈導入〉

イエス様は伝道を開始されたあとで、ふるさとの町ナザレに帰られました。それは、自分が生まれ育った町の人たちに、ぜひ福音を伝えたい、伝道したいと願われたからでした。それほどイエス様の心には、ふるさとの家族や友人たちが救われるように願う気持ちが強かったのです。わたしたちにとっても家族や友だちはすばらしい宝物です。このわたしたちの大切な家族や友だちにも、イエス様のことを伝えたいですね。

〈聖書を読もう〉

ルカによる福音書4章14節～24節を開いてください。順番に読んでみましょう。今日の暗唱聖句は19節です。しっかりと線を引いて覚えましょう。

〈質問〉

- ①イエス様はどの地方にお帰りになりましたか。
- ガリラヤ地方です。イエス様はガリラヤで最も多くの活動をされました。
- ②人々のイエス様に対する反応はどうでしたか。
- すでにこの地方にもイエス様のうわさが広まっ

研究資料

週題 ナザレ伝道

期題として第Ⅱ期「ガリラヤ伝道」に入る。主がもっとも活発に奉仕された、ご生涯の花の時期である。

ガリラヤに帰られたイエスは、まずご自分が育たれたナザレで活動を開始された。主の郷里伝道である。

テキスト

13節と14節の間に初期の伝道が入る。しかし内容的には、ヨルダン川からガリラヤ帰還まで、御霊に導かれたという点で連続性があり、主の公生涯のスタートが聖霊で貫かれていたことを示す。主のガリラヤ帰還は、共観福音書が共通して記しているが（マタイ4・12、マルコ1・14）、御霊の力に満ちあふれて帰られたことを述べているのはルカだけであり、これはルカの典型的な強調点である（使徒1・8）。主は、御霊の導きなしには一歩も進めない存在になっておられたのである。

16 いつものように…聖書を朗読しようとして立たれた。専属の奉仕者が朗読するのではなく、その場の適任者が指名されて朗読した。

17 すると預言者イザヤの書が手渡されたので…こう書いてある所を出された。律法も預言書もへ

ていましたが、人々は実際に会堂でイエス様のすばらしい教えを聞いて、尊敬しました。

③イエス様がお育ちになった所はどこですか。

●ナザレの村です。イエス様はご自分のふるさとであるナザレに帰られました。

ある安息日、イエス様がナザレの会堂に入られると、聖書を朗読するように指名されました。そこで、イエス様はイザヤ書の巻物を受け取られ、61章を開かれました。

④イエス様が読まれたところに書かれてある「わたし」とはどなたのことですか。

●「主の御霊がわたしに宿っている」とは、イエス様がご自身のことです。そこには救い主の来られる目的と使命が預言されています。

⑤救い主イエス様は何のためにこの世に来られましたか（18節）。

●福音を人々に告げ知らせるためです。福音とは、よき知らせ、グッドニュースです。それは、罪を悔い改め、救い主イエス様を信じるならどんな人でも救われるという、すばらしい知らせなのです。⑥イエス様のお働きを通して、どんなことが起こると預言されてありますか（18節）。

(1)囚人が解放されます。罪に捕らえられ、罪の奴隷になっていたわたしたちが、イエス様の十字架によって罪を赦され、救われるのです。

(2)目の見えない人の目が開かれます。罪のために見えなくなっている、わたしたちの心の目がイエス様によって開かれるのです。

(3)打ちひしがれた心が自由にされます。イエス様

ブル語で朗読され、その後で聴衆が理解できるように、アラム語の注釈（タルグム）が加えられた。律法は三年間で読了するようになっていたが、預言書は朗読者が自分で選んだ。イエスが選ばれた箇所は、イザヤ書61章1、2節であった。

18 主の御霊がわたしに宿っている。ヨルダン川で聖霊を受けられて以来、霊の内住は主の動かされない確信となった。そしてこの御霊によって、貧しい人々に福音を宣べ伝える使命を果たしていたのである。「貧しい人々に福音を」とは、ルカの格別の強調点である。貧しい人々はイエスから語られる神のメッセージを喜んで聞いたが、知識人や富んだ人々は受け入れなかった。イエスは、ご自分がメシヤであることの証拠として、バプテスマのヨハネの弟子たちに、「貧しい人々は福音を聞かされている」（7・22）とヨハネに報告するよう告げられた。文字通りの意味は、「貧しい人々は福音化されている」であり、テキストと同じユー・アンゲリソー（福音によってキリストに帰らせる）という動詞が用いられている。この語は、マタイでは一回だけ使われ、マルコとヨハネでは一回も使われていないのに対して、ルカでは十回、彼のもう一つの著書である使徒行伝では十五回も出てくる。

わたしを聖別してください…主はわたしを分かちして イエスは、福音宣教の任務遂行のために神に聖別され、神から派遣された者であることを自覚しておられた。

囚人が解放され…自由を得させ 囚人も盲人も

を信じると、罪をもったままの暗い心に明るい光が差し込みます。そして、神様のために良い働きができるように変えられるのです。

⑦会堂にいた人々は、イエス様に対してどのような反応をしましたか（22節）。

●ある人々はイエス様の口から出てくるめぐみの言葉に感動しましたが、ほとんどの人が「この人はヨセフの子ではないか」と言って、イエス様が救い主だとは信じようとはしませんでした。彼らは神様から与えられた、せっかくの恵みの機会を失ってしまったのです。

⑧今日の暗唱聖句にある、「主のめぐみの年」とはわたしたちにとってはいつのことですか（Ⅱコリント6・2）。

●「今は恵みの時、今は救いの日」とあります。今こそわたしたちにとって恵みの年です。イエス様を救い主と受け入れ、十字架がわたしのためであると信じるすべての人に、この救いの恵みが提供されているのです。

残念なことに、ナザレの町の人々は救い主イエス様を歓迎しませんでした。でもイエス様は一生懸命伝道されました。ふるさとの町の人々を愛しておられたからでした。

わたしたちもすばらしい救い主を身近な人たちに知らせていきたいですね。イエス様はわたしたちといつも共にいてくださり、わたしたちに語る言葉や勇気を与えてくださいます。わたしたちもイエス様にならって、家族やお友だちにイエス様の恵みをお伝えしましょう。

打ちひしがれた者も、罪人の状態である。魂は罪の奴隷となり、心の目を見るべき神を見ることのできない盲目状態であり、喜びと平安のない暗黒となっている。そんな我らのために、神の子イエスは十字架にあがないを成し遂げたもうたのである。

19 主のめぐみの年とは、律法に定められたヨベルの年のこと（レビ25章）、五十年に一度巡ってくるこの年には、ラッパの音とともに、国中のすべての住民に自由がふれ示される。奴隷は解放され、土地は休閑地となり、借財は帳消しとなった。キリストの十字架のあがないはまさにヨベルの年の告知となって、我らを罪から解放したのである。21 そこでイエスは、「この聖句は…」と説きはじめられた。主は聴衆に、今聞いているこの説教が自分自身がこの預言の実現なのだ、と説かれたのである。イエスはイザヤ書の朗読を途中でやめられた。つまり「われわれの神の報復の日」を読まなかったのである。もし読んでおられたら、「この日に成就した」と言われることができなかったであろう。主は、初めは救いをもたらす恵みをもって来臨されたが、二度目には裁き主として来臨されることをご暗示されている。

22 この人はヨセフの子ではないか。恵みの福音を聞いた郷里の人々は、めぐみの言葉に感嘆したが、福音を受け入れようとしたのではない。かたくなな心で主を疑い、拒否した。

24 預言者は、自分の郷里では 主の嘆きのことばである。

●週 題 ペテロの召命

●聖 書 ルカによる福音書5・1～11

●暗唱聖句 恐れることはない。今からあなた
は人間をとる漁師になるのだ。

ルカ5・10

●目 標 主イエスに従ったペテロのように、
イエスの招きにこたえて、主の弟
子になる。

導入

みなさんは、イエス様の弟子たちの名前をどれくらい知っていますか。ペテロ、ヨハネ、アンデシ…。今日はペテロさんがイエス様の働きのために招かれたところを学びます。

網を洗っていたペテロ

ガリラヤ湖のそばでは三人の漁師たち(ペテロ、ヤコブ、ヨハネ)が、がっかりしていました。「今日は大丈夫」と思ってた晩中が眠って漁をしたのに、一匹も魚がとれなかったからです。泣きだして思いで網を洗っていました。でも彼らは、後ろの方でじっと彼らを見ておられたイエス様の姿に気がつきませんでした。イエス様は、わたしたちがどんなに苦しんでいるときでも、わたしたちをじっと見ていてくださるお方です。

沖へこぎ出さない

イエス様は失望していた漁師たちの所に近づき、

ペテロさんの舟に乗り込んで岸辺にいたたくさん

の人たちにお話しになりました。そしてお話が終わるとペテロさんに「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい」と言われました。びっくりしたのはペテロさんです。「先生、わたしたちは一晩中働きましたが何もとれませんでした」とすぐには答えませんでした。ペテロさんはずっとガリラヤ湖で働いてきたペテロの漁師です。しかもイエス様が言われた時は、もう夜がすっかり明けた朝でした。普通に考えれば、もう一度漁をするのは、むだな事です。でも、奇跡を起こすことのできるイエス様がおっしゃるのなら、という思いがあったのでしよう。「しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」とペテロさんは答えたのです。するとどうでしょう。とれるわとれるわ。網がはち切れそうになるほどの大漁です。「オーイノ助けくれ」と仲間に応援を頼まなければならぬ程でした。わたしたちも、「これは無理だな」と思ってもイエス様の言葉に従うなら、すばらしい祝福をいただくことができるのです。

人間をとる漁師に

予想もしない結果にペテロさんは目を丸くしました。そしてイエス様に「主よ、わたしから離れてください」とひざまずいて告白しました。あまりにも自分自身が罪に汚れた者であることに気づいたからです。ペテロさんだけでなく、仲間のヤコブさんやヨハネさんも同じでした。そのペテロさんにイエス様が「恐れることはない。今からあなたは人間をとる漁師になるのだ」と言われたので

す。今までは魚をとって来たけれども、これから

は魚ではなく人をとる漁師に、つまりイエス様を知らない人たちにイエス様の福音を伝えて、イエス様のものと導く人になる、という事です。それを聞いたペテロさんたちは、舟や網などいっさいの道具を捨てて、イエス様に従う弟子となりました。イエス様はペテロさんたちを招かれたようにわたしたちを招いておられます。イエス様の弟子となつてイエス様のお手伝いをさせていただく事は、とても大切な、すばらしい事なのです。

結び

今から二百年ほど前のことです。ドイツに住むある青年が有名な美術館にやって来ました。そこに掛けられていた絵を一枚一枚見て回り、ある一枚の絵にさしかかった時です。彼は食い入るようにその絵を見ました。その絵には、いばらの冠をかぶって血を流しているイエス様の十字架が描かれていたのです。そしてその下にラテン語で「わたしはあなたのためにいのちを捨てました。あなたは、わたしのために何をしましたか」と書かれてありました。彼は次々と流れてくる涙を心うとせせずに、何時間もその絵の前に立っていました。やがて静かにそこを去って行きましたが、この時から彼はイエス様の弟子として生涯イエス様にお仕えする決心をしました。この青年とは、モラビア兄弟団の創立者として神様に用いられた、ツィンツェンドルフです。

わたしたちもイエス様の招きにお応えしてイエス様にお従いしましょう。

深いですね。

＜聖書に親しむ＞

ルカ5・1～11を、イエス様、ペテロ、ナレーターとわけて読んでみましょう。暗唱聖句はみんなでもう一度読み、線を引いて覚えよう。

＜りょうじワークをどうぞ＞

ペテロさんからスタートして、暗唱聖句のみことばの魚をぬりながら、イエス様のところまで行ってください。

＜ペテロ、イエスの弟子となる＞

- (つぎのことばはどんな場面か話してみよう)
- ①「なんですって?!」 フロの漁師たちに、大工の子イエスはなんといいましたか? その時の漁師たちの心!
 - ②「それでは」 ペテロさんは「お言葉ですから」と、とても大切なことを言いましたね。
 - ③「おっ、これは」 何がおこった?!
 - ④「ついていきます」 それから――?

＜きょうのおいのり＞

罪深いわたしを、おゆるしてください。わたしもペテロさんたちのように、イエス様のおことばを信じ、そして従います。人間をとる漁師にしてください。イエス様のみ名によって。アーメン。

分 級 A

＜用意するもの＞

聖書物語などで、漁師ペテロの絵などをさがしておく、理解のたすけになる。

＜分級活動例＞

ケンちゃん、マリちゃん。もしイエス様が、「ケンちゃん、これからわたしといっしょにはたらくてくれませんか」といわれたら、どんなお返事をするか。

「マリちゃん、これからわたしのついでをしてください」といわれたら……。どんなお返事をするか。

よろこんで「ハイ!!」とお返事できる? それとも「どうしようかな」って考える? それとも「いやです」というかな。

イエス様といっしょにいて、イエス様のよろこばれるおてつだいをするのを、「弟子になる」というのよ。ペテロさんはもう立派なおとなのおじさんでした。奥さんもち、子どももちだよ。そのペテロさんにイエス様は「わたしの弟子にならなさい」といわれました。すると、すぐペテロさんは「はい、イエス様におしやします」といいました。それまではペテロさんは

お魚をとる漁師さんのおしごとをしていました。でもイエス様のお弟子さんになってイエス様についていったのです。

ケンちゃんは「はい」って、よいご返事ができますか。イエス様は「はい」ってご返事できる人をよろこんでくださいますよ。

では、イエス様に呼ばれたら「はい」って上手にご返事できるように、ちょっと練習してみましようね。先生がみんなの名前を呼びますから、上手に「はい」ってご返事してくださいよ。(「はい」の練習を楽しく。)

＜ワーク＞

お魚に色を塗りましょう。

(できた魚の口のところにクリップをつけ、磁石を先につけた釣糸を作って魚つりをするのも楽しいですよ。)

分 級 B

＜キーポイント＞

ついていこう

＜導入＞

さて、きょうは一番弟子とも言われるペテロさんがイエス様の弟子となつたいきさつです。興味

分級C

キーポイント

ペテロの召命

＜導入＞

最初にイエス様には選ばれた弟子の中の一人がシモン・ペテロさんでした。弟のアンデレさんが兄のペテロさんをイエス様のもとに連れて来たところは以前に学びましたね。今日はシモン・ペテロさんがどのようにイエス様に従うようになったかを学ぶことにしましょう。

＜聖書を読もう＞

ルカによる福音書5章1節～11節を順番に読んでみましょう。今日の暗唱聖句は10節です。線を引いて覚えましょう。

＜質問＞

- ①イエス様はゲネサレ湖（カリヤ湖）のそばで何をこらんにしましたか。
- ②二艘の小舟が寄せてあり、その近くで漁師であるシモン・ペテロさんたちが、舟からおりて網を洗っているのをこらんにしました。
- ③この時のペテロさんたちの気持ちはどのようなものだったでしょうか。
- ④とてもがっかりして、泣きたい思いでした。それは、一晩中網を下ろして漁をしたのに、一匹も魚が捕れなかったからです。

研究資料

週題 ペテロの召命

シモン・ペテロはすでに二度イエスに出会っていた。一度目は、兄弟アンデレに紹介され、イエスからケバという新しい名を与えられたときであり（ヨハネ1:41、42）、二度目はしゅつとめの高熱をイエスに下げていただいたときであった（ルカ4:38、39）。彼はすでにイエスと面識があった。そしてイエスを神の子と信じていた。しかし彼はまだ依然として漁師であった。その彼がここでイエスから召命を受けて、フルタイムの献身者となった。これが彼の生涯の転換点だった。

テキスト

マタイとマルコは、ペテロとアンデレ、ヤコブとヨハネという二組の兄弟の召命を記録している。ところがここでは、イエスとペテロだけの会話である。ヤコブとヨハネのことも述べられている（10節）、アンデレについては触れられていない。このことから、この記事とマタイ、マルコの記事が同一のものであるかどうかという疑問が生じる。どちらとも確定しがたい。

1 イエスはゲネサレ湖畔に立っておられたがマタイとマルコの福音書は、緑の返し「カリヤ

そんな失望しているペテロさんたちをイエス様はじつと見つめておられました。イエス様のもとには、その日もたくさんの人々が神様の言葉を聞きたいと集まっていた。そこで、イエス様はペテロさんの舟を借り、舟を漕ぎ出してそこからお話を始められました。

③お話が終わると、イエス様はペテロさんに何をするように言われましたか（4節）。

●「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい」と言われました。

④ペテロさんはどのように答えましたか（5節）。

●網を洗い、漁の片づけをしていたペテロさんにもう一度漁をするようにイエス様が言われたので、驚くのも無理はありません。

「先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした」とペテロさんは即座に答えました。ペテロさんの漁師である自分たちでさえ収穫がなかったのに、素人のイエス様が何を言われるのか、しかも夜がすっかり明けてしまったこんな時間に漁をする人なんていないのに、と心の中では思ったことでしょう。

ところが、ペテロさんの答えはそれで終わりませんでした。「しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」と言って、もう一度網を取り、舟を漕ぎ出しました。

⑥ペテロさんがイエス様の言われたとおりにした結果、何が起こりましたか（6節）。

●網が破れそうになるほど、たくさん魚が捕れました。慌ててペテロさんは仲間のヤコブさんやヨハネさんに助けを求めて、二艘の舟に捕れた

魚を入れましたが、舟が沈みそうになるほどの大漁でした。

⑥これほどの素晴らしい祝福を受けたのはどうしてですか。

●ペテロさんがイエス様の言葉に従ったからです。ペテロさんは思わず地にひれ伏し、イエス様に「主よ、わたしから離れてください」とお願いしました。こんな驚くべきことを行えるのは、イエス様が神の子だからであり、このきよいお方の前に、自分はとても出ることのできない罪人であることをペテロさんは認めました。

そのペテロさんに対して、イエス様は優しく、恐れることはない」とお声をかけられました。そして、「今からあなたは人間をとる漁師になるのだ」と言われました。

⑦「人間をとる漁師」とはどういう意味でしょうか。

●人々をイエス様のもとに導く働きをする人のことです。この言葉を聞いて、ペテロさんはすぐに網も舟も捨ててイエス様に従っていきました。こうして、ペテロさんは、イエス様の招きにお応えしてイエス様の弟子となったのです。

イエス様はわたしたちをも弟子となるように招いてくださっています。わたしたちもイエス様の招きにお応えして、イエス様の働きのお手伝いをさせていただきます。

＜祈り＞

心を合わせて祈りましょう。イエス様のみ言葉に従ったペテロさんのように、わたしたちもイエス様のみ言葉に従うことができますように。わたしたちを人間をとる漁師にしてください。

祝福を得た秘訣であった。

8 これを見てシモン・ペテロは、「主よ、わたしから離れてください。」神の力が示されるときに、多くの人は自分の罪を示される。不漁を大漁になされた神の子イエスの力ときよさの前に、ペテロは、自分の不信仰と高慢の罪を示され、ひれ伏して悔いた。それは単なる後悔程度のものではない。イエスに自分から離れていたがなければならぬ、自分は一歩も主に近づくことができない罪深い存在であると、主の前にひれ伏して悔い改めたのである。

10 恐れることはない。神の栄光を前にして自分の罪深さにおののいたペテロに対する、主のゆるしと励ましのお言葉である。主は我らにいつもこのようにして近づきたもう。

10 今からあなたは人間をとる漁師になるのだと「主」はギリシャ語では「生け捕りにする」である。主は悔い改めたペテロをゆるし、さらに福音を伝える者、すなわち主の弟子として召しを与えられた。主は、十字架のあがないをもって我らのすべての罪をゆるし、すぐに不信仰にながちな弱い我らを、血潮のゆえに受け入れ、召命を与え、ご自身の弟子とされる。それは、滅びゆく魂を生け捕りにし、主のもとに連れて行くためである。

11 そこで彼らは、いっさいを捨ててイエスに従った。主の召しに対する応答として、彼らは網も舟も捨て、父をも置いて（マタイ4:20、22、マルコ1:18、20）、主に献身した。

●週題 罪人を招く
●聖書 マタイによる福音書9・9～13
●暗唱聖句 わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである。 マタイ9・13
●目標 マタイの召命の記事を通して、罪人を招いて用いられる神の愛を教える。

導入

先週は、漁師ペテロさんがイエス様の弟子にしていたお話をお話を聞きましたね。イエス様に一言お声をかけられると、だれも喜んで従うのです。イエス様がどんなに素晴らしい方がわかりますね。今日もイエス様が弟子となる人を招かれたお話です。

取税人マタイ

みなさんはマタイという名前を聞いたことがあるでしょう。マタイによる福音書を書いたマタイさんです。マタイさんはイエス様の弟子として素晴らしい働きをした人です。ところがイエス様に会おう前は、取税人と言う、人々から税金を取りたてる仕事をしていました。当時の取税人は、人々から無理やりお金を取り立てていたのだといってお金持ちでした。人々は、そんな取税人マタイさんをよく思っていないでいました。マタイさんも、

人々から嫌われれば嫌われるほど心をねじ曲げて、「金があれば、あとは何もいらぬ。金がすべてだ」と開き直っていたのです。でも心の中では、このままでいいのかなと、絶えず不安がありました。できることなら、全く違う生き方をしたいと思っていました。友だちがたくさんできて、人々に愛されて、笑いがあつたり、あいさつしたり、そんな生き方ができたらどんなに楽しいだろうと思っていたのです。

わたしに従ってきなさい

そんなある日、マタイさんが、いつものように税金を取り立てる所にすわっていたとき、イエス様が通りかかられました。イエス様は、マタイさんの前で立ち止まり、彼をじっと見つめられました。イエス様は、マタイさんがいつも寂しい思いでいることをご存じでした。マタイさんをこらんなった目は、とても愛に満ちたものでした。

マタイさんのほうも、イエス様を見ました。そして、自分に向けられている眼差しから、このお方はどこか違うと感じました。

イエス様はマタイさんに言われました、「わたしに従ってきなさい」。イエス様のお声を聞くと、彼はすぐに立ち上がりました。イエス様の優しい眼差しと、その一言によって、「このお方に従っていけば自分の生き方は変わる」と思ったからです。今まで「金がすべてだ」と思っていたマタイさんは、イエス様と出会って、お金の奴隷ではなく、イエス様の弟子となりました。

分級 A

ワーク

まず○×カードに色をぬり、使えるようにする。
(教師が前もって準備していてもよい。)

分級活動例

- ① イエス様はどんな人が好きでしょうか。○「X」カードでこたえてみましょう。
 - わがままな子
 - やさしい子
 - なきむし
 - いじわるっ子
 - がまんの子
 - うそつき
 - うそつかない子
 - 「はい」って見える子
 - いじめっ子
 - 「いや」ばかりいう子
 - なぐさめてあげる子
- ② ケンちゃんとマリちゃんはどっちの子ですか。○「X」カードでこたえてみましょう。(くさかえす)
- ③ マタイさんは、みんなが「X」っていったよう

分級 B

結び

わたしたちも「X」が多かったね。でもイエス様に「わたしに従ってきなさい」っていわれたら「はい」っていいでしょうね。そして、神様のよいおしここのできる人になっていただきましょう。

罪人を招くため

新しくされたマタイさんは、心からの感謝をもって、イエス様と弟子たちを夕食会に招待しました。そこには、今までの仲間だった取税人たちも一緒に座っていました。

するとパリサイ人たちは、弟子たちに「なぜあなたたちの先生は、罪人たちと一緒に食事をするのか」と悪口を言いました。それを聞かれたイエス様は、「わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためです」と言われました。

イエス様が来られたのは、パリサイ人たちのように、自分には罪などない、私はよく正しい人間だと思っている人を招くためではなく、自分の罪が分かって、救われたいと求めている人を招くためなのです。イエス様が十字架にかかれたのは、そのような心砕かれた罪人を招いて救うためだったのです。

イエス様は、マタイさんを招いて罪から救われただけではなく、後に福音書を書くように導かれました。神様は、罪人を招いて、ご自身のためにお用いになる愛の神様なのです。

結び

わたしたちもイエス様に招かれています。私には罪などない、という高ぶった思いはありませんか。「わたしは罪人です」と、へりくだった心で主の前に出ましょう。神様は喜んでわたしたちの罪をゆるし、神様の働きのために用いてくださいます。

キーポイント

したがおう

導入

イエス様のようなすばらしい方の弟子になれたペテロたちはしあわせですね。りっぱな人や、かしこい人しか、イエス様の弟子にならないのかな？いいえ、そうではないですよ。きょうはマタイさんのことを学びました。人間のわたしたちが考えたり、おこなったりすること、神様が思ったり、なさったりすることはすいぶんちがうことがわかります。やっぱり、神様はすばらしい！

聖書に親しむ

マタイ9・9～13です。短いところなので、みんなでゆっくりいっしょに読みましょう。暗唱聖句にはいつものように、赤線を引いておぼえます。

でしワークをしましょう

イエス様が招いておられる人とは、どんな人？じょうぶな人には医者はいらぬと言われましたね。イエス様と、招かれている人との線を結びましょう。

きょうの決心

- ① 罪人を招かれるイエス様の愛に感激して罪をおわびし、マタイさんのようにイエス様に従おう。
- ② 平気で罪を犯しているお友だちにもイエス様のことを伝え、教会へさそおう。

分級C

〈キーポイント〉

罪人を招かれるイエス様

〈導入〉

先週は、漁師であったベテロさんたちが、イエス様の招きにお応えしてイエス様の弟子となったことを学びました。今日は、マタイによる福音書を書いたマタイさんが、どのようにイエス様の弟子となったのかを学んでみましょう。

〈聖書を読もう〉

マタイによる福音書9章9節〜13節を開いて、順番に読んでみましょう。13節の後半が今日の暗唱聖句です。線を引いて覚えましょう。

〈質問〉

①このとき、イエス様はだれが何をしているのをごらんになりましたか(9節)。
●マタイさんが収税所にすわっているのをごらんになりました。

収税所とは、ユダヤ人がその商品への税金や道路、橋などの通行税を納めた場所のことです。そこにマタイさんがドカッと腰をおろしてすわっていました。

②マタイさんの仕事は何でしたか。

●収税人と言って、ローマ政府に納める税金をユダヤの人々から取り立てる仕事をしていました。

その頃の収税人は、ローマに納める金額より多く取り立てて、余分は自分のものとしていたので、人々からは嫌われていました。みなさんはザアカイさんの話を聞いたことがありますか。ザアカイさんもマタイさんと同じ収税人でした。

イエス様が近くにいられた時、マタイさんはいつものように目を光らせながら通り行く人たちを調べていた事でしょう。

③イエス様がマタイさんに、「わたしに従ってきなさい」と言われた時、マタイさんはどうしましたか。

●すぐに立ち上がってイエス様に従いました。マタイさんにはたくさんのお金があり、なんでも欲しい物を手に入れることができたでしょう。また食べたい物はなんでも食べることができたかもしれません。しかし、それらの物はマタイさんの心を満足させることはできませんでした。そんな時にイエス様がお声をかけてくださったのです。マタイさんは、イエス様の招きを聞いたときにすぐに従いました。マタイさんにとってイエス様にお会いしたことはどんなに大きな喜びだった事でしょう。

④「イエスが家で食事の席についておられた」とありますが、その家とはだれの家でしょう(ルカ5・29)。

●マタイさんの家です。彼は早速イエス様と弟子たち、それに多くの収税人や罪人と呼ばれる人たちを招いて、盛大な食事を開いたのです。

⑤食事会の最中、多くの収税人や罪人と呼ばれる人たちがそこにいるのを見て、面白く思わない人たちがいました。どういった人たちですか。

●パリサイ人たちです。彼らはイエス様の言われる事、なされる事に一つ一つ文句を言っていました。またいつも他の人と比べて自分たちが正しく、立派だと思っていました。そのパリサイ人たちにとっては、イエス様が収税人や罪人と呼ばれる人たちと食事をしておられたのが不思議でなりませんでした。

⑥イエス様はだれを招くためにこの世にいられたのですか。

●罪人を招くためです。イエス様が言われた「罪人」とは、きよい神様の前に自分の心がきよくないことを自覚している人のことです。彼らは、自分たちには救い主が必要であると十分認めているのです。

⑦それでは、「義人」とはどういう人のことだとイエス様は言われたのでしょうか。

●パリサイ人たちのように、自分たちはきよく正しい人間だと思いこんで、人を簡単にさばく人たちのことです。イエス様はこのようないい人を悲しまれました。彼らこそ、イエス様の救いが必要とする人たちなのです。

今日わたしたちは、イエス様が何のためにこの世に来てくださったかを学びました。病気になるれば、だれでも医者さんを必要とします。イエス様は、マタイさんのように罪のために悩み苦しんでいる人、本当に救いを必要としている人を招いて救い出して下さるために、来てくださいました。わたしたちも、罪人を招かれるイエス様の愛に感謝して罪を悔い改め、イエス様に従いましょう。

研究資料

週題 罪人を招く

漁師ベテロの召命に続いて、収税人マタイ(マタイによる福音書の記者)の召命である。前者は貧しいけれども善人とみなされており、後者は裕福であるが罪人と同等(11節)と見られていた。しかし、イエスの前には、どちらも救われなければならない罪人で、主は彼らを分け隔てのない愛をもって見いだされ、弟子として召されたのである。

テキスト

並行記事はマルコ2・14〜17、ルカ5・27〜32である(名はしじとなつてゐる)。イエスは、中風の者に「子よ、しっかりとしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」と言われ、「ご自身が罪をゆるす権威を持つておられることを示された(2〜8節)。その後、ユダヤ人たちからもっとも嫌われていた収税人マタイを弟子とされた。したがって、中風の者のいやしとマタイの召命の二つの物語は、罪人を招くイエスの姿を示す連続した記事である。

9 マタイという人が収税所にすわっているのを見て、収税所とは、ユダヤ人が商品への税金、道路および橋などの通行税を納めた場所である。マタイのいた収税所はおそらく、ヨルダンの東側にあったヒリボの領土から、ヘロデ・アンティパス

の領土であったガリラヤに入っていく商品に課せられた税を集めた所であろう(日本基督教団出版局『聖書事典』五二〇ページ参照)。福音書に出てくる収税人は、ユダヤの総督に雇われている事務官であった。彼らはユダヤ人でありながら異邦人の政府に仕えており、また民衆をきりぎりまで搾取したので、人々から罪人、遊女、異邦人と同等に考えられていた(同五一五ページ参照)。

「わたしに従ってきなさい」と言われた。するとイエスは、この収税官に「我に従え」と言われた。すると彼は何のちゅうちょもなく、ただちに従った。彼は裕福であったが、それだけでは満たされない何かを覚え、心に渇きを感じていたと思われる。だからこそ、権威ある主の招きの言葉に、即座に応答したのであろう。収税所に座っているかぎり生活の安全は保障された彼が、全く不安定な生活に入ろうとするのは、彼にとって一大決心を要する選択であった。しかし、自分をこらへんになる主の視線に出会い、権威ある言葉を聞いたとき、自分の生涯をこのお方に賭けようという決断ができたのであろう。

10 それから、イエスが家で食事の席に、ルカによれば、これはマタイの家である。彼は、自分のような者を招いたもうた恵みを感じて、イエスを自宅に招待した。

10 多くの収税人や罪人たちがきて、罪人とは、書かれた律法や口伝(くでん) 律法の多くの儀式的な定めを守ろうとしないため、パリサイ人たちから罪人であると考えられていた人たちのことである。

ある。厳格なユダヤ人は、収税人や罪人たちとは決して食事を共にしなかった。したがって、パリサイ人たちが主の弟子たちを非難したのは当然であった(11節)。ただ彼らは、直接イエスを攻撃することを恐れた。

12 丈夫な人には医者はいらぬ、だれにもわかる明白な事実を表現しており、またなぜパリサイ人がイエスを軽蔑したかを説明している。彼らは、アブラハムの子孫であると自負し(3・9)、自分には罪がないと思込んでいた。ちょうど、病人であるのに健康だと思っているため、医者の必要性を自覚していない人のようだと、イエスは皮肉をこめて言われたのだ。イエスは罪という魂の病をいやす医者である。この医者の必要性を知っているのは、自分が病人つまり罪人であることを自覚し、いやしを求めている人である。イエスと食事を共にしていたのは、そういう人たちであった。

13 わたしが好むのは、あわれみであって、ホセア6・6参照。小預言書の基調をなす特色の一つは、儀式主義ではなく義を要求するところである。パリサイ人は、律法の行いや儀式によって自らの義を立てようとしたが、神が求めたもうのは、信仰に基づく愛とあわれみによる義であった。

13 わたしがきたのは、義人を招くためではなく、イエス来臨の目的は、自分自身を正しいとする自稱「義人」を招くことではなく、自らの罪を認め、罪を嘆いている罪人を招いて救うことであった。キリストの十字架の救いは、へりくだって、砕かれた心で悔い改めた魂におよぶのである。

- 週 題 十二使徒の選び
- 聖 書 マルコによる福音書3・13・19
- 暗唱聖句 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。 ヨハネ15・16
- 目 標 十二使徒と同じようにわたしたちも神に選ばれていることを感謝する者となる。

導入

学校のクラスで、係や委員を決めるとき、みんなの中から選ぶという方法をとることがあります。そんなときは、この人がその係にぴったりだと思つて、推薦したり投票したりしますね。イエス様の弟子たちはどうだったのでしょうか。

選ばれた使徒たち

先週までに学んだように、漁師のペテロさんも、取税人のマタイさんも、すでにイエス様の弟子になっていました。そのほかにも、多くの人たちがイエス様に従ってきたことでしょう。イエス様は、その中から自分の働きを進めていくにあたって十二人の弟子たちを選ばれました。そのために一晩中寝ないでお祈りをなさいました。そして山に登り、みこころにかなった人たちを呼び寄せられ、その中で十二人を使徒としてお立てになったのです。

分 級 A

〈分級活動例〉

このあいだペテロさんがイエス様のお弟子さんになったお話をきいたね。おぼえてる？ イエス様は、ペテロさんだけでは足りなくて、こんなにたくさんの人たちをお弟子さんにしましたよ。

さあ、この名前をみんな読んでみようか。しつているお名前があるかもしれないよ。

(ゆつくりみんなで見よう)

たくさんだったね。さて、みんなで何人いるでしょう。かぞえてみてごらん。

うわっ、十二人もいたね。

この人たちはみんな、イエス様が「わたしについてきなさい」といわれたとき、すぐに「はい」とお返事をして、ついてきた人たちばかりです。このお弟子さんたちは、イエス様といつもいっしょでした。ごはんを食べるときも、ねるときも、どこかへ行くときもいっしょにいて、イエス様の伝道のおてつだいをしました。

イエス様は、今でもわたしたちに「わたしについてきなさい」といわれるのよ。イエス様を信じる人はみなイエス様の弟子になるのよ。ケンちゃんもマリちゃんもイエス様の弟子になるのよ。イエス様はケンちゃんとマリちゃんをちゃんと選ん

イエス様によって選ばれた使徒たちは、弟子の中のリーダーのペテロ、セバダイの子ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネ(ヤコブとヨハネはすぐにカッとなり、おこっていましたから、イエス様から「かみりの子」とあだ名がつけられていました)、ペテロの兄弟アンデレ、ピリポ、バルトロマイ(別の名前ナタナエル)、先週学んだ取税人マタイ、とても研究熱心なトマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ(別の名前ユダ)、熱心党のシモン、イエス様が十字架にかかれる時、自分からイエス様を裏切ってしまったイスカリオテのユダです。実にバラエティーに富んだ人たちでした。イエス様はこうした使徒たちを自分のそばに置いて訓練されました。そして、あらゆる所に出て行ってイエス様の恵みをお伝えするために遣わしになり、悪霊を追い出す権威をお授けになったのです。

主の選び

十二使徒として立てられた人たちは、自分たちのほうから、「わたしたちを選んでください」とイエス様に申し出たのでしょうか。いいえ、そうではありませんね。彼らがイエス様を選んだのではなく、イエス様が彼らを選ばれたのです。

では、彼らは特別な人たちだったのでしょうか。ほかの人に比べて特に頭がよいとか、特に意志が強いとか、知識やお金のある人だったのでしょうか。いいえ、ほかの人とどこも変わらない、普通の人の人たちでした。十二使徒に選ばれる価値が彼らにあったのではなく、ただイエス様が「みこころ

でくださっているからね。

よかったね。イエス様のおてつだいができるね。

〈ワーク〉

十二人の使徒たちの絵を切り取ってカードにしましょう。字のかける子どもには裏面に名前を書きこんでもらってもいいです。左から右へ、上から下へと、聖書の順に並べられています。ペテロやマタイの名前が覚えられれば最高。七月二日の五人の弟子たちはどれでしょうか。

〈あそび〉

「伝言ゲーム」

☆一列にならんで、一番のお友だちにそつと耳もとで弟子の名前を一人つたえましょう。かんたんな名前やむつかしい名前を伝えてみましょう。

一番最後のお友だちは、聞いたままを大きな声でいってください。正しく伝えられるかな。

分 級 B

「キーポイント」

えらばれてるよ！

〈導入〉

イエス様がお選びになったお弟子さんたちにつ

にかなった者たち」と思われて、選ばれたのでした。

選ばれた私たち

今日のみ言葉には、わたしたちが神様を選んだのではなく、神様がわたしたちを選んでくださったことがはっきりと書かれていますね。いつもこの順序をしっかりと覚えておきましょう。

神様は、わたしたちが神様に背を向けて罪を犯していた時から、いいえ、実は生まれる前からわたしたちを選んでくださったのです。わたしたちはいろいろなきつかけがあつて教会学校に来ていますね。お父さんお母さんと一緒に来ている人、お友だちに誘われて来るようになった人、チラシやポスターなどを見て来ている人：みんながいます。しかし、神様はすばらしい計画をもって、わたしたち一人ひとりを導いてくださっているのです。神様は、わたしたちを神様の大きな愛をもって選んでくださいました。それは、わたしたちを通して、神様のお働きが進められるためなのです。そして、神様はすばらしい栄光を現わしてくださいます。

結び

神様は、わたしたちをも選んでくださっています。わたしたちを選んでくださった神様に感謝しながら、イエス様の弟子としてイエス様にお従いしましょう。

いて、いろんなことを考えると、とてもうれしいなあ、とおもいませんか？ さあ、いよいよ、イエス様が「てつや」までして、そつ、夜もねないでお祈りして決めた、十二人のお弟子さんたちのことです(ルカ6・12)。

〈聖書に親しむ〉

マルコ3・13・19です。

きょうのところは短いので、みんなでゆつくりいっしょに読んでみましょう。いろんな力カチナの名前が出てきてちよつと大変だけど、がんばろう。暗唱聖句はヨハネ15・16です。そこも聞いて、みんな読んで、線を引いて、しっかりと覚えましょう。

〈でしワークをしよう〉

ワオー！ 文字パズル！ 十二人のお弟子さんがかくれています。ぬつていって、一度もつかわないで残った文字をくみあわせるとどうなる？

〈えらばれてるよ！〉

きょうの暗唱聖句は、十二人の弟子たちがイエス様に選ばれたように、わたしたち一人ひとりも神様が選んでくださっているということを覚えてくれます。神様が選んでくださっているから、とっても心強いですね。選んでくださった神様に感謝して、従っていきましょう。

〈歌つて覚えよう〉

『ふくいん子どもさんびか』13番で十二弟子の名前を覚えましょう。

分級C

〈キーポイント〉
選ばれた者

〈導入〉

わたしたちがなにかに選ばれて、その代表となるのはとても嬉しいことですし、光栄なことですね。クラスの学級委員に、野球やサッカーのレギュラー選手に、発表会の劇の主演に、運動会のリーダーに……。いろいろな選びがあります。でも、今日の言葉のように、わたしたちが神様に選ばれることは喜びに満ちた素晴らしい恵みはありません。

今日は、イエス様がご自分の働きを進めるにあたって、数多くいる弟子の中から特別に、「使徒」と呼ばれる十二人を選ばれた所を学びましょう。

〈聖書を読もう〉

マルコによる福音書3章13節～19節を開いてください。短い所です。声をそろえて一緒に読んでみましょう。

〈質問〉

①イエス様が使徒として選ばれた十二人の名前を挙げてみましょう。

研究資料

週題 十二使徒の選び

ペテロが召され、マタイが召され、こうして主の弟子選びは進んでいったが、このような言わば一本釣りの弟子選びのうちに、それとは別に、ここでは十二使徒の選定が行われた。主は、あらかじめ選ばれた弟子たちの中から、特に十二人を選任されたのである。ガリラヤ伝道の初めに、これら十二人が立てられたのは、福音が全世界に宣べ伝えられていくために、弟子づくりは不可欠だったからである。

テキスト

並行記事はマタイ10・1～4、ルカ6・13～16である。小島伊助師の『キリスト伝』によれば、それぞれに違った理由がある。マタイは手不足(9・37、38)、マルコはみそばに置くため(14節)、ルカは徹夜の祈りの後(6・12)である。そしてこれらすべてが、暗唱聖句の「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである」に凝縮されている。

13 みころになつた者たちを呼び寄せられたので、「みころになつた」は、「希望する」というギリシア語だが、お気に入りの者たちという意味ではなく、「選ばれた者」(詳訳)という意味

- 元の名はシモン。元漁師。(ペテロ)
- ゼベダイの子。元漁師。(ヤコブ)
- ヤコブの兄弟。元漁師。(ヨハネ)
- ペテロの兄弟で、ペテロをイエス様のもとに連れて来た人。元漁師。(アンデレ)
- ナタナエルをイエス様のもとに導いた人。(ピリポ)
- 別名ナタナエル。(バルトロマイ)
- 元取税人。福音書を書いた人。(マタイ)
- デドモと呼ばれた人。(トマス)
- 小ヤコブと呼ばれた人。(アルパヨの子ヤコブ)
- ヤコブの子ユダと呼ばれた人。(タタイ)
- 熱心党員だった人。(シモン)
- 後にイエス様を裏切った人。(イスカリオテのユダ)
- ②どのような人がイエス様のもとに呼び寄せられたのですか(13節)。
- 神様のみころになつた人たちです。弟子たちの方に、何か神様から選ばれる資格があつたから選ばれたのではありませんでした。
- ③イエス様は何のために十二使徒をお立てになつたのですか(14～15節)。
- ④ご自分のそばに置かれて、訓練を与えるためです。弟子たちはすぐに疑ったり、不信仰になつたりする人たちがでした。ですから、イエス様のおそばでイエス様に信頼することを学び、イエス様のお働きのよき備えをする必要がありました。
- ⑤宣教に遣わすためです。ある時、イエス様はたくさんの方を前に連れて来て、救いたいのと願っている人が大勢いるのに、救いの知らせを伝える人がいないことに気づかれました。そして、「収穫

である。ペテロをはじめとして、すでに選ばれていた多くの者を主は呼び寄せられた。弟子たちはみな主のみころになつた者たちであつた。(ルカ10・1には、イエスが七十二人を選び、二人ずつ組にして町々に派遣されたことが記録されているから、多くの弟子がいたことがわかる。ただし、時期的には七十二人の選定は、十二人の選定の後である。)

- 14 そこで十二人をお立てになつた イエスは、イスラエルの十二部族への伝道旅行に派遣するため、十二弟子をお選びになつた。十二部族の境界は、昔のままで残っていた。捕囚から帰還した者も捕囚地に残った者も含めて、十二部族を代表する者があつたに過ぎない。十二弟子の派遣は、「イスラエルの家の失われた羊」(マタイ10・6)のところへのものであつた。
- 14 彼らを自分のそばに置くためであり、この選定には二重の目的があつた。①みそばに置くためと、②福音宣教のためであつた。この二つには密接な関係がある。すなわち、前者は後者の準備であり、前者は後者に優先するということである。主のみそば近くに置かれて、恵みを受け、養われ、後、初めて宣教に遣わされることのできる。「我におれ」(ヨハネ15・4)があつて後、「行って実を結び」(同16)があるのと同じ関係である。主との交わりは、主を宣べ伝えることに先行しなければならない。
- 15 また悪霊を追い出す権威を持たせるためであつた この権威はイエスが神から授けられたものであつた。

は多いのに働き人が少ない」と嘆かれたのです。イエス様は救いを求めている人々のもとに派遣するために、使徒たちを選ばれました。

③悪霊を追い出す権威を持たせるためです。宣教の働きは、悪の霊との戦いです。悪の力に打ち勝つためには、使徒たちは神様の大きな力をいただくなければならなかつたのです。

④イエス様は使徒たちを選ばれたために何をされましたか(ルカ6・12)。

●祈るために山に登られ、徹夜で父なる神様に祈られました。それほど、十二人の使徒を選ばれるのは、イエス様にとつてとても大切な働きだったのです。

⑤それでは、今日の暗唱聖句を開きましょう。ヨハネによる福音書15章16節です。ここには、だれが使徒たちを選んだとあります。

●イエス様です。イエス様の方から、十二人の使徒をお選びになりました。同じように、神様はわたしたち一人ひとりをも、大きな愛をもって選んでくださっています。

⑥神様がわたしたちを選ばれた目的は何ですか。

●「あなたがたが行つて実をむすび」とあります。つまり、宣教の働きのために選ばれたのです。そして、わたしたちを選んでくださった神様は、いつもわたしたちと共にいてくださり、わたしたちの祈りに答えて、大切な神様の働きをする力をも与えてくださいます。

この神様の選びに感謝して、わたしたちも神様のお役に立つ者とならせていただきます。

であつたが、主はそれを十二人にも与えられた。病人をいやすことと悪霊を追い出すことは、福音宣教の中心的な内容であつた。

16 そしてシモンにペテロという名をつけ 十二人の名簿は、共観福音書すべてに載せられているが、いずれもペテロが筆頭である。しかし、これによって彼が主の一番弟子であつたとは断言できない。この名簿での顕著な特徴は、ヤコブとヨハネがポアネルゲ、すなわち、雷の子と名づけられたことである。「ポアネルゲ」は説明困難な語で、アラム語かヘブル語の誤訳と考えられているが、とにかく彼らはそう呼ばれるほどおこりっぽい性格であつたようである。主はそんな彼らをも召し、主の働きに用いられた。ヨハネなどは明確に造り変えられ、愛の人となつた。

18 熱心党のシモン 熱心党とは、紀元一世紀ころ活動した、狂言的ユダヤ民族主義者の結社で、「神のために熱心な者」と自称していた。シモンはその党員であつたが、主の弟子に召され、真の意味で主のために熱心な者に変えられた。

19 それからイスカリオテのユダ。このユダが「みころになつた者たち」しかもその中の十二弟子の中に裏切り者がいた。イエスは彼が裏切ることをご承知のはずであつた。しかし、主はご自分が捨てられ、十字架につけられるという方法で、全人類のあがないが全うされることをも知つておられたために、彼を十二人の中から除去されなかつたのだ。彼が十二弟子の一人であつたことも、神のご計画であつた。

振起日
週題 地の塩・世の光
聖書 マタイによる福音書5・13・16
暗唱聖句 あなたがたは、地の塩である。
あなたがたは、世の光である。
マタイ5・13、14
目標 地の塩・世の光として、この世に生きるとはどういうことを教える。

導入

今月は、山上の教えと言って、イエス様が山の上から数多くの人々に語られた、とても大切な教えを学びます。

地の塩

イエス様はわたしたちのことを「地の塩である」と言われました。一体どのような意味で言われたのでしょうか。塩の役目について考えてみましょう。塩にはものに味をつける働きがあります。塩はまわりの味をひき立ててくれるのです。みなさんはおせんさいを食べたことがありますね。せんさいを作るときにも、ほんの少しだけ塩を入れるのです。そうすると、とてもおいしいせんさいができます。

また、塩には食べ物が腐るのを防ぐ役目があります。塩をしみこませるなら、そのままでは腐ってしまう野菜なども、長く持ちますね。

そのように、塩は目立ちませんがとても大切なもので、わたしたちの生活に欠かすことはできません。

せん。イエス様がおっしゃった「地の塩」とは、あまり目立たなくても、なくてはならない大切な人であり、まわりの人がなにか悪いことをしようとする時に、それはいけない事だよ、と教えてあげられる人のことなのです。

世の光

イエス様はさらに「あなたがたは世の光である」と言われました。光も塩と同じように、わたしたちの生活になくてはならない大切なものです。光の役目もいろいろありますね。まず、光はまわりを明るく照らします。暗くて何も見えない部屋でも電気のスイッチをつけると明るくなります。暗い道を歩く時には懐中電灯は欠かせません。

また、光はそこに何があるのかをわたしたちに教えてくれますね。灯台は、真っ暗な海を航海する船に、陸が近いことや危険な場所がどこにあるのかを教えます。

このように、光にはとても素晴らしい役目があるのです。神様がわたしたちに願っておられることは、わたしたちが世の光として輝いてイエス様をまわりの人にお知らせすることです。もし、灯台が光を照らすとき時に照らさなければどうでしょう。船どつしがぶつかってしまい、大変な事故になるかもしれませんね。神様は、わたしたちが光の役目を果たすことを願っておられるのです。ではどうすれば世の光として輝くことができるのでしょうか。わたしたちがいつでもイエス様におすがりして「世の光として輝かせてください」とお祈りするなら、ちょうど月が太陽の光を反射

して暗い夜を照らすように、わたしたちを光として輝かせてくださるのです。

「まばたきの詩人」とは、かつて長野県に住んでおられた水野源三さんのことです。水野さんは小学校四年生の時に高熱がいつこうに下がらず、とうとう目と耳がきける以外からだ全体が麻痺してしまいました。水野さんはもちろん、家族の人たちも失望のどん底におちいりましたが、ある牧師先生を通して、一冊の聖書が届けられたのです。聖書を読んでいくうちに、水野さんはイエス様を信じて救われました。うれしくて仕方ありません。なんとかしてイエス様をお伝えしたいと思った水野さんは、詩を作ることにしました。お母さんが五十首図を書いて棒で一つ一つ文字を指し、その文字を水野さんが見てまばたきをしてお母さんが書きとめる、というやり方です。水野さんは素晴らしい詩を数多く作りました。その詩によってどれだけの人が心励まされたり、イエス様を信じるようになったか分かりません。町の人たちは口をそろえて「源三さんはわたしたちの誇りです」と言っているのです。今は天国にあってイエス様と共にいられます。その生涯はまさに地の塩、世の光の生涯でした。

結び

わたしたちのまわりには数多くの人たちが罪のために悩み苦しんでいます。わたしたちを通して一人でも多くの方が、イエス様を信じることをできるならどんなに素晴らしいことでしょう。わたしたちも地の塩、世の光として神様に用いていただきましょう。

分級 A

＜教師メモ＞

夏休みが終わって最初の日曜日です。休みがちだった子どもたちを「振るい起こす」ために定められたのが振起日ですが、ただ起こしては何にもなりません。イエス様をもっと好きになれるように、愛をもって教えましょう。

今月は山上の教えです。第一回目の今週は、塩の働きは少しむずかしいので、光のほうに重点をおきます。暗唱聖句も後半だけで良いでしょう。水を入れた洗面器を用意しておいてください。

＜分級活動例＞

夏休みが終わったね。ケンちゃんもマリちゃんも、まだ元気に幼稚園にいらっているかな。きょうは「ひかり」探しをします。

この洗面器を見てください。太陽にあたって、水がキラキラひかっていますね。これがひかりです。じゃあ、こちらの物置（あるいは押入）を見てみましょう。ケンちゃん、入ってみる？ 中はどうですか？ まっくらだね。でも外に出ると、あかるいね。これがひかりです。お部屋の電気を消してみようかな。暗くなりますね。でも、もう一度電気をつけると、明るくなりますね。これが

ひかりです。

マリちゃんは、暗い所と明るい所と、どちらが好きですか。明るい所だね。明るいのは、どこかに光があるからです。

イエス様は、あるとき、弟子たちを連れて小さな山の上に登られました。そして、「あなたがたは世の光である」と言われたのです。ではどうしたら世の光になれるのでしょうか。

イエス様は自分のことを「わたしは世の光である」と言われました（ヨハネ8・12）。その大きな光であるイエス様と一緒にいたら、ケンちゃんもマリちゃんも、「光の子」になれるのですよ。

『ぶくいん子どもさんびか』86番の「わたしは小さい火」を一緒に歌いましょう。

＜ワーク＞

ろうそくを作りましょう。きれいに色もぬってくださいね。

分級 B

＜キーポイント＞

ひつかるんだ！

＜導入＞

八月にはイエス様の弟子になった人たちについて学びました。その弟子にイエス様はどんなこと

＜聖書に親しむ＞

マタイ5・13・16です。二つのグループにわかれて、一節ずつ順番に、読みましょう。暗唱聖句は線を引いて覚えよう。

＜ひつかるんだワークをしよう＞

この世（わたしたちのまわりの世界）には、くさったようなことが多くあります。その中でピリッときく塩のような子はだあれ？ くらくて、なさないことの多いこの世の中に、光のようにピカッとかがやいている子はだあれ？ その子の色を好きな色でぬりましょう。そのほかにいろいろなひかっている子のお話を話して合ってみましょう。イエス様にしたがり子は、みんなひかる子になります（ヨハネ8・12）。

＜きょうのおいのり＞

わたしも家の中で、学校の中で、友だちの中で、塩や光のような子どもになれるよう、お守りください。アーメン。

分級C

キーポイント

地の塩・世の光

〈導入〉

お塩をたくさん使って作る食べ物は何ですか。つめものですね。秋に大根や白菜のつめものを作るお母さんがいるかもしれません。塩をたくさん使うなら、そのまま放っておくとやがては腐ってしまう野菜も長持ちしますね。塩には食べ物に腐るのを止める働きがあることがわかります。

また、みなさんはこの夏に花火をして遊びましたか。花火は明るい昼間にはしませんね。暗い夜の空に打ち上げる花火はとてもきれいで、パッとあたりを明るくします。花火はすぐに消えますが、暗い所でろうそくをつける、まわりを明るく照らしてくれますね。

イエス様を信じる人は、この世の中でちょうど塩や光のような役目をするのです。

〈聖書を読む〉

マタイによる福音書5章13節、16節を声をそろえて読んでみましょう。13、14節の「あなたがたは…」というところが今日の暗唱聖句です。しっかり線を引きましょう。

〈質問〉

①イエス様はわたしたちのことを何にたとえられ

たでしょうか。

●「地の塩」「世の光」にたとえられました。

②塩にはどんな役目がありますか。

●食べ物に味付けをしたり、腐っていくのを止める働きがあります。わたしたちにも、神様を知らず、罪に満ちているこの世界で、罪の腐れを塩のように止めていく役目があります。たとえば、みんなが悪い方に行こうとする時に、それはいけないことだと教えてあげるのが「地の塩」としてのわたしたちの務めなのです。

③もし塩の効き目がなくなったら、その塩はどうなりますか。

●何の役にも立たないので、外に捨てられて、人々に踏みつけられてしまいます。わたしたちもイエス様を心から信じ、イエス様に従っていないと、塩の効き目がなくなって、神様のお役に立たなくなります。

④光にはどんな役目がありますか。

●まわりを明るく照らすのが光の働きです。周囲が暗ければ暗いほど、光はますますその輝きを放ちます。

光のない暗い所では、汚いものや危ないものが見えませんが、光がその周りを照らすと、どこに何があるのかわかります。わたしたちにも、何が良いことか、何が危ないことかを周囲の人に知らせる、光としての役目が与えられているのです。⑤ヨハネによる福音書8章12節で、イエス様はご自分のことを何と紹介しておられますか。

●「わたしは世の光である」と言われました。そ

研究資料

単元 山上の教え

キリストの教えの中で最も親しまれている「山上の垂訓」である。この山とは、イエスが徹夜の祈りののちに十二使徒を選定された、カペナウム北にある一つの山であろう。

イエスはこの教えを、不特定多数の一般群衆に語られたのではなく、みもとに近寄ってきた弟子たちに語られた(5・1)。したがってこれは、主に従って行くこととする者たちに対する教えだと言える。

B・F・バックストン師は『マタイ伝ノーツ』の中で、この垂訓が教えられたのは、主のご奉仕の中間時点であると推定され、聖国の憲法である意義づけられる。『福音』第三四四号四ペーシ。バックストン師はさらにこう述べておられる。「即ち弟子たちが群衆にいかにかぶるまつかを教える。重要なことは何であるかであって、何をなすかではない。『幸いなるかな』、これは人間に對する神のみことであり、また主の聖国建設の目的である」。この説教で示されているのは、クリスチャンの高い標準である。「山上の垂訓を読むと我らがいかに汚れているかがわかります。そうですから、主は山を降りて、すぐにらい病人をきよめたまいます(8・1・4)」というバックストン

ン師の言葉は有名である。高い標準ではあるが、到達不可能な高嶺の花ではない。十字架による私の磔殺と聖霊によるキリストの内在によって、我らはきよめられ、み国の憲法にかなう者とされるのである。

週題 地の塩、世の光

山上の垂訓の中でも、よく知られている地の塩と世の光のたとえである。いずれも世に生きるクリスチャンの性質と使命を表している。

テキスト

「八福の教え」(3・12節)に続いて語られている。八福の教えの最後は、主のために迫害を受ける者の幸いである(10・12節)、これをクリスチャンの生き方の消極面とするなら、地の塩、世の光の教えは積極面と言える。

13 あなたがたは、地の塩である。クリスチャンのこの世での社会的存在意義の一つは、塩である。塩は腐敗を防ぐ役目がある。腐敗に満ちたこの世の流れを、福音の力で食い止めるのである。

もし塩のききめがなくなったら、クリスチャンがこの世と妥協し、迎合するようになったら、その存在意義は失われる。

14 あなたがたは、世の光である。クリスチャンのもつ一つの存在意義は、光である。すなわち、喜びと真理をもたらす、また本当の命とは何かを示す。主は罪を犯した婦人をゆるされたあと、「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は…」

して、イエス様に従う人は「やみのうちを歩くことなく、命の光をもつであろう」とも言われました。イエス様を信じるわたしたちも、世の光とされました。いつまでも照らし続けることができる「命の光」が与えられたのです。そして、イエス様の光を反射してこの世界で輝くことができます。ちょうど、月が太陽の光を反射して光ることができるのと同じようにです。

⑥「天にいますあなたがたの父」とはどなたのことですか。

●父なる神様のことです。イエス様を信じるわたしたちは、神様の子とされました。神様はわたしたちの「天のお父様」なのです。

⑦わたしたちが世の光として輝くのは何のためですか(16節)。

わたしたちを通して、天の父なる神様がほめたえられるためです。わたしたちの周りには、まことの神様を知らない人たちがたくさんいます。その人たちがわたしたちの「よいおこないを見て」、生きておられるまことの神様がおられることを知るようになるのです。そして、わたしたちに与えられた「地の塩」「世の光」としての役割を果たしていくことによって、神様のすばらしさが現されていきます。

大切なことは、わたしたちが、「あの人はいい人だ」とほめられるのではなく、わたしたちを罪から救い出し、そのような役割を与えてくださった神様がほめたえられることです。そのために、わたしたちを用いていただきましょう。

命の光をもつであろう(ヨハネ8・12)と言われた。世の光なるキリストは、十字架のあがないをもつて、闇の子であった我らを光の子に変えたともう。

山の上にある町は隠れることができない。山上の町の光は、いかに深い闇夜の中でも、遠くからでも認めることができるのと同様に、キリストの命をいただいたクリスチャン、そして教会は、暗黒の世の中にあっても、さんざんと輝くのである(ルカ2・15)。

15 また、あかりをつけて、それを柁の下におく者はいない。光は、物を量る升でおおわれるものではなく、燭台の上に置いて暗い家の中を照らし出すものである。同様にクリスチャンは、罪の世の中にあつて、いつもキリストの十字架をはっきりと指し示すべき者である。

16 そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、あなたがたの光とは、我らがはじめから持っていた光ではない。キリストの十字架によって与えられた命の光である。クリスチャンの使命は、この命によってキリストを証しすることだ。あなたがたのよいおこないを見てとは、信仰に裏づけられた行為が世の人に見られていることである。外には内にあるものしか出て来ない。キリストの十字架のあがないの恵みが我らのうちに確かであるなら、つまり、義認の恵みがはっきりしており、さらにきよめの恵みにあずかって喜んでいくなら、おのずと証しが立つのである。

礼拝メッセージ

●週 題 父なる神の愛
●聖 書 マタイによる福音書5・43～48
●暗唱聖句 あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。マタイ5・48
●目 標 敵をも愛する広くて深い神の愛を知り、その愛に満たされて生きるように指導する。

導入

先週はイエス様の教えからわたしたちが地の塩世の光であることを学びました。今週も続いて山上の教えの中から学びましょう。

すばらしい神様の愛

わたしたちの神様は愛の神様です。ひとり子のイエス様をわたしたちに与えてくださったほど、わたしたちを愛してくださっているお方です。しかも、その愛はすべての人に注がれている愛です。たとえご自分に背中を向けている人であっても、神様はいつでも変わるごときない愛をもってずっと愛してくださっています。イエス様は言われました。父なる神様は分け隔てなくすべての人に太陽をのぼらせ、雨を降らせてくださっている。ここに世界中のすべての人を愛される、神様の大きな愛が明らかにされています。

敵をも愛する愛

イエス様は「敵を愛し、迫害する者のために祈

りなさい」と言われました。「えっーそんな!」と思う人がいるかもしれません。みなさんは「あの子なんかどこかほかの学校に行けばいいのに」と思ったことはありませんか? たしかになにか意地悪をされたり、イヤなことをされたらムカッとするかもしれませんね。時には仕返しをしたくなることもあるでしょう。でもイエス様はそのようにしなさい」とは言われませんでした。むしろ敵と考える人をも愛し、祈りなさいと言われたのです。これはわたしたちには簡単なことではありませんね。でもイエス様はただ言葉だけで教えられたのではなく、「ご自分から身をもってわたしたちにこの事を教えてくださいました。それは十字架の上のことです。イエス様が十字架にかかれたとき、なんと祈られたか知っていますか?」「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」と、ご自分をあざけり、苦しめる人々を愛し、とりなしの祈りをされたのです。そのイエス様の姿を見ていた弟子のヨハネさんは「主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った」(ヨハネ3・16)と伝えていきます。イエス様の十字架に神様の愛があらわされているのです。わたしたちがこの愛を知る時、「大キライ」と思っているお友だちのためにも、お祈りすることができるようになります。

完全な者となりなさい

イエス様は「完全な者となりなさい」と言われました。これは神様のように何でもできるように

なりなさいという事ではなく、十字架にあらわされた神様の愛、すべての人を愛して下さる神様の愛をいただいて、まわりの人々を愛する人になりなさい、という事です。

一九一九年にアメリカから来られたコルベ宣教師は、日本で熱心に伝道しましたが、太平洋戦争の時に日本を追われてフィリピンに逃れました。ところが、そこでスパイと誤解されて日本軍の捕虜となり、とうとう夫人と一緒に処刑されてしまったのです。アメリカで知らせを聞いた二人の娘、マーガレットとアリスは、日本人を憎みました。そして、何とか復讐するチャンスをと考えていたのです。しかし、二人はイエス様の十字架の愛を知っているクリスチャンでした。ある日の祈りの時に、お父さんがどのような思いで死んでいったのかを考えました。そして、お父さんは日本人を憎みながらも救われ、救われることを願いながら死んでいったことに気づいたのです。その時に、改めてイエス様の十字架の愛がわかり、自分もまた日本人の救いのために祈るべきことを教えられ、赦せなかった思いを深く悔い改めたのでした。その後、マーガレットは捕虜収容所に日本の軍人がいることを聞くと、ボランティアとして日本人の心から心から奉仕をする愛の人と変えられました。

結び

わたしたちも、どんなお友だちでも愛することができるようになり、とお祈りしましょう。神様はお祈りに答えてくださり、わたしたちに愛の心を与えてくださいます。

分級 A

〈教師メモ〉

きょうのテキストも、幼児たちには難しいところですので、「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」という所を中心に教えましょう。

〈分級活動例〉

ケンちゃんもマリちゃんも、アンパンマンのこととしてるね。アンパンマンは、悪いことをするバイキンマンをやっつけます。でもそれは、何か悪いことをやめてほしいからです。また、弱っている人たちには、顔を半分あげるほど、やさしいですね。

しかしイエス様は、アンパンマン以上ですよ。悪いことをする人々を愛して、その人たちのためにいのちをあげたからです。イエス様は十字架の上で、「父よ、彼らをおゆるしください」とお祈りされたこと、知っているでしょう。

ケンちゃん、すぐだいてくる友だちがいるかな。マリちゃんには、よくいじわるする友だちがいけないかな。そんな人に親切にするなんて、できっこないよね。でもね。イエス様から愛の光を受け取るなら、できるようになりますよ。それが、先週お話を聞いた「光の子」なのです。いじわる

分級 B

――キーポイント―― 愛、うつつほらへ

されて腹がたったとき、「イエス様どうか光の子にしてください」とお祈りしようね。

〈ワーク〉

「光の子」のワッペンを作りましょう。

〈導入〉

「地の塩、世の光」として、一週間すごせたかしら? きょうも心ワクワクさせてイエス様の山上の教えをだのしみにしてききましたよね。さあ、きょうもビックリするようなイエス様のお話でした。わたしたちにも、そんな広い神様の愛が心いっぱいいただけるようお祈りしましょう。

〈聖書に親しむ〉

マタイ5・43～48です。きょうは、先生と皆さんとで一節ずつ交読します。暗唱聖句には赤線を引いて覚えましょう。

〈アガペー・ワークをしながら考えよう〉 『アガペー?』(アカンペーじゃないよ。これ

はギリシャ語で特別に神様の愛のことを意味する、すばらしいことばなのです。さて、そのアガペーの愛は?

- 太陽の中の○にひらがなを入れてください。そして、話し合ってみてください。
- 雨粒の中の○にひらがなを入れます。そしてそのことについて話し合ってみましょう。
- 神様の愛って、何てひろいひろいものでしょう? そんな神様の愛をいっぱい心にいたたくとき、わたしたちには何ができるのでしょうか?
- ハートと祈る手の中の○にひらがなをかき入れて、アガペー・ワーク完成。

〈アガペー・ソングをうたおう〉

大海のようにひろい主の愛
山より高い主の愛は
わたしのような者を愛して
神の子にしてください

(『ぶくいん子とまんびか』87番)
イエス様はまさに十字架の上で、この驚くべき祈りと愛を注ぎ、救いの道を開いてくださいました。このイエス様の愛から、とてもはなれられないですね!

〈きょうのおいのり〉

神様の広い愛を感じます。この愛をわたしの心にもいっぱい満たして、他の人に注がせてください。アーメン。

分級 A・B

分級C

〈キーポイント〉

敵をも愛する

〈導入〉

お友だちに「神様ってどんな方なの」と聞かれたら、みなさんは何と答えますか。今日は、愛なる神様について学んでみましょう。

〈聖書を読もう〉

今日はマタイによる福音書第43節～48節です。ここにはどのような事が書かれてあるのか考えながら読んでみましょう。暗唱聖句の48節に線を引いて覚えましょう。

〈質問〉

①イエス様はだれを愛しなさいと言われましたか。また、だれのために祈りなさいとおっしゃいましたか。

●敵を愛しなさい、そして迫害する者のために祈りなさい、と言われました。

②なぜイエス様はそうにしなさいと言われたのですか(45節)。

●イエス様を信じるわたしたちが、天の父なる神様の子どもだからです。子どもが親に似るように、わたしたちが父なる神様に似た者となることを、神様は願っておられるのです。

③それでは、天の父なる神様はどのようなお方で

すか(45節)。

●どんな人をも分け隔てなく、すべての人を愛されるお方です。神様は、悪い人のためにも良い人のためにも、太陽を昇らせ、正しい人にも正しくない人にも、雨を降らせてくださる方です。自然界の恵みは、すべて神様から世界中のすべての人に与えられるのです。神様は実に公平に愛をそそがれるお方です。

④それに対して、わたしたちはどうでしょうか。

●わたしたちは、自分によくしてくれる人のことを「あの人は良い人だ」と思い、仲の良い人にだけ親切にする傾向があります。これがわたしたち人間の性質なのです。イエス様はそのことを見抜いておられました。

⑤今日の暗唱聖句の「完全な者となりなさい」とは、どういうことですか。

●これは、立派な人になりなさい、とか、神様のようにならざるを得ない力を持ちなさい、ということではありません。父なる神様が完全な愛を持っておられるように、わたしたちも、父なる神様にならざるを得ない人となる愛の愛の人となるように、とイエス様は教えられたのです。

⑥ここで、イエス様のご生涯におけるクライマックスの出来事に注目しましょう。イエス様は十字架で、ご自分を十字架にかけた人々のために何と祈られましたか(ルカ23・34)。

●イエス様は十字架でのお苦しみの中にも、「父よ、彼らをおゆるしください、彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」と、とりなしの

祈りをささげられました。「敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい」と教えられたイエス様は、自ら模範を示されたのです。

⑦どうしたらイエス様の言われたようなことを実行できるでしょうか。

●自分の力では意地悪なお友だちを愛することはできません。でも、神様の愛を本当に知って、神様からその愛の心をいただくなら、わたしたちもイエス様のいわれたような愛の人になることができるのです。

イエス様の弟子のヨハネさんは、十字架のそばに立って、イエス様の様子をじっと見守っていました。そして、敵をも愛されるイエス様の愛、同じ十字架にかけられた犯罪人をも赦し受け入れる愛をその目で目撃したのです。ヨハネさんには、イエス様の愛が口先だけのものではないことがよくわかりました。ですから、本当の愛とはこれだ、と紹介しているのです(ヨハネ3・16)。そして、ヨハネさん自身も「雷の子」(マルコ3・17)というあだ名がつけられていましたが、後には愛の人に変えられたのでした。

「愛は神から出たもの」(ヨハネ4・7)と聖書にあります。どんな人をも愛することのできる愛は、神様から与えられるものなのです。わたしたちが神様に心から求めるなら、神様は喜んで愛の心をくださることでしょう。

〈祈り〉

苦手なお友だちとも仲良くできますように、イエス様のような愛の心を与えてください。

研究資料

課題 父なる神の愛

み国の憲法の中心は、父なる神の愛の提示である。旧約の律法は神の義が全面に現れていたが、新約の律法とも言える山上の垂訓の基調は、神の愛である。我々がみ国にふさわしい者となるためには、神の愛を知り、神の愛のうちにあり続けなければならない。

テキスト

愛の律法として知られている箇所である。イエスは、ご自分が律法や預言者を廃するためではなく、一点一画もすたることなく成就するために来たと言われ(17、18節)、さらに、キリストの弟子たる者の義は、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでなければならないと言われた(20節)。そして六つの実例をあげ、より高度な義の適用を示された。①怒り(21～26節)、②義理(27～30節)、③結婚解消(31、32節)、④誓い(33～37節)、⑤報復(38～42節)、⑥敵への愛(43～48節)である。43「隣人を愛し、敵を憎め」と言われていたことは、先の六番目の実例で、主は最高の義の適用を示された。これまでの例では、主は旧約聖書の言葉を引用し、それに高遠な解釈を加えられた

のであるが、ここでは、「あなたの隣人を愛さなければならぬ」(レビ19・18)という成文律に、「敵を憎め」というユダヤ人ラビが付加した不文律を挿入されたのである。後者の命令は聖書のどこにもない。律法学者は、「隣人」を自分たちと国、民族、宗教を同じくする人たちに限定して理解した。だから彼らは、神が決して意図されなかった「敵を憎め」という命令を作り出したのである。44「敵を愛し、迫害する者のために祈れ。主は、敵を憎め」という誤った教えを、「敵を愛せよ」という相反する命令によって打ち消された。自分の友を愛することは自然なことであるが、自分の敵を愛することは超自然的なことである。人間の本来の罪の性質によつては、不可能なことである。ただキリストの十字架の血によって罪ゆるされ、聖霊によるキリストの内住によつてきよめられたときにだけ、この超自然的な愛のわざを行うことができる。

45「こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。敵をも愛する者となるとき、我らは父なる神の子であることが人々に証される。なぜなら、天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、雨を降らせて下さるからである。神の愛は、分け隔てなくすべての者の上に注がれている。自然界には、神の愛と恵みが満ちあふれているのだ(ロマ1・20)。

46「あなたがたが自分を愛する者を愛したからとて、
47「兄弟だけにあいさつをしたからとて 取税人

や異邦人が引き合いに出されたのは、主が彼らを軽蔑されたからではない。ローマ政府のために仲間から税を取り立てていた取税人や、まことの神を知らず、偶像礼拝を行っていた異邦人は、多くのユダヤ人から、悪の階段の最低の所にいるものであるとして、さげすまれていたからである。48「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように。本章のクライマックスである。これは、とうてい実行不可能な理想のように思えるが、「神が神の領域において完全であられるように、我らは人間の領域で完全なものであるべきだ」と解釈すると理解できる。

文脈に即してみれば、この完全は愛における完全である。神の愛は完全であった。神の全き愛は、キリストの十字架にあらわされた。滅びゆく罪人である我らのために、神はひとり子を惜しまずに世に送り、我らの身代わりになるいのちの木にかけたもつた。罪なき神の子が、我らに代わって神から捨てられ、全きあがないをなし遂げたもつたのである。我らを罪から救い、汚れからきよめて神に属する者にするためだ。神はそこまで我らを愛したもつた。

この愛を知ったとき、我らも全き愛をもって神と人を愛することができる。全き愛とは、犠牲をも惜しまない無私の愛である。神の愛の化身とも言えるキリストを内にいだいたとき、我らも愛において完全な者となることができるのだ。

- 週 題 主の祈り
- 聖 書 マタイによる福音書6:5-15
- 暗唱聖句 天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。
- 目 標 主イエスが教えてくださった模範の祈りの内容を学び、その祈りのように生活する者となる。
- マタイ6:9

導入

わたしたちは毎週礼拝の中で主の祈りをささげていますね。

ある時イエス様の祈られる姿を見ていた弟子の一人が「わたしたちにも祈ることを教えてください」と願い出ました。そこでイエス様がこのように祈りなさいと教えられたのが主の祈りです。今日は主の祈りについて学んでみましょう。主の祈りには、神様に対する呼びかけと、神様と神様の栄光についてのお祈り、そして、わたしたちの毎日の生活についてのお祈りがあります。

神様への呼びかけ

●「天にいますわれらの父よ。」神様は天におられ、全部の事を「存じ」のお方です。また神様はわたしたちのお父様なのです。わたしたちはいつでも、どこにいても、神様に「天のお父様」とお祈りする事ができます。すばらしい恵みですね。

神様についての祈り

●「御名があがめられますように。」これは神様のお名前があがめられますように、という意味です。ここにお祈りのとても大切な順序があります。すぐに「しててください」とお祈りするのはなく、まず神様に心から感謝する事がとても大切です。そしていつもわたしたちではなく、神様がほめただえられるようにと祈りましょう。

●「御国がきますように。」御国とは神様が御手の中に支配しておられる所です。神の国とも言われています。イエス様は「神の国はあなたがたの中にある」と言われました。神様がすべてを支配される時が一日も早く来ますように、というお祈りです。

●「みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように。」みこころとは神様のお考えの事です。神様のお考えが天だけでなく、地、すなわちわたしたちの毎日の生活の中で実現しますように、というお祈りです。みなさんは、イエス様が十字架にかかられる前にゲッセマネの園で祈られたお祈りを知っていますか。「わたしの思いのままではなく、みこころのままになさってください」とイエス様は祈られました。もしイエス様が、わたしたちのために十字架にかかるというみこころに従わなかったなら、わたしたちに対する救いはありませんでした。でもイエス様がまず神様のみこころに従ってくださいから、すばらしい救いをいただく事ができるのです。いつでもどこでもまず、神様のみこころにお従いしましょう。

わたしたちの日常生活の祈り

●「わたしたちの目この食物を、きょうも与えてください。」わたしたちは毎日当たり前のように、おいしい食事をいただいていますね。でも全部、神様がわたしたちに与えてくださったっているものです。ですから好き嫌いを言わずに、心から感謝していただきます。またここに「わたしたちの」とありますね。アフリカなどではわたしたちと同じ年ごろのお友だちが食べる物がなくて苦しんでいます。こうしたお友だちのために祈りし、食べ物だけでなく、わたしたちの生活に必要なものも神様に求めましょう。

●「わたしたちの負債をもおゆるしてください。」負債とは罪の事です。お友だちがなにか罪を犯したなら、その罪を責めるのではなく、赦してあげましょう。赦し合う事は本当にすばらしい事です。わたしたちも、いつもイエス様の十字架を仰いで、罪を赦していただきましょう。

●「わたしたちを試みに会わせしないで、悪しき者からお救いください。」試みとは試練や誘惑、悪しき者とはサタンです。サタンはわたしたちをいろいろな形で誘惑してきます。しかし、神様はその誘惑からわたしたちを守ってくださいなのです。いつもこのようにお祈りして、サタンの言葉上手な誘惑から守っていただきましょう。

結び

今日、わたしたちは主の祈りを学びました。主の祈りを、わたしたちの心からの祈りとして、毎日祈る者とならせていただきましょう。

分級 A

＜教師メモ＞

きょうは、聖歌六七八番の賛美「主の祈り」を用いて分級をしましょう。一節だけでも繰り返し歌って、子供たちの口から自然に出てくるくらいになればいいですね。

＜分級活動例＞

イエス様のお弟子さんたちが、イエス様のところに来てお願いしました。

「イエス様、どのようにお祈りしたらよいか教えてください」って、お願いしたんですよ。そうするとね、イエス様は、「じゃあ、このようにお祈りしなさい」って、教えてくださいました。そのお祈りは、「天のお父様」ではじまっています。だから私達はいつも、「天のお父様」ってお祈りをするのですよ。

この時、イエス様が教えてくださったのが「主の祈り」です。

ケンちゃんもマリちゃんも知っているね。きょうは、その「主の祈り」をお歌で歌ってみましょう。(一節は振り付けをつけてみましょう)

＜ワーク＞

簡単な振り付けですので、みんなでしましょう。また祈りの手を書いてみてください。



分級 B

＜キーポイント＞
しゅのいのち

＜導入＞

「愛、いっぱい」で気持ちのよい一週間でしたか？ それとも口をとがらせたりしたことあったかな？ きょう学ぶのは、うれしい時はもちろん、いっしょな時でも祈るとよい「最高の祈り」です。なんだって、イエス様が教えてくださった「模範の祈り」ですから。小さい時から、しっかりと心に覚えておきましょう。

＜聖書に親しむ＞

主の祈りが聖書のどこに書いてあるのか知っておくのは、とてもいいことです。マタイ6:5-15です。一人ずつ一節ずつ輪読しましょう。みんなが祈っているのと少しちがいますが、ここがもたになっているのです。

＜しゅのいのちワークをします＞

さて、まちがわれないでスタートから、ゴールのアーメンまで行けるかな？ 黄色かオレンジシカで手をぬりながらすすむことにしましょう。

＜主の祈りを祈りましょう＞

ただおぼえて、ターッとこなせるのではなく、心をこめて、ゆっくりと祈ることが大切です。悲しいとき、不安なとき、困ったとき、苦しいとき、ドキドキするとき、病気のとき、どんな時でもこのお祈りを心をこめてするとき、神様はきくと助けてくださいます。そして、この祈りのとおり生きていきますように！

分級C

〈キーポイント〉

主の祈り

〈導入〉

お祈りってすばらしいですね。お祈りは神様との会話です。わたしたちは家に帰ると、学校であった事をお家の人にお話するでしょう。同じように神様にお話するのがお祈りです。

みなさんはどんな時にお祈りしていますか。たとえば、朝起きた時、食事の前、夜寝る前、あるいは、何か困った事が起きた時など、いろいろありますね。今日は、イエス様が弟子たちに教えてくださった主の祈りを学びます。

〈聖書を読もう〉

マタイによる福音書6章5節～15節を開きましよう。少し長いところですが、順番に読んでみましょう。今日の暗唱聖句は9節です。しっかりと覚えましよう。そしていつものように質問に答えましよう。

〈質問〉

①偽善者たちは、どのようにして祈るのでしょうか(5節)。

●人に見せようとして、会堂や大通りの角に立つて祈ります。それは、人々に「あの人は信仰深い

人だ」とほめられたいからです。イエス様は、このような見せかけだけの祈りを嫌われ、彼らの真似をしてはいけなと教えられました。

②イエス様は、どのような場所で祈りなさいと言われましたか(6節)。

●自分の部屋に入り、戸を閉じて、隠れた所においてになる神様に祈りなさいと言われました。つまり、一人になって祈る、ということですね。神様と一対一になって祈る祈りを神様は喜んでくださいます。

③神様は何を見ておられるお方ですか。

●神様はわたしたちの隠れたことを見ておられます。人には見えないことも神様は全部見通しておられるのです。たといよい事をして周りの人から「よくやったね」とほめられなくても、神様はすべて知っていてくださいます。

④神様はわたしたちの何を知っておられますか(8節)。

●わたしたちの必要なものなら何でもです。わたしたちが求める前から、何が必要なのかを神様はちゃんとわかっておられるのです。ですから、イエス様は、同じ言葉を呪文のようにくどくどと祈ることはやめなさい、と教えられました。

イエス様は、「天にいますわたしの父よ」と呼びかけるように言われました。神様は「天におられるわたしたちのお父様」なのです。私たちが神様に對して「天のお父様」と呼びかけることができるのは、イエス様を信じるわたしたちが神様の子どもとされているからです。イエス様の弟子のヨ

ハネさんは、後の初代教会の人たちに宛てた手紙の中で、「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい」(1ヨハネ3:1)と勧めています。神様を「天のお父様」とお呼びすることができるとは、わたしたちに与えられたすばらしい特権なのです。

⑥「主の祈り」の前半はどなたについてのお祈りですか。

●モーセの十戒と同じように、父なる神様についての祈りです。

(1)神様のお名前がほめられたこと、(2)神様がすべてを支配される国が実現すること、そして、(3)神様のみこころがわたしたちの生活の中にも実現すること、をお願い求めるのです。

⑦では、後半はどうでしょうか。

●わたしたちの日常生活についての祈りです。

(1)わたしたちが生きていくために必要なものが与えられること、(2)罪を赦してもらうこと、(3)悪魔の誘惑から守られることを求めなさいと、イエス様は教えられました。

⑧わたしたちが普段祈っているお祈りと「主の祈り」では、どのような点がちがいますか。

●わたしたちのお祈りは「くしてください」とお願いすることがほとんどですね。でも「主の祈り」は、神様をほめたたえることから始まります。わたしたちも今日学んだように、神様が祈りの中心になるように、神様を賛美し、神様に感謝することからお祈りを始めましよう。

研究資料

課題 主の祈り

我が日頃親しんでいる主の祈りについて学ぶ。
主の祈りとは、主イエスが弟子たちに教えられた祈りだが、我らの祈りの基本型である。

テキスト

本章において、イエスは弟子たちに、宗教的生活のあり方を教えられたが、その前半で、施し(2、4節)と祈り(5、15節)と断食(16、18節)という三つの宗教的実践を示された。これらはいずれもパリサイ人、律法学者が自分の義を人に見られるための手段にしてしまっており(1節)、形骸化してしまつた。主はそれらに本来の意味を取り戻して、弟子たちに教えられたのである。

祈りについて、主は次の原則を示された。
①一人で祈ること。パリサイ人のように人に見せられるため、聞かせるためにわざわざ大通りに立つて祈らないこと。父なる神は隠れたことを見ておられる(5、6節)。②信仰をもって簡潔に祈ること。異邦人のようにくどくどと祈らないこと。父なる神は祈らない先から我らの必要を知存知であること(7、8節)を信じるべきである。

祈りとは神との交わりである。神は、我らとの

交わりのために次の方法を与えられた。

①み言葉。神が我らに恵みとみこころを教えたまう。②祈り。その恵みに応え、我らが神に願ひと献身をささげる。したがって、我らは、公的な祈りを除いて、隠れた所で、神と一対一になって、信仰の祈りをささげるべきである。

このようなコンテキストの中で、イエスは主の祈りを教えられた。ルカ11:1によると、バプテスマのヨハネが彼の弟子たちに教えたように、自分たちにも祈ることを教えてほしいと、弟子の一人が主に願ったことが発端となっている。

主の祈りは第一部(9、10節)と第二部(11、13節)とから成っている。前者はみ国に関する祈り、後者は個人的な必要のための祈りである。第一部は、

9 天にいますわたしの父よという神への呼びかけで始まる。神は、天にいますが、我らの父という親しい存在である。御名があがめられますようにには原語では、「あなたの名が聖とされますように」である。これは、主の聖なる御名が、今日、自分の生活によって聖とされることを求め、「わたしはキリストの御名を帯び、キリストの生きられたように生きますから」という決意をあらわす祈りである。

10 御国がきますように 神の支配を求め、神が王としての力を発揮されることを求め、敵を廃して神だけが全世界の王となれることを求める祈りである。みこころが天に行われるとあり 天ではみこころしか行われていない。それと同じよう

に、みこころだけが自分の心と生活の中に遂行されることを求める祈りで、主のみむねにたいするまっただき服従の意思を表明している。ゲッセマネの園でのイエスの祈りが模範である。

11 わたしたちの日のこの食物を、きょうもお与えください ここから第二部である。肉体の食べ物のための祈りが、第一部ではなく、第二部に位置づけられている理由は、本章後半に述べられている。まず神の国とその義とを求めるなら、父なる神は必要のすべてを満たしたもう(33節)という鉄則に通じる。

12 わたしたちに負債のある者をゆるしましたように 原語の順序は、自分の負債のゆるしを求める嘆願が先である。「負債」はルカでは「罪」となる。我らはみな神に對して罪という負債を負っている。それは返済不可能なほどのものである。しかし、キリストは十字架の血潮という代価を払って、我らのすべての負債を返済済みとしたもつた。自分がゆるされた者であるという自覚と感謝のもとにはじめて人をゆるすことができる。

13 わたしたちを試みに会わせなさい、悪しき者からお救いください 悪魔からの試練や誘惑からの保護を求めた祈りである。神を第一として従っていくなら、真実な神は、我らを耐えられない試練に会わせたまつことはない(1コリント10:13)。最古のギリシャ語写本では、主の祈りはここで終わっているが、これに続く頌榮は、恐らく公の場で吟唱(きんしょう)するときのために、きわめて初期に加えられたものであろう。

●週題 岩の上の家

●聖書 マタイによる福音書7・24と27

●暗唱聖句 わたしのこれらの言葉を聞いて行

うものを、岩の上に自分の家を建

●目標 みことばを聞くだけでなく、行

う者となるように教える。

導入

今日はイエス様の山上の教えを学んできました。今日はそのしめくりです。今日もしっかりとイエス様のお話を聞きましょう。

二軒の家

トントントン。どこからか釘を打つ音が聞こえてきます。二人の大人さんがそれぞれ自分の家を一生懸命建てているところです。「やったあ、完成だ！」ついに家ができました。どちらもうすばらしい家です。せっせと荷物が運ばれ、やれやれと思ったその時、突然激しい雨が降り出しました。ドシャ降りとなり、ついに洪水となって押し寄せてきます。ビュービュー激しい風も吹きつけるのです。やっと風が過ぎ去ってみると、一軒の家はビクともしていません。ところがもう一軒の家は跡形もありません。ペチャンコに壊れてしまいました。同じように建っていたのに、どうして

こんなに差があるのでしょうか。
実は建てた土台がちがっていたのです。びくともしなかった家は堅い堅い岩の上に、ペちゃんこに壊れてしまった家は軟らかい砂の上に建てられていたからです。

賢い人と愚かな人

イエス様は、岩の上に家を建てた人は賢い人、砂の上に家を建てた人は愚かな人と言われました。では、賢い人、すなわち岩の上に家を建てた人とはどういう人でしょうか。それはイエス様の言葉から聞いて行こうです。ただ聞くだけではありません。聞いて実行するのです。

そして賢い人はいつもイエス様ご自身の上に家を建てます。岩のようにどんな時でも変わることのないイエス様を土台とする時、つらい事や悲しい事があっても絶対に倒れることはありません。アメリカのニューヨークにマンハッタンという大きな島があります。そこには百階建て以上のビルがズラッと並んでいます。どうしてそんなに高いビルを次々と建てる事ができるのでしょうか。それは土台が全部岩でできているからです。

では逆に、愚かな人、すなわち砂の上に家を建てた人とはどういう人のことでしょうか。それは、み言葉を聞いても行わない人のことです。イエス様は山上の教えを終えらるるにあたって、このとても大切なことを言われました。教えを聞いて頭の中にとめておくだけでは何の力にもなりませんね。

み言葉を土台に

み言葉はわたしたちが迷うことなくまっすぐに歩むための定規です。神様のみ言葉とおりに従うなら、土台がしっかりしているの、崩れることも、曲がることもありません。

今から百年以上も前のことです。札幌農学校(今の北海道大学)が開校されるにあたって、アメリカからウィリアム・クラーク博士が教頭として招かれました。「少年よ、大志を抱け」と言う言葉を残したことで有名な人です。クラークはとても信仰の厚い人で、彼の荷物の中には、学生に配布するために聖書が数十冊用意されていました。当時の北海道の長官は、クラークが学生たちに聖書を教えることに猛烈に反対しましたが、クラークはその反対を押し切って、毎朝の授業に先立って聖書の講義をしました。それは、学生たちに神のみ言葉を土台とした人生を築いてほしいと願ったからでした。クラークが農学校で教えたのはわずか八ヶ月でしたが、その教え子の中から、数多くの優秀なクリスチャンが育っていきました。

結び

わたしたちは今月すばらしいイエス様の教えを聞きました。いつも神様のみ言葉を読み、心にたぐわえ、実行する人になりましょう。

頭でっかちでなくて、心がかしこくなく、人生はダメになってしまいます。

＜聖書に親しむ＞

マタイ7・24と27。短いのでみんなでゆっくりいっしょに読みましょう。暗唱聖句には、赤線を引いて覚えてください。

＜ハウス・ワークをしてください＞

岩の上に家を建てているのはどの子？ 砂の上に家を建てているのはどの子？ 線で旗と結びましょう。家とは「人生」です。岩の上に建てるのは大変ですね。砂の上はとってもカンタンでラクチンでしょう。でも台風や大雨で、ひどい倒れ方をするのはどちらでしょうか。わたしたちはガッカリ、イエス様のみことば(岩)を土台として、何があっても倒れない人生をりっぱに築き上げていきたいですね！

＜きょうのおいのり＞

苦しみや困難の中でも、みことばに従って、ゆれ動くことのない人生としてください。

分級 A

＜教師メモ＞

次のような実験を子供たちと一緒にすればどうでしょうか。

- 二枚のカレー皿と、お水を用意する
- 一枚目には、少し大きめの石をのせる。
- 二枚目には、砂を盛り上げる(塩でも可)。
- 両方のお皿に水を注いで、その変化を見る。

＜さんび＞

『救いの聖歌』37番の「かしこい人とおろかな人」のさんびかを用いて話すと良いでしょう。

＜分級活動例＞

イエス様は、神様のお言葉に従って生活する人は、「岩の上」に家を建てた人に似ています、と言われました。岩の上に家を建てた人は、嵐や大雨が降った時、どうなりますか？

「その家は、だいじょうぶ」ですね。

じゃあ、「砂の上」に家を建てる人ってどんな人でしょうか？ それは、神様のお言葉に従わない人のことです。悪魔にだまされて、つまらないことばかりに一生懸命になっている人です。砂の上に

分級 B

＜キーポイント＞

かしこい人

＜導入＞

「主の祈り」は、祈れば祈るほどすばらしいですね。お祈りをすればわたしたちの心もひきまわって、からだも守られます。さて、今週学ぶ「かしこい人」とはどんな人でしょうか。これは聖書が教えてくれるほんとうに「かしこい人」です。

分級C

〈キーポイント〉

岩を土台として

〈導入〉

みなさんは砂遊びをしたことがありますね。山やトンネル、川など、いろいろなものが作れるので、お友達と楽しく遊んだことでしょうか。でも、砂で作ったものが何日も残っていることはありません。砂はくずれやすいので、山でもトンネルでもすぐにこわれてしまいます。雨が降れば形も残りません。ですから砂の上に家を建てるということはだれもしません。堅固な所を土台にします。それと同じように、私たちが生きていくためにはしっかりと土台が必要なのです。

〈聖書を読もう〉

今日はマタイによる福音書7章24節〜27節です。ここには二種類の人が登場します。二人の共通する点や違っている点などに注意しながら読んでみましょう。暗唱聖句は24節です。

〈質問〉

①イエス様の言葉を聞いて行う人は、だれと比べられるのですか。

●岩の上に自分の家を建てた賢い人です。

②賢い人の建てた家は、洪水がやって来た時に、どうして倒れないのでしょうか。

●かたくてしっかりとした岩の上に建てているからです。土台がしっかりとしているなら、雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹くような嵐の時でも、その家はびくともしません。

③ではイエス様の言葉を聞いても行わない人は、だれと比べられるのですか。

●砂の上に自分の家を建てた愚かな人です。

④愚かな人の建てた家が、洪水がやってきた時に倒れたのは、どうしてでしょうか。

●家の土台が軟らかい砂の上だったからです。しかも、その倒れ方はひどい、とイエス様は言われました。

⑤ここでもまとめとして、賢い人と愚かな人との共通する点について考えてみましょう。

(1)どちらも神の言葉を聞きました。

(2)どちらも自分の家(人生)を築きました。

(3)どちらも嵐(人生の試練)がやって来ましたが、

⑥それでは、二人の違った点はどこでしょうか。

(1)神の言葉

●賢い人は、神の言葉を聞いて実行しました。

●愚かな人は、神の言葉を聞いても実行しませんでした。

(2)土台

●賢い人は、岩(神の言葉)を土台として家(自分の人生)を築きました。

●愚かな人は、砂(自分の考えや人生の知恵)を土台として家(自分の人生)を築きました。

(3)嵐の時

●賢い人の家(人生)は、嵐(人生の試練)が来た時にも倒れませんでした。

●愚かな人の家(人生)は、嵐(人生の試練)が来た時に激しく倒れてしまいました。

⑦イエス様はこのたとえ話から、何をわたしたちに教えようとしておられるのでしょうか。

●イエス様はわたしたちの人生をしっかりと土台の上に建てる事を願っておられます。砂の上に自分の家を建てるというのは、自分の考えや人の考えを中心にして生活する事です。わたしたち人間の考えは変わりやすいものですから、その行動までもゆれ動いてしまいます。順調に進んでいる時はよいのですが、苦しい試練がやってくると、とたんに崩れてしまうのです。

イエス様はわたしたちがそのような人生を歩んでほしくないと願っておられます。賢い人のように、神様のお言葉というかたい岩を土台として、わたしたちの人生という家を築くようにと教えておられるのです。神様のお言葉に従っていくなら、たとえ苦しいことや悲しいことが次々にやって来たとしても、神様が共にいてくださるので、それらを乗り越える力が与えられます。

⑧わたしたちは、賢い人と愚かな人とのどちらのようになりたいですか。

●もちろん、賢い人のような人生を送りたいですね。そのためには、イエス様のお言葉をしっかりと聞いて、その通りに行う人にならせていただきます。

研究資料

課題 岩の上の家

山上の垂訓の結論部において、イエスは家を建てた二人の人のたとえを語られた。これまで語ってこられた説教を注意深く聞いた人と、不注意な聞き方をした人とを比較するためであろう。前述したように、この説教は一般群衆ではなく、弟子たちに語られたものである。したがって、主は「自身の弟子たちを訓練するために、み言葉に対する姿勢を、明解なコントラストをもつこのたとえで、厳しく問われたのだ。

テキスト

24 それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、主のみ言葉に従う者が、岩の上に家を建てた人にたとえられている。「聞いて行う」とは、謙虚な心で、自分に語られているみ言葉として受けとめ、それに従って行うこととする者である。彼は岩の上に自分の家を建てた賢い人(分別のある、思慮深い、実践的な人(詳訳))に似ている。

25 雨が降り、洪水が押し寄せ、「洪水」は字義とおりには「河々」である。パレスチナの気候の特徴は、長い乾期と短い雨期がはっきりと分かれていくことだ。一年のうちのほとんど、川床は渇い

ているが、冬と春の雨が来ると川は氾濫する。「洪水が押し寄せる」とは、信仰上の試練や困難が到来すること、信仰が岩、すなわちキリストのみ言葉にしっかりと立っているなら、揺るぐことはない。

ルカでは、「地を深く掘り、岩の上に土台をすえて家を建てる人」(ルカ6:48)と記されている。これは、悔い改めが徹底され、キリストの十字架のあがないの恵みが透徹した信仰を象徴している。そういう信仰を持つ者は、世の波風や悪魔の攻撃に対しても、堅く立つことができるのである。

26 また、わたしのこれらの言葉を聞いても行わない者を、逆に、主のみ言葉に聞き従わない者は、砂の上に家を建てた人にたとえられている。「聞いても行わない」とは、傲慢で、み言葉を聞いても自分に対するメッセージとして受け止めず、従っていないことという、すなおな心をもち合わせていない者である。

27 雨が降り、洪水が押し寄せ、パレスチナの家は、大部分が石か天日干した煉瓦で建てられていて、嵐がモルタルをほぐしてしまつと、壁は崩壊しやすくなる。それと同じように、み言葉に聞き従わない者の信仰も、ちょっとした試練や困難、誘惑にも耐えることができず、破綻し、消滅してしまうのである。

そしてその倒れ方はひどいのである。はじめから信仰を持っていなかった者が倒れるよりも、信仰を持っていた者が、その信仰を失って倒れるほうが悲惨である。イエスは別のところで、汚れた霊が他

の七つの悪霊を引き連れて一緒に住むと、その後の状態は初めよりもっと悪くなるというたとえを語られた(マタイ12:43-45)。徹底した悔い改めをせず、十字架のあがないの恵みを十分理解していない、いい加減な信仰や、聞きかじりだけ受け売りの神学に基づいただけの信仰がいかにもろいものであるか。そういう人がつまづくと、救われる前の状態よりも悪くなるのである。

以下、バックストン師の『マタイ伝ノーツ』から引用して、その霊魂を紹介する。

「24節 ここでキリストは聴衆のある者は賢く、ある者は愚かであることを「存じ」である。

24節〜27節 二種の人、二種の土台、二種の結末。24節 しっかりと土台をすえよ。かくして建て上げよ。安全性とは家を建てることに気を配ることにはよらない。また安全性とは家の美しさによるものでもない。

25節 この賢い大工の建てた家は倒れることも、大波をおおいかぶる必要もない。

26節 この愚かな大工が建てた家は、好天気のとときは他の家と同様、一見立派に見える。しかし「土」は嵐であった。詩篇46篇こそ、まさに「岩」の上に建てられた家のつたである。『苦難の中にありて喜びに満ちあふれる』すなわち嵐の中で「岩」の上に立つパウロを見よ(IIコリント7:4)。(福音書三三七号四ページ)

● 週 題 百卒長のしもべ

● 聖 書 マタイによる福音書8・5～13

● 暗唱聖句 ただ、お言葉を下さい。そうすれば僕はあります。マタイ8・8

● 目 標 病気をいやす力をもつイエスのお言葉を信じるように指導する。

導入

みなさんは、病気になったことがありますか。高い熱が出たり、何日も寝ていなければならなかったりするの、とてもつらいですね。そんなとき、みなさんはどうしますか。

百卒長の訴え

イエス様がカペナウムという町におられた時のことです。一人の立派な服を着た人が、はあはあ息を切りながらイエス様の所にやって来ました。この人は百卒長と言って、ローマ軍の百人の兵隊たちの隊長で、とても偉い人でした。イエス様がカペナウムにおられると聞いて、すぐにイエス様のもとに駆けつけました。それは召使であるしもべの一人が、中風という重い病気で苦しんでいたからです。

この百卒長は、たいへん心のやさしい人で、しもべたちを大切にしていました。ところが、特に頼りにしていたしもべが病気になったから大変で

す。しかも、中風という病気は、当時、これという良い薬もなく、治せる医者もいませんでした。「困ったなあ」と思っているところに、イエス様のうわさが聞こえてきました。「なんでも、イエス様という方は、どんな病気でも治してくださいさうだ。」そこで、百卒長は、かわいそうなしもべをいやしてくださいるように、自分で直接お願いしようと、イエス様の所にやって来たのです。

ただお言葉をください

この話を聞かれたイエス様は、すぐに「わかりました。私があなただの家に行って、治してあげましょう」と言われました。ところが、百卒長はそれを断ったのです。彼はこう言いました。「わたしのよき者の家に、あなたをお迎えするよき資格は、わたしにはございません。」

普通だったら、イエス様に「今すぐ来てください」とお願いするでしょう。ところが百卒長は、「来ないでください」と言ったのです。イエス様に来ていただかないで、どうやってしもべの病気を治していただけるでしょうか。

百卒長は言葉を続けました。「ただお言葉をください。そうすればわたしのしもべは、必ず治ります。」この百卒長は、イエス様のお言葉の力を信じていました。自分が隊長ですから、部下たちに命令すれば、彼らはどんなことでも従いました。人間の言葉でさえ、そういう力をもっているのだから、神の子であるイエス様の言葉なら、その通りにならないはずはない、と彼は思ったのです。

信じたとおりになるように

イエス様は、この百卒長の言葉に、たいへん感心され、まわりの人々に、「イスラエルの人々の中にも、これほどの信仰をみだことがない」と言われました。

百卒長は、ローマ人です。イスラエル人から見れば、本当の神様を知らない外国の人です。しかし、彼は、イエス様のお言葉を信じる信仰では、どんなイスラエル人にも負けないものを持っていたのです。

イエス様は、「行きなさい。あなたの信じたとおりになるように」と言われました。百卒長が家に帰ると、何としもべの病気は治っていたのです。しかも、治った時刻を調べると、イエス様が「行きなさい」と言われた時刻とぴったり合いました。

イエス様は、百卒長のしもべの病気をいやされました。しかし、それは、百卒長がイエス様を信じたからでした。イエス様のお言葉を信じるところに、主のすばらしい力が働くのです。

結び

イエス様の言葉は真実です。必ずそのとおりになります。病気になったとき、まずイエス様にお祈りしましょう。わたしたちの罪のために十字架にかかってくださったイエス様は、また私たちの病気をその身に負ってくださいとお方です（マタイ8・17）。み言葉をもつていやしてくださいさるイエス様を信じましょう。

分級 A

〈分級活動例〉

ケンちゃんもマリちゃんも一週間元気にすごせたかな。そう、よかったね。

でも、もし病気になるって、熱がでたり、おなかがいなくなったりときはどうするの？ まずおいのりする？。そして、お医者さんにみていただくね。そして、お薬をいただいて飲むね。

さて、きょうは病院にも行かないで、お薬も飲まないで、なおしていただいた人のお話よ。

ある日、百人の兵隊の隊長がイエス様のところへきていっしょけんめいにお話ししました。「イエス様、お願いです。わたしの家で働いている召使が大変重い病気で死にそうなんです。なんとかイエス様の力でなおしてやってくださいませんか。どうか。どうぞ、どうぞお願いいたします。」

イエス様は、「それはかわいそうに。わたしが行ってなおしてあげましょう」といわれました。よかったね。隊長はホッとしました。そして、隊長はイエス様にこんなことを言ったのです。

「イエス様、わざわざイエス様がわたしのうちまできてくださるなくてもけっこうです。ただ、『召使の病気よ、なおれ』といってください。それだけで召使の病気はなおります。』するとイエス

様は、イエス様のことはに力があると信じている隊長のことを大変感心されました。そして、隊長に、「さあ、うちへ帰ってこらんなさい。あなたの信じたとおりに召使はなおっていますよ」といわれました。

隊長は「イエス様、ありがとうございます」となんどもお礼を言うと、大よろこびで急いでうちへ帰りました。するとどうでしょう。あんなに苦しんでいた召使が「ニコニコ」して、玄関まで隊長を迎えにきていました。

イエス様の言われたとおりだったね。

イエス様のおことは病気をなおす力があるのね。イエス様のおことはを信じる？

うん、もちろん信じるよ。

〈ワーク〉

どちらが百人隊長（百卒長）で、どちらがしもべでしょうか。わかったら、色を塗りましょう。ペープサートにも用いられます。

分級 B

〈キーポイント〉

びょうきをなおす

〈導入〉

きょうは、「いやしぬし」イエス様のことを学び

ました。しかも「おことば」だけでーノ スゴイね!! わたしたちにもこの百卒長さんのようなりっぱな信仰があるかしらっ。

〈聖書に親しむ〉

マタイ8・5～13です。一節ずつ輪読しましょう。暗唱聖句は、いつものように赤線を引きます。そして、わたしたちもこのように言える信仰が与えられるように祈りをこめて、覚えましょう。

〈しんこつワークをやりまう〉

○の中に、名前を書きこみましょう。そして下のわくの中から、ふさわしいことばを選んで、絵の中に書き入れてください。あと、ぬりえをして仕上げてみましょう。

〈おことばの力と信仰の力〉

イエス様のおことば、それは真実で、力があつてそのとおりになります。そのことを信じる時に、そのとおりになる。本気でイエス様のおことばを信じよう。

〈きょうのけっしん〉

病気の時も、どんな時もイエス様のおことばを読み、信じて、たちあがろう。

分級C

〈キーポイント〉

お言葉を信じよう

〈導入〉

わたしたちが病氣にかかった時、お父さんやお母さんから「すぐ良くなるから大丈夫だよ」と声をかけられると、安心しますね。また、病院に行くと、お医者さんからもそう言われたらホッとします。病氣が早く良くなることだってあります。お父さんやお母さん、お医者さんの言葉に信頼しているからですね。

今日わたしたちは、イエス様のお言葉を少しも疑うことなく、信じた人について学びます。

〈聖書を読もう〉

マタイによる福音書8章5節～13節です。順番に読んでみましょう。8節が今日の暗唱聖句です。線を引いて覚えましょう。

〈質問〉

- ① イエス様がカペナウムに帰ってこられたとき、みもとに来て訴えたのはだれですか。
- 百卒長です。百卒長とは、百人からなる部隊の隊長で、ローマの軍隊の中軸としての役割を果たしています。
- ② 中風でひどく苦しんで、家で寝ていたのはだれですか。

- 百卒長のしもべです。病氣にかかったしもべは、百卒長にとってはかけがえない、まだいつも頼りにされていた人です(ルカ7:2)。その彼が中風のため横になってしまったのですから、百卒長にとっても大変な試験でした。
- ③ イエス様はなんとおっしゃいましたか。
- 「わたしが行ってなおしてあげよう。」
- ④ それに対して百卒長の返事はどうでしたか。
- 「主よ、わたしの屋根の下にあなたをお入れする資格は、わたしにはございません。ただ、お言葉をください。そうすればしもべはなおります」と言いました。

百卒長は、「イエス様に来ていただかなくても、み言葉をくださればそれで十分です」と答えたのです。それは、イエス様のお言葉にはどんな病氣でもなおすことのできる力があると信じていたからでした。

⑤ この言葉を聞かれたイエス様は百卒長の何に感心されましたか(10節)。

● 百卒長の信仰にとて感心され、いっしょにいた人々に、「よく聞きなさい。イスラエル人の中にも、これほどの信仰を見たことがない」と言われました。

⑥ 百卒長のしもべの病氣が治ったのはいつですか(13節)。

● イエス様が百卒長に「行け、あなたの信じたとおりになるように」と言われた時です。イエス様のたった一言によって、しもべはいやされました。

それは、百卒長の信仰をイエス様が喜ばれたからです。

⑦ 百卒長にはどのような信仰がありましたか。

● イエス様のみ言葉に対する、ゆるぐことのない信仰です。

百卒長には、必ずイエス様の言われるとおりになる、イエス様のお言葉さえあれば大丈夫だ、という信仰がありました。彼は「ただ、お言葉をください。そうすればしもべはなおります」と言い切っていますね。イエス様のお言葉にどれほど信頼しているかがわかります。

ルカ1:45には、「主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」とあります。百卒長にも、このようなお言葉への完全な信頼の心がありました。

イエス様のみ言葉にはどんな病氣をもうやす、すばらしい力があります。またどれほど困難な問題にぶつかっても、み言葉にはそれを解決することのできる力があるのです。

わたしたちが病氣にかかったとき、もちろん病院に行ってお医者さんに診ていただくことも大切です。でも、今日百卒長の信仰から学んだように、まずイエス様にお祈りしましょう。そして、イエス様のみ言葉を信じましょう。

また、どうしていいかわからない時も、まずイエス様にお祈りしましょう。イエス様はみ言葉を通して語ってください、わたしたちがそのお言葉を信じる時に、すばらしいみわざを現わしてくださいのです。

研究資料

週題 百卒長のしもべ

第Ⅱ期の単元3は「支配者であるキリスト」を学ぶ。山上で弟子たちに教えられた後、主は山をくだってご自身の御力を示された。

主はまず8章の冒頭で、らい病人をきよめられた。今日のいやしの記事は、第二の奇跡である。らい病人は、家族や社会からも、神との交わりからも切り離された存在であったが、百卒長は、神の祝福からまったく縁のない異邦人であった。しかし、いずれも主のあわれみにより、また彼ら自身の信仰によって救いを得た。主の恵みがすべて信じる者に及ぶことを示す実例である。

テキスト

並行記事は、ルカ7:1～10である。

5 さて、イエスがカペナウムに帰ってこられたとき、カペナウムは、山上の教えをされた山の近くに位置する町で、ガリラヤ伝道の本拠地であった(4・13)。

ある百卒長がみもとにきて、この百卒長は、異邦人とメシヤとのかかり合いを示す大切な役割を果たしている。百卒長は、古代ローマ軍隊の中軸であり、百人からなる部隊の隊長である。ローマ軍団は六千人から構成され、六十の百人隊に分けられていた。カペナウムの地方は、領主ヘロデ

アンティパスの統治下であり、この百卒長は、ヘロデに雇われたサマリヤ人や異邦人を多く含む部隊の隊長であった。

6 主よ、わたしの僕が「僕」(パイス)は少年とも訳せる。ルカはドウロス(奴隷)という語を使っている(ルカ7:2,3)。百卒長はこのしもべを、息子のよに愛していたのであろう。

当時のローマ法によれば、殺生と尊の権を持つていた主人が、奴隷に対してこのような愛を持つていたことは、百卒長の立派な人格を物語っている。ルカは、百卒長は自分でイエスのところに行かずに、ユダヤ人の長老たちを遣わしたと記録している。彼は、自分が汚れた異邦人であることを意識して、伝言を長老たちに託した。彼らの口添え(ルカ7:4,5)から察して、彼はユダヤ教に好意を持っていたか、あるいは改宗者であったかと思われる。

7 わたしが行ってなおしてあげよう イエスは即座に願いを聞き入れようとされた。同じ異邦人でも、カナンの婦人には、一見冷淡と思われる態度を見せられた(15:23～26)。主はその人の信仰に応じて最善の行動をなされる。

8 主よ、わたしの屋根の下に この百卒長の答に、謙遜だけでなく、自分の地位、職業からする深い洞察を伴った信仰を見る。彼は、軍隊生活において、部下に命令を与えることが何を意味し、また、自分も上官をいただく身として、命令を受けることが何を意味するかを知っていた。軍隊においてそうであるなら、人間の権威の下にいないイエスの場合、いやされる者がその場にいないが、遠く離れていようが関係なく、出されるい

やしの命令に対して、即座の服従がなされるはずである。百卒長の権威に対する深い理解がここに強調されている。これこそ、イエスが驚かされたものである。

10 イスラエル人の中にも、これほどの信仰を見たことがない この驚きは、ご自分の民の不信仰についての悲しみと対照的である。選民イスラエルこそが持つはずであった信仰を、百卒長のような異邦人が代わって持つようになった。

11 多くの人が東から西からきて この百卒長をはじめとして、全世界の異邦人が、選民イスラエルが放棄した神の国を相続する恵みにあずかることを示す。「多くの人が」は詩篇107:3の引用。宴会の席につく、ユダヤ人が等しく待ち望んだメシヤの大饗宴の喜びである。

アブラハム、イサク、ヤコブの三代の族長たちの子孫、すなわちユダヤ人の独占とされたこの祝福が、逆転して異邦人のものとなる。ユダヤ人は、異邦人の末路は「外のやみ」、つまり地獄の暗闇であるとしていたが、実は彼らがそのようなものになってしまふ。それは、彼らの神に対する不信仰による。

12 外のやみは、ここ以外に、22・13、25・30にだけ見いだされる。

そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう、地獄の恐ろしさの警告で、この句が繰り返されるのもマタイの特徴である(13・42、50、22・13、24・51、25・30)。

13 あなたの信じたとおりになるように 厳肅な言葉である。神の祝福は信仰のはかりによる。

●週題 悪霊につかれた人

●聖書 マルコによる福音書5・1～20

●暗唱聖句 けがれた霊よ、この人から出て行け。 マルコ5・8

●目標 悪霊を追い出す力をもつイエスを信じる者となる。

導入

みなさんは、悪霊がいることを知っていますか。「そんなものは、人間が考え出したものだよ」と言う人がいるかもしれませんが、確かに悪霊は人間が考え出したものですが、悪霊は実際にいるのです。

レギオンにとりつかれた人

イエス様は、救いを必要としている人がいる所なら、どこへでも出かけて行かれました。あるとき、イエス様は舟でガリラヤ湖の向こう岸のゲラサ地方に渡られました。そこは、ユダヤ人たちがめったに行かない異邦人の住む地でした。舟から上がられると突然、一人の男の人がイエス様のところにやって来ました。その人は、墓場に住みつき、大声で叫んで人々をこわがらせたり、石で自分の体を傷つけたりしていました。人々は彼を鎖でつなぎ、足かせをはめて、抑えつけようとしたが、鎖を引きちぎり、足かせを壊して暴れました。

なぜそんなひどい状態だったのでしょうか。それは、彼が悪霊にとりつかれていたからです。しかも、イエス様が悪霊の名前を尋ねられると、「レギオンです」と答えました。レギオンとは、大勢という意味です。この人は数多くの悪霊に支配されていたのです。

悪霊からの救い

イエス様は、この人にとりついている悪霊を追い出そうと言われました。「汚れた霊よ、この人から出て行け。」ところが悪霊は、「どうか追いつかないでください」とイエス様に頼み続けました。そして、「どうしても追い出さずなら、豚の群れの中に入れてください」と願ったのです。その地方では、たくさん豚が飼われていました。

イエス様がお許しになると、悪霊は男の人から出て、豚の群れの中に入りました。すると豚の群れは、ドドドッと崖から湖に駆け下り、みな溺れ死んでしまいました。

悪霊を追い出していた人は、夢から覚めたような表情で、イエス様の足もとにすわっていました。驚いたのはその地方の人々です。あれほど手に負えなかった暴れ者が、正気になってすわっているのですから。そして、悪霊をも支配することのできる力をもっておられるイエス様を恐れしました。

一方、悪霊から救い出された男の人は、うれしくてたまりません。今までさんさんに苦しめられていた悪霊から解放されたからです。彼は喜びにあふれて、イエス様に「お供をさせてください」といいます。大ぜいの悪霊の霊がはいっているのですと言いました。そこでイエス様はこの人に向かって、「悪霊よ、出て行け!!」と命令しました。するとどうでしょう。悪霊たちはつきつきに出ていって、そばにいた二千匹のブタの中に入ってしまったので、そのブタたちは急に走り出してみな海の中に入っておぼれてしまいました。

さて、今までくさりにつながれて大あばれしていた男の人はどうなったでしょう。おとなしくなつて、ちゃんと着物をきて、イエス様の前にすわっていました。悪魔の霊が人の心に入つて、人を苦しめたり、つらい思いにさせるのね。でもイエス様は悪魔より強いから、「出て行け」と命令するとすぐに出ていってしまうのね。イエス様は強いね。男の人も助けてもらってよかったね。

ワーク

墓場の中から出てきたのは、イエス様に悪霊を追い出してもらった人かな? そのあとの人かな? くるくる回してみよう。

分級 B

— キーポイント —

悪霊をおいだす

導入

きょうは、イエス様が悪霊を追い出された、少し身がふるえるようなお話を聞きましたね。やっぱり、ほんとにイエス様は、すばらしい力の持ちぬしですね。それは、人を、しあわせにする、ほんとうの力だからです。では、さらに学びましょう。

聖書に親しむ

マルコ5・1～20です。長い所ですが、小さなお友だちは16節まで1節ずつ順番に読みましょう。暗唱聖句には線を引いて読んで覚えてください。

「ちからワーク」をしてください

①④のヒントにしたがって、くさりの輪とぶたの中に文字を入れて下さい。ぶたの中の字を力タカナになおすと、どうなりますか。

ヒント

- ①イエス様は何を命令しましたか(8節)。
- ②くさりでさえも彼を〇〇〇〇〇〇ておけなかった(4節)。
- ③悪霊はひとり? ふたり? 少数? それとも?(9節)
- ④ぶたは海の中でおぼれて、どうなりましたか(13節)。

「いのちの力」は

イエス様のあわれみの心によって、この悪霊につかれた人は救われました。今も悪霊の働きにより、しばられ、つながれている多くの人たちがいます。その人たちをそのくさりからほどいてくださるのは、イエス様だけです。イエス様のいのちの力を信じましょう。

分級 A

分級活動例

おはよう!!

ケンちゃんもマリちゃんもお墓を見たとあるかな? そう、行ったことあるの?

お墓ってなにかな? そうね、死んだ人をうめたり、死んだ人の体を焼いた骨をうめたりすることよ。

そのお墓に一人の男の人が住んでいました。ふつうは人が住むところじゃないけど、この人はみんなにきらわれてお墓につながっていたの。この人の心にはたくさん悪魔の霊が入っていたので、いつも大あばれをするし、人に乱暴なことをするし、大声で叫んだり、自分のからだに石で傷をつけて血を流したりして、自分を苦しめていました。こんなことをするので、みんなは町まで来られないように、くさりで足をつないでお墓におらせようとした。ところが、この男の人はものすごい力でそのくさをちぎってしまうので、くわてだれもそばへ近よれません。

この気の毒な人が、イエス様を見つけると大急ぎで走ってきて、いっしょにつけんめいにお願ひしました。

イエス様は、この男の人のことを大変かわいそうに思いました。そして、「名前は何なんといいますか。」

● 週 題 一羽のすずめも
● 聖 書 マタイによる福音書10・24～33
● 暗唱聖句 あなたがたの父の許しかなければ、その一羽も地に落ちることはない。
マタイ10・29
● 目 標 主イエスは命をも支配しておられることを知らせる。

導入

みなさんは、外でよく小鳥をみかけますね。あんなに小さな体なのに、翼を羽ばたいて、大空を自由に飛び回ることができるなんて、不思議だなと思いませんか。小鳥たちも大きな力に守られて生きているのです。

神様をおそれなさい

イエス様が十二使徒を伝道に遣わそうとされた時のことです。

イエス様は、からだも魂も地獄で滅ぼす力のある方を恐れなさい、と言われました。弟子たちの伝道を受け入れない人たちがいることをイエス様はよく知っておられました。ですから、人の顔色をうかがうのではなく、命を支配しておられる神様だけを恐れなさいと教えられたのです。

羽鳥明先生はツシオ牧師としてとても有名な先生です。でも先生は子供のころ、一体どのようにして生きていくのか分からず、空しい毎日だったそうです。やがて日本は戦争を始めます。そのこ

ろ、教会やイエス様を信じている人たちは、ひどい目にあっていました。ある日の学校の授業でのこと、キリスト教が大好きな先生が「お前たちの中にヤソ（キリスト教の事をばかにした言い方）はいないだろうな、もしいたら手を上げる、」とものすこいけんまくで言ったのです。すると一人の少年がスクツと立ち上がり、「先生、ぼくはクリスチャンです。ぼくはイエス様を信じています」とはっきりイエス様をあかししました。そこにいた羽鳥少年は彼のとて勇気ある言葉に心が捕えられ、ついにイエス様を信じ救われたということでした。その少年は、先生や友だちからなにを言われようと人を恐れず、ただ神様だけをあかししたのです。

一羽のすずめさへも

みなさんはすずめを知っていますね。道ばたを歩いていても毎日のように見かける、どこにもいる鳥ですね。イエス様があられたころ、二羽のすずめは一アサリオンで売られていました。一アサリオンとは、そのころ使われていたお金で一番単位の小さいお金です。一番安い値段でした。ところが、そのようなすずめさへも、父なる神様の許しが必要に地に落ちる、すなわち死ぬことはないといエス様は言われました。まして神様はわたしたちを忘れられたり、見捨てられたりすることは絶対にありえません。神様は、わたしたちがどこにいても、どんな時でもわたしたちを守ってくださいなのです。

命を支配される神様

イエス様は続けて、わたしたちの頭の毛までもみな神様に教えられていると言われました。とても驚くべきことです。それだけ神様はわたしたちの事を知りつくしておられるのです。神様はわたしたちのすべてをこ存じます。ですから、わたしたちの毎日の生活の中で苦しいことやつらいことがあっても、神様が守っていてくださることを信じ、すべて神様におまかせしましょう。

植木亜紀子さんは、三才の時に急性白血病という恐ろしい病気にかかり、わずか十一才で地上の生活を終わって天国に帰りました。その間に九回も入院をくり返しました。大人でも飛び上がるほど苦しい治療を何度も受けたのです。

そうした中で、亜紀子さんは十才になってイエス様を救い主と信じて洗礼を受けました。どれだけたくさんの人たちが亜紀子さんを通して励まされたのか分かりません。亜紀子さんの日記の中に、次のような一文があります。

「つらかったけれども全部のりこえてやってきたこと、やってこれたことに感謝します。これは本当に神様が私にくれた一生なんだな、と思いました。」

結び

神様は、わたしたちの命を支配しておられます。わたしたちの命が神様の愛の御手の中にあることを感謝しましょう。

分級 A

＜分級活動例＞

ケンちゃんおはよう、マリちゃんおはよう。
ケンちゃんのおうちの近くにすずめがいるかな。
マリちゃんはどう？ すずめという小さな鳥を見たことがある？

すずめってとても早起きをするのでケンちゃんやマリちゃんが朝起きるときにはもう「チュン、チュン、チュン、チュン」ってなっているのよ。そうよね、わかった？ 電線やおうちの屋根にとまって「チュン、チュン」ってなっているね。すずめたちは毎日なにを食べるのでしょうか。先生のうちに木があって、すずめが「チツ、チツ、チツ」となっているのよ。木の実を食ったりもしています。ときどき、だれかが道におとしたお菓子を道路の上で食べているのを見かけました。

このすずめたちはみんなのお父さんのように会社に行き働くかな？ みんなのお母さんのようにお店に買物に行くかな？ そんなことはないね。朝、目がさめたら元気に「チュン、チュン、チュン、おはよう、おはよう、朝だよ、朝だよ、きょうも一日だのしぐすいそうね」といっているの。そして、一日あそんで夜になったら大きな木の枝にとまっておねん

分級 B

＜キーポイント＞

まもられて

＜導入＞

きょうは、わたしたちのいのちを守り、支配してくださるイエス様のことを一緒に学びましょう。

＜聖書に親しむ＞

マタイ10・24～33です。つづいてイエス様が弟

子たちに話しておられます。一節ずつ、輪読しましょう。暗唱聖句には線を引いて、覚えよう。

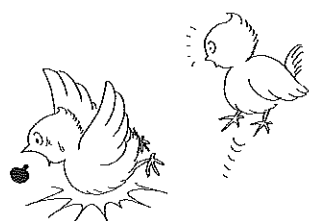
＜すずめワークです＞

すずめたちがうれしそうに、何やらおしゃべりしています。どうやら、みんなして、きょうのことは暗唱しているようです。それでないすずめも何羽かいますよ。スタートからゴールへまがいがいなく行ってね。

ヒント すずめの目の方向に注意。

＜主に守られて＞

イエス様の弟子だということで、苦しめられたり、迫害されたり、恐ろしいめにあうことはイエス様の時代も、それ以後も、そして、今だってあるのです。でもイエス様は、いのち、そう、たましいを支配されるお方です。そして「神様を真におそれなさい。このお方は、一羽の小さな、タタのよなすずめだつて、みこころの中に守られるのだから」と言われます。わたしたちも主に守られているのです。



分級C

—キーポイント—

いのちの支配者

〈導入〉

わたしたちにとって、一番大切なものとは一体何でしょう。お金、健康、あるいは一生懸命勉強して賢くなること……。これらは皆大切ですが、どんなにお金があっても、また体が丈夫であっても、人に負けないくらいたくさんの知識があっても、これがなければ全く意味がないこと。それはいのちです。わたしたちに与えられたいのちはたった一つです。イエス様はこの大切ないのちを守ってくださるのです。

〈聖書を読む〉

マタイによる福音書10章24節〜33節を開いてください。暗唱聖句は29節です。線を引いてしっかりと覚えましょう。いつものように質問に答えましょう。

〈質問〉

①今日の聖書の箇所は、イエス様がだれに対して語られたものですか(5節)。

●十二人の使徒たちに対してです。イエス様は、10章の最初で十二人の使徒をお選びになりました。そして、使徒たちを伝道に遣わされるにあたって、

伝道の心がまえとして語られたのが、この10章全体なのです。

②イエス様はご自分と使徒たちの関係を、一家の主人と家族の關係にたとえておられます。主人が悪口をたたかれたら、その家の者たちはどのように言われるのですか(25節)。

●主人と同じように悪口を言われます。イエス様はここで、弟子たちが伝道に出かけて行っても、よく思わない人たちがいることを予告されました。

③イエス様はだれに対して「恐れるな」と言われましたか(28節)。

●「からだを殺しても、魂を殺すことのできない者ども」すなわち人間のことです。たとえ人々に受け入れられなくても、また迫害されることがあっても、人間を恐れてはいけないうイエス様は教えられました。

④イエス様が「恐れるな」と言われたのはだれですか。

●「からだも魂も地獄で滅ぼす力のあるかた」すなわち神様です。神様は、わたしたちのからだだけでなく、魂のことまで守り、支配しておられます。わたしたちが本当に恐れるべきお方は、わたしたちの命を支配しておられる神様だけなのです。

⑤二羽のすずめの値段はいくらですか(29節)。

●一アサリオンです。アサリオンとは、ユダヤの国のお金の中で一番小さい単位です。すずめがどれほど価値のない動物と見られていたかがわかりますね。

⑥それほど安い値段で売られている二羽のすずめでさえ、どなたの許しがいなければ地に落ちること

はないのですか。

●父なる神様の許しがあったことです。神様は、小さなすずめの命までも支配しておられるのです。まして、すずめよりもはるかに尊い価値のある人間はおさらのことです。神様はわたしたち一人ひとりの命を大切に守っていて下さっています。

⑦イエス様は「まだあなたがたの頭の毛までも、みな数えられている」と言われました。ここからイエス様についてどんな事がわかりますか。

●神の子であるイエス様はわたしたちのどんな事でも知って下さっています。ある先生が言われました。「神様は、真っ暗い夜に、真っ黒い岩の上にいる真っ黒いアリ一匹でさえ知っておられます」と。主はすべてをご存知です。わたしたちのすべての歩みはイエス様の御手の中にあるのです。

今日わたしたちは、イエス様が、たった二羽のすずめの命でさえも、その愛と権威の御手の中に、握っておられることを学びました。それなら、イエス様はどれほどの愛をわたしたちに注いで下さっていることでしょうか。イエス様の愛と守りは計り知ることができないほど大きくて、深いのです。イエス様は、わたしたちの必要をご存じで、いつも十分に配慮して下さっています。

〈祈り〉

心を合わせて祈りましょう。わたしたちをいつも愛してくださる神様。毎日、わたしたちを養って下さって、ありがとうございます。この一週間も、わたしたちのからだを心を守って、生活を導いてください。

研究資料

週題 一羽のすずめ

天地のすべての支配権を持つておられる神様は、取るに足りない一羽のすずめの命にも行き届いておられる。これから弟子たちは、伝道の実戦に遣わされようとしている。どんな困難が待ち構えているかわからない。そこでイエスは、すべてを支配したもう神に一切を委ねるべきことを、身近な例を引いて教えられた。

テキスト

マタイ10章で、主は、使徒を選定されたあと(1〜4節)、彼らを派遣するに伴って訓令を与え(5〜15節)、警告し(16〜23節)、また弟子としての身分を保証し(24〜33節)、さらに、弟子であるための代価が何であるかを教えられた(34〜39節)。今のテキストで主は、弟子たる身分が何であるか、そしてその弟子たちを、神がいかに真実に守り、保証したもうかを説かれている。

24 弟子はその師以上のものではなく、使徒たちは、迫害を覚悟しなければならぬ(17〜19節)。なぜなら、弟子は師にまさらず、しもべは主人にまさらないからである。

25 もし家の主人がベルゼブルと言われるならば「ベルゼブル」の語源ははっきりしない。近年の

のウガリット文書の発見によれば、「バアルの君主」という意味であると考えられる。悪霊の家のかしらであるサタンのことと解してよい。もし家長がサタン呼ばわりされるなら、家族の者が悪く言われるのは当然である。主の使徒たる者は、それぐらいのことを覚悟すべきである。

26 だから彼らを恐れるな。でも、覚悟することと恐れることは別である。主は弟子たちに、迫害する者を恐れるなど勧められた。おそれたもので、現れてこないものはなく、迫害する者も、迫害される者も、真の光の中で見られる日がくる。さばきの日には、すべての事が神の前に明るみになる。

27 わたしが暗やみであなたがたに話すことを、明るみで言え。それゆえに、弟子たちは、大胆かつ明確に福音を語り伝えるべきであった。

28 また、からだを殺しても、彼らが真に恐れるべきものは、からだを殺す迫害者ではなく、からだも魂も地獄(原語ではゲヘナ)で滅ぼす権威のある神であった。といっても、神への恐れは、恐怖ではなく、畏怖である。神を畏れることがすべの事に優先される時、神への真の信頼が生まれる。

29 二羽のすずめは一アサリオンで売られているではないか。主は弟子たちを励ますために、すずめのたとえを持ち出された。一アサリオンは一デナリの十六分の一に相当する小銅貨(一デナリは労働者の一日の労賃に相当する)。安価なすずめでさえ、創造主たる神の許しなしには地に落ちることはない。天地宇宙を創造された無限大の神は、

有限の、ごく小さな命をも支配し、支えたもう。この神に絶対的な信頼を置くのが信仰である。

30 またあなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。すずめと髪の毛とは無関係であるが、すずめ一羽よりもさらに価値の低いものが頭髮一本である。しかし、神は人間の頭髮の一本にまで配慮したもう。こうして主は、念を押すようにして弟子たちを激励された。

32 だから人の前でわたしを受けいれる者を、受けいれるであろう。小さな命をも支配したもう神に信頼して、恐れず大胆にキリストの真理を語り、またどんな代価を払ってでも、忠実にキリストを主と認めるなら、さばきの日に神の前で受け入れられる。

33 しかし、人の前でわたしを拒む者を、拒むであろう。逆にだれでもキリストを否定する者は、終わりの日に御父の前で否定されるのである。この文脈によると、人前でキリストのことを語らないで沈黙することは、積極的にキリストを否定するということにつながる。使徒の身分と命は、支配者たる神に保証されているが、それだけに、恐れずにキリストを宣べ伝えていく責任が課せられているのである。

今週のテキストには、我らを大胆にさせる三つの動機が記されている。①魂は肉体よりも尊し(28節)。②すべては汝らの父のすべ治めたもうところ(29節)。③み前に立つ日の意義と報い(32節)。(B・F・バックストン「マタイ伝ノーツ」『福音』第三五〇号四ページより)

● 週 題 パンの奇跡

● 聖 書 ヨハネによる福音書6・1-14

● 暗唱聖句 わたしが命のパンである。わたし

に来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。ヨハネ6・35

● 目 標 主イエスは、わたしたちの心と体の必要を満たしてくださるあわれみ深い支配者であることを教える。

導入

わたしたちは、毎日ごはんを食べますね。食べなければ、体は弱ってしまいます。神様は、わたしたちの体に必要な食べ物をいつも与えてくださるお方です。

● ピリポを試されたイエス様

ある日、イエス様は、ガリラヤ湖のそばの山に登って、弟子たちと一緒に座られました。すると、大勢の人々があちこちから集まってきました。イエス様のお話を聞きたい、すばらしいみわざをこの目で見たいと願って出てきた人々です。何とその数は、男の人だけでも五千人いました。

イエス様は、「自分の前にいる群衆を見て、何とかしてこれらの人たちに食べさせてあげたいと思われました。そこで、弟子のピリポさんに、」どこからパンを買ってきて、この人々に食べさせて

あげようか」と尋ねられました。驚いたのはピリポさんです。こんなにたくさんの人々に食べさせるパンなど、手に入るはありません。ピリポさんは、「先生、たとえ二百デナリのパンがあったとしても足りません」としか答えることができませんでした。

もちろんイエス様には、そんなことは十分わかっていました。実はイエス様は、ピリポさんがどれほどイエス様を信じているかを試そうとしてわざと尋ねられたのでした。

● 五つのパンと二匹の魚

そのとき、一人の少年が、イエス様の弟子のアンデレさんに、五つのパンと二匹の魚を差し出しました。それは、お母さんが持たせてくれた自分のお弁当でした。その子は、少しでもイエス様のお役に立ちたいと思って、弟子たちのところにやって来たのです。

アンデレさんは、それをイエス様に見せながら言いました。「ここに、少年が差し出した五つのパンと二匹の魚がありますが、こんなに大勢の人では、これっぽっちの食べ物がいっただい何になるでしょうか。」

しかし、イエス様は、人々を青草の上に座らせるように言われました。そして、五つのパンを手にとって、感謝のお祈りをしてから、人々に分け与えられました。二匹の魚も同じようにされました。すると不思議なことに、わずかの食べ物、五千人の人々に行き渡ったではありませんか。し

かも、みんなが十分に食べて満腹したのです。さらに、弟子たちが残ったパンくずを拾い集めると、十二のかごにいっぱいになりました。

● ほんとうの命のパン

イエス様は、このパンの奇跡を行われた後、このように言われました。「わたしは命のパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがありません。」

イエス様は、わずかのパンと魚で人々の体を養われました。イエス様は、わたしたちの体の必要を満たしてくださるお方です。しかし、それだけではありません。イエス様は、わたしたちの魂をも養ってくださいます。

おもしろいマンガを読んでも、新しいテレビゲームをしても、遊園地でおもいきり遊んでも、そのときは楽しいですが、時間がたてば楽しみは消えてしまうでしょう。しかし、イエス様の救いの命を与えてくれるのです。イエス様こそ、わたしたちの必要を満たすことのできる、まことの命のパンなるお方です。

● 結び

イエス様は、わたしたちの体も心も、必要な食物で養ってくださいます。命のパンであるイエス様を信じましょう。しっかりとイエス様につながって、豊かな命をいただき続けましょう。

分 級 A

● 準備するもの

本物のパンとめざしのような魚を用意して、お話の中で子どもたちにちぎって食べさせます。

● 分級活動例

「お母さん、あのね。イエス様が湖のそばでたくさんの人にお話をしておられるんだって。ボクも行っていい？」「ええ、いいわよ。きょうはお天気がいいから行っておいで。そして帰ったらお母さんにもお話をさせてね。そうそう、お弁当ももっていきなさい。お母さんはヤコブくん、五つのパンと二匹の魚をもたせてくれました。」

「いつてきまーす。」大急ぎで走っていったヤコブくんは、よくお話がきこえるように、一番前のイエス様のすぐそばまでいきました。お話をきいているうちにお腹になりました。

イエス様は、みんなにお腹ごはんをたべさせてあげようと思ってお弟子さんにいわれました。「町に行ったら、たべものを買ってきなさい。」

「イエス様、わりですよ。こんなにたくさんの人ですから。」お弟子さんがいいました。十人や二十人とちがうのよ。百人でもなく二百人でもないの。千人でもなくて、五千人ぐらいの人がいたんだから。

分 級 B

● ワーク

男の子は、いくつかのパンと魚をもっていたでしょう。その数のパンと魚に色を塗り、切りとって袋にはり、男の子にもたせてあげましょう。

● キーポイント

● みたされて

● 導入

きょうも元気に、喜んで、イエス様のところに行くことができてよかったね。さてきょうは、わたしたちをすべてのことにおいて満足させてくださるイエス様についてです。

● 聖書に親しむ

ヨハネ6・1-14を開きましょう。きょうは、ナレター、イエス様、ピリポ、アンデレ、人々の役で読んでみましょう。暗唱聖句は少しうしろの35節です。線を引いて覚えましょう。

● パンワークをどうぞ

こどもの持ったお弁当と同じ中身の袋はどれでしょう。正しい分の口についている札の中の文字をくみあわせてみると、これはいったい、誰のことでしょうか。

● 主によってみたされて

ウワッッッ。すごい奇跡だったね。お弁当をイエス様にさしあげた男の子も、目をまんまるにしてびっくりしたでしょう。みんな、みんな、マインクになりました。ちょうどそのように、イエス様はいのちのパン。イエス様を信じるなら、飢えることもかわくこともない。イエス様はわたしたちのどんな必要をも、ゆたかに満たして余りあるお方です。感謝です。

分級C

—キーポイント—

すべての必要を
満たしてくださるイエス様

〈導入〉

わたしたちは戦争の恐ろしさを知りませんね。しかし、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんを通して聞いたり、学校で習ったりして、戦争がどういふものかわかります。ある人は、「空襲はともつらく恐ろしかった。でも、わたしたちにとって一番つらかった事は、食べ物が何もなくて、いつもお腹がすいていた事です。戦争が終わったときに、ようやくこれでお腹いっぱい食べたい物が食べられると思い、うれしくなりました」と語っていました。食べる物がなくいつもお腹がペコペコなのは、本当につらい事です。でも、わたしたちがどんなに飢えて渴いていても、イエス様はすべての必要をご存知であり、また豊かに満たしてください。

〈聖書を読もう〉

今日は、ヨハネによる福音書6章1節〜14節です。ここにはどのような事が書かれてあるか、考えながら読んでみましょう。6章35節が今日の暗唱聖句です。線を引いて覚えましょう。

研究資料

週題 パンの奇跡

パンの奇跡は、四福音書が共通して記録している記事である。四人の福音書記者の記憶に、よほど強烈に残ったのであろう。天の父はすべてを支配したもう。また御父から遣わされたもうたイエスも、一切の支配権を持ちたもう。主は、自然界を征服し、悪鬼を征服し、病を征服し、死を征服し、そして物質をも征服したもう(小島伊助師『キリスト伝』より)。

並行記事は、マタイ14:13〜21、マルコ6:30〜44、ルカ9:10〜17に書かれている。マタイとマルコには、四千人の給食の記事も記されている(マタイ15:32〜39、マルコ8:1〜10)。

テキスト

1 ガリラヤの海、すなわち、テベリヤ湖の向こう岸 ガリラヤ湖は、パレスチナ北部にある淡水湖で、聖書では多くの呼び名を持っている。旧約聖書では「キンネレテの海」(民数記34:11、ヨシヤ12:3)、新約聖書では「ガリラヤの海」(マタイ4:18、マルコ1:16)、「テベリヤの海」(ヨハネ6:1、21:1)、「ゲネサレ湖」(ルカ5:1)。4 時に、ユダヤ人の祭である過越 過越の祭りはイスラエルの民の三大祭の一つで、陽春の候に

〈質問〉

① イエス様がおられた所はどこですか。

● ガリラヤ湖(テベリヤ湖)のそばの山の上です。そこには、数多くの群衆がイエス様についてきていました。

それは、イエス様が病人たちになさっていたしるしを彼らが見たからです。人々は、目に見えるしるしを求めてイエス様のもとに集まって来ました。② イエス様は、ご自分の前にいる群衆を見て、どのように思われたでしょう。ピリポとの会話から考えてみましょう。

● イエス様は、群衆を深くあわれみ、なんとかして彼らの必要を満たしてあげたいと思われました。この時はすでに「はや時もおそく」(マルコ6:35)なっていたからです。今にも日が暮れようとする夕方ですから、人々のお腹がすくのも無理はありません。イエス様は人々の必要にとても敏感なお方です。

③ イエス様のもとには、一体どれくらいの数の人々がいたのでしょうか(10節)。

● 男の人だけで五千人ほどで、女の人や子どもを合わせると一万人にもなるでしょうか。

④ ピリポさんはイエス様に「二百デナリのパンがあっても足りません」と語り、アンデレさんはイエス様に「しかし、こんなに大ぜいの人ではそれが何になりましょう」と言いました。彼らはどのような事を思っていたのでしょうか。

● こんな遅い時間に、こんなに大勢の人がいて、しかもこんな不便な所で、人々に食べてもらうパンを手に入れるなんて、とても無理なことだとあきらめていました。

しかしイエス様は「ご自分ではいようとすることを、ご承知」でした。わたしたちにとって困難なこと、もうダメだと思うような事であっても、イエス様はすべてをご存知で、その時に合ったみわざを現してくださいのです。

⑤ 一人の子どもが持って来たものは何ですか。

● 大麦のパン五つと魚二匹です。

⑥ 弟子のアンデレさんを通して、五つのパンと二匹の魚がイエス様に渡されました。イエス様はどうされましたか(10〜11節)。

● 群衆をそこにすわらせ、パンと魚を手にとられ、人々に望み分だけ、与えられました。人々は満腹になるまで食べることができました。

⑦ イエス様がパンくずのあまりを集めさせられた結果は？

● 弟子たちが集めてみると、十二のかごにいっぱいになりました。

子どもが持っていたのは、わずか五つのパンと二匹の魚でした。一人か二人分の食事です。ところが、そんなわずかなものがイエス様の御手に握られたとき、一万人近い人々が満腹になるくらいに、しかもパンくずが十二のかごいっぱいになるくらいまでに祝福されました。

ここで今日の暗唱聖句に注目しましょう。イエス様は「ご自分のことを、命のパンである」と言われました。そして、イエス様を信じる人は決して飢えることも渴くこともないと約束されたのです。イエス様は、信じるわたしたちのために、いつでも必要な助けを与えて下さり、またその助けは十分なのです。だからどんな時でもイエス様を信頼しましょう。

否定的な答えしかできなかった。信仰の働かないところに積極的、肯定的な応答はない。

10 イエスは「人々をすわらせなさい」と主は、そんな弟子たちの言葉に耳を借さず、群衆を座らせた。主の前にすわるこそ、神の恵みを受ける準備である。

11 そこで、イエスはパンを取り 人間的な常識では、男だけで五千人(婦人、子どもも含めれば一万人はいたであろう)の群衆を、五つのパンと二匹の魚で養うことは不可能であった。しかし主は、神に感謝することから始められた。それは全能の神を信じる信仰による、上からの方法であった。12 少しでもむだにならないように 主の配慮は細かい。十二人の弟子たちの空腹も十分に満たされた。

14 人々はイエスのなさったこのしるしを見てパンを食べた人々は、この奇跡によってイエスを信じた。しかし、イエスを王にまつり上げようとした(15節)ことから、その信じ方は必ずしも正しいものではなかった。

暗唱聖句

35 わたしが命のパンである イエスは我らを養いたもう。物質的にからだの必要を満たしたもうばかりでなく、魂の必要をも満たしたもう。すなわち、我らのために十字架にかかり、血を流された。この十字架によって、我らは罪と滅びからあがない出された。我らの魂に、飢えることも渴くこともない平安と喜びが与えられるのは、命のパンたるイエスの救いを得るときである。

● 週 題 湖の奇跡

● 聖 書 マルコによる福音書6・45〜52

● 暗唱聖句 しつかりするのだ。わたしである。

● 恐れることはない。マルコ6・50

● 目 標 自然界をも支配される主イエスを信じる者となる。

導入

大きな台風が近づいて来ると、わたしたちはどうするでしょうか。停電になっても困らないように懐中電灯を用意したりして、備えますね。そして、あわてないように神様にお祈りするでしょう。どんな時でも守ってくださる主を信じて、お任せすることが大切です。

逆風の中で

先週わたしたちは、イエス様が五つのパンと二匹の魚で五千人以上の人々を満腹にされたことを学びました。その後イエス様は、弟子たちを舟に乗りこませ、ガリラヤ湖の向こう岸へ先に行くように言われました。そしてご自分は祈るために山に登られました。

夕方になったころ、舟は湖のまん中まで来ました。ところが突然風向きが変わり、逆風が吹いてきたために、弟子たちの舟は前へ進むことができません。ペテロさんやヤコブさん、ヨハネさんは以前このガリラヤ湖で働く漁師でした。ですから

らガリラヤ湖の事はなんでも知っているつもりでした。また、舟をこぐことも彼らには慣れていたはず。ところが予想もしなかった逆風のためにこぎ始めました。そうしているうちに、とうとう明け方の四時になるではありませんか。彼らはすっかり困り果ててしまいました。

逆風は思いがけないでことごとくです。ところがどんな逆風であつてもじっと見ていてくださる方がおられます。イエス様です。イエス様は弟子たちをこらんなったように、わたしたちをもこらんなっておられます。それだけではありません。イエス様は近づいてくださるのです。

湖の上のイエス様

弟子たちはふるえ上がるほど驚きました。というの、だんだんと自分たちに近づいて来る人影を見たからです。しかし、舟の方にはなく湖の上を歩いて彼らのそばを通り過ぎようとするのです。彼らは思わず大声で叫んでしまいました。その時、すばらしい声が聞こえてきたのです。「しつかりするのだ。わたしである。恐れることはない。」まさしくイエス様のお声でした。イエス様は彼らがビクビク恐れていたその時に、このようにお声をかけられたのです。

わたしたちが苦しむるとき、イエス様は声をかけてくださり、わたしたちを助けてくださいます。ですからわたしたちは決して一人ぼっちではありません。いつもわたしたちを見つめ、励ましてくださるイエス様が共におられるからです。

舟に乗りこまれたイエス様

イエス様は弟子たちに近づかれ、お声をかけて励まされただけでなく、弟子たちの舟に乗りこまれました。するとどうでしょう、あれだけ吹き荒れて弟子たちを悩ませていた逆風がピタッとやんだのです。そして、イエス様の舟は向こう岸に着くことができました。

弟子たちは、すっかり驚いてしまいました。そして、「この方はいったいどういう方なのだろう」と言い合いました。

天地を創造された神様は、自然の世界をも支配しておられます。イエス様はその神の御子ですから、自然の力をも従わせることのできるお方なのです。

結び

自然の力は大きいものですね。台風や地震、大雨などは、わたしたちに自然界がもつ大きな力を教えてくれます。でも、イエス様は自然の世界をも支配しておられるのです。このイエス様を信じ、主に従っていくなら、わたしたちは決して恐れる必要はありません。

わたしたちの身代わりに十字架にまでかかって、わたしたちを愛してくださった主は、どんな時でもわたしたちを守っていてくださいます。「しつかりするのだ、わたしである。恐れることはない」と言われるイエス様を信じ、このお方に信頼していきましよう。

分級 A

〈分級活動例〉

ケンちゃん、マリちゃん。ヤコブくんがイエス様にさしあげた五つのパンと二匹の魚のお話をおぼえていますか？ そうね、みんなおなかいっぱい食べたのね。さて、そのあとどうしたでしょう。

イエス様はみんなに、「さあ、お家へ帰りなさい。きょうのお話はこれでおしまいですよ」といって、みんなとさよならをしました。そして、お弟子さんたちに、「舟にのってさきにベツサイダの町へ行きなさい」といわれました。お弟子さんたちはいわれたとおり舟にのって、ギッチラ、ギッチラこいでいきました。

すると、空は黒い雲でぐらくなり、風がビュービューふきはじめました。「嵐になるかもしれないぞ」といいながら、太急ぎでギッチラ、ギッチラこぎました。こいでもこいでも、舟は前に進んでくれません。大波にゆられてひっくりかえりそうです。波はザブーン、ザブーンと舟の中まではいってききました。「うわーっ、どうしよう。舟がしずむかもしれない。大嵐だ。助けてくれー、助けてくれー。」お弟子さんたちはおそろしくして、大声でさけんでいました。

そのとき、むこうの方からだれかこちらに近づいてくるのがみえました。それにその人は大波の

――キーポイント――

風さえも！

〈導入〉

きょうは、今月さいこの週です。イエス様は「風さえも」、つまり自然界さえも支配される、ほんとうに、力強いお方だということを、しつかりと心に刻みましよう。

〈聖書に親しむ〉

マルコ6・45〜52です。一節ずつ、みんなで輪読しましよう。暗唱聖句には赤線を引いて、しつかり覚えてください。

〈湖ワークをします〉

1と2の絵を見て、どんな場面か話してみてください。3については説明できるかな？ 先生にやってもらおうかしら？ 4のハートのなかに暗唱聖句を書きこんでください。四つの場面それぞれに色をぬっていいですよ。

〈支配者イエス様、パンザイ〉

あなたは風に向かって何ができる？ そよ風なら気持ちいいけど、強いと吹き飛ばされちゃいますね。「止まれ！」なんて叫んでも、ダメですね。でもイエス様にはそれがおできになります。あなたの心は、3の絵のよう？ 4の絵のよう？ お祈りして、イエス様を心にむかえて、みんな4の絵のような平安な心をいただきましよう。

〈きょうのいのり〉

力強い支配者イエス様、いろんなことで苦しんでいるときこそ、わたしの心に入って支配してください。

分級 B

分級C

—キ・ポイント—

どんな風が吹いても

〈導入〉

どんなに科学や文明が発達しても、手におえない大きな力をもっているものがあります。それは自然です。台風や、地震、雷、大変な寒さや暑さなど、自然の力にはものすごいものがありますね。自然には美しい面だけでなく厳しい面もあるのです。わたしたちはそうした自然の厳しさに指一本ふれることができません。すべてイエス様のご支配と権威の中にあるからです。

〈聖書を読む〉

マルコによる福音書6章45節〜52節を開いてみましょう。今日の暗唱聖句は50節のイエス様が語られたお言葉です。線を引いてしっかりと覚えましょう。

〈質問〉

①イエス様は、ご自分で群衆を解散させておられる間に、弟子たちに何をするように命じられましたか。

●イエス様は弟子たちを舟に乗りこませ、先に向こう岸のベツサイタへ向かうようにされました。それは、弟子たちの信仰を試すためであり、彼ら

がさらにイエス様に信頼を置くようにと訓練を与えるためでした。

②イエス様は群衆とわかれて後、山へと退かれましたが、それは何のためですか。

●一人で静かに祈るためでした。

③このころ弟子たちの乗った舟はどうなっていましたか。

●逆風が吹いてきたために、前へ進むことができなくなりました。風は次第に強まって、嵐のようになってきたことでしょう。弟子たちの舟は、前に進むことも、港に戻ることもできず、すっかり困り果ててしまいました。

舟の中には少し前にこのガリラヤ湖で働いていた漁師もいました。彼らはガリラヤ湖がどういう湖であるかはよく知っていました。しかし彼らにも手におえないくらい嵐となっていました。

④イエス様は弟子たちに対してどうされましたか(48節)。

●弟子たちのごきねでいる姿を「らん」になって、夜明けの四時ごろ海の上を歩いて弟子たちに近づかれました。

イエス様は山に残られて、湖の上で苦しむ弟子たちを放っておかれるようなお方ではありません。イエス様の方から近づかれたのです。

⑤弟子たちは、海の上を歩いておられるのがイエス様だとわかりましたか。

●いいえ。わかるどころか幽霊と思いこみました。彼らはとても恐ろしくなり大声で叫んでしまいました。

⑥弟子たちが恐怖でふるえ上がっていたその時です。イエス様はすぐ弟子たちに声をかけ、「しっかりとするのだ。わたしである。恐れることはない」と言われました。ここから、イエス様がどういうお方であるかがわかりますか。

●イエス様は不安と恐れで心が一杯になっていた弟子たちを決してお叱りにならず、やさしくお声をかけられました。イエス様は決して弟子たちを見放されることなくご自分から近づき、そして励ましてくださるお方なのです。そのお声を聞いて、彼らはやっとイエス様だとわかり、安心しました。

⑦イエス様が舟に乗りこまれると、どんなことが起こりましたか(51節)。

●風はピタッとやんでしまいました。どんな強い風が吹いてきても、イエス様がわたしたちと共にいてくださるなら、すべては解決します。イエス様には、解決できない問題は一つもないのです。

今日わたしたちは、イエス様が自然界も支配しておられることを学びました。わたしたちが信じているイエス様は、すべてのものを治めておられる全能の神様です。

また、イエス様はわたしたちの生活をも治めてくださいます。わたしたちの毎日の生活でも、逆風が吹いて苦しい時がありますね。不安の風、恐れ、風の風、悩みの風……。でもイエス様はいつもわたしたちをごらんになって、イエス様の方から近づいてくださる愛のお方です。わたしたちのすべてを、イエス様にお任せしましょう。

研究資料

週題 湖の奇跡

病気を、悪霊を、動物を、そして物質を征服された主イエスは、本日のテキストで湖上の奇跡を行われ、自然界をも支配される神であることを示された。

今週はパンの奇跡に続く記事である。並行記事は、マタイ14・22〜33、ヨハネ6・15〜21。共観福音書には、別にイエスが嵐を静められた記事も記録されている(マタイ8・23〜27、マルコ4・35〜41、ルカ8・22〜25)。

テキスト

45 それからすぐ、イエスは自分で群衆を解散させておられる間に、パンの奇跡を見て、群衆はもちろんだいぶん感動し、その場を立ち去りがたかったであろう。そして弟子たちを舟に乗り込ませ、「しいて」は「強制する、力づくでさせる」との意味を持つ強い語である。主が弟子たちだけを向こう岸に渡らせようとしたのは、彼らを湖の上で訓練するためであった。主は、彼らが逆風に遭遇することを「存じ」であった。小島伊助師の『キリスト伝』によれば、将来迫害の嵐が教会を待っていることを彼らに教えるようにされたのである。

46 そして、祈るために山へ退かれた。主が登られた山は、海拔五八メートルのタボル山と思われる。山上の教えを語られ、五千人を養われた山であった。華々しいパンの奇跡をなされた後、主を王としようとした人々から逃げるようにして山に退き、一人主の前に出られた(ヨハネ6・15)。

48 ところが逆風が吹いていたために、ガリラヤ湖は東西を山地で囲まれていたために、突風や逆風が吹くことがよくあった。当時の舟は帆船で、風の吹く向きや強さによって進路が左右された。

主が湖に下りて行かれたのは、夜明けの四時ごろであった。弟子たちが逆風に遭ったのは夕方であるから、主は彼らを、ほぼ一晩中放置されたことになる。これが一般民衆なら、主はすぐに助けの手を延べられたであろう。しかし彼らは、主にすべてをささげて従う弟子たちであり、そもそも主は彼らを訓練するために、湖に追いやられたのである。そしてそのそばを通り過ぎようとした。これはマルコだけの記述である。本当は、主は通り過ぎるおつもりではなかった。

49 主を幽霊だと思い、弟子たちの目には、そのように見えた。

50 しかし、イエスはすぐ彼らに声をかけ、湖に下りるまでは時間をかけられたが、舟に近づいてからは、すぐに声をかけられた。彼らを必要にからしめるのは、良い訓練ではないと思われたのである。彼らの恐怖は不信仰からきたものであった。不信仰を取り除き、すみやかに信仰に立たしめるのが、主の弟子訓練であった。

しっかりとするのだ。わたしである。恐れることはない。臨在の主の顕現である。「わたしである」とは、原文でエゴ・エイミー、英語でアイ・アムである。これは、神が燃える柴の中からモーセに示された「我は有りて有る者なり」(アイ・アム・ザット・アイ・アム)という神名である(出エジプト3・14)。イエスはここでご自分が、天地を創造された神、イスラエルの民をエジプトからあがない出された神ご自身であることを、弟子たちに示された。海上を歩くことは人間には不可能であるが、全能の神なれば当然できることである。

51 そして、彼らの舟に乗り込まれると、風はやんだ。神ご自身であることを示された主は、自然界を支配する権威を発動された。彼らは心の中で、非常に驚いた。彼らはすでに、主が嵐を静める力があることを知っていた(4・41)。しかし、彼らはそのことを忘れていた。彼らの記憶には、つい先ほど見せられたパンの奇跡の恵みすら忘れられていたようである。

52 先のパンのことを悟らず、その心が鈍くなっていたからである。マルコは、彼らの不信仰の原因を鋭く暴いている。彼らは、嵐を静める主を見て驚いた。また、パンの奇跡を見て感激した。しかしイエスが神であることを、はっきりと信じていなかったのである。

「山頂のイエス、湖上のイエス、舟の中のイエスである。内住のキリストは一切の成就であり、また、ここからすべては始まる。」(小島伊助全集『第五巻「キリスト伝」四一四ページ』)

● 週 題 ペテロの告白

● 聖 書 マタイによる福音書16・13～20

● 暗唱聖句 あなたこそ、生ける神の子キリストです。 マタイ16・16

● 目 標 ペテロのように、主イエスは生ける神の子であると信じて告白する。

導入

秋も深まってきました。朝晩冷え込むようになりますから、かぜを引かないように注意しましょう。

みなさんは、イエス様のことをだれだと思えますか。これは、とても大切な質問です。イエス様も、弟子たちにそのようにお尋ねになったことがあります。

人々の答え

それは、イエス様がピリポ・カイザリヤという地方に行かれた時のことでした。イエス様は弟子たちにお尋ねになりました。「人々は人の子(イエス様)をだれと認めていますか。」「弟子たちは口々に答えました。『ある人はバプテスマのヨハネ、ほかの人はエリヤ、あるいはエリシヤあるいは預言者の一人だと言っている者もあります。』」

実にいろいろな人の名前があがっていますね。しかしここにでてきた人々は、預言者といって、とても素晴らしい神様の働きをした人たちです。

みなさんも名前を聞いたことがあるでしょう。でも残念なことに、人々はイエス様がどういう方が理解していませんでした。人々は、イエス様のことを偉大な宗教家の一人と考えていたのです。今もこのような考えをもっている人たちがわたしたちのまわりにはたくさんいるのです。

弟子たちの答え

さて、再びイエス様は弟子たちに尋ねられました。「それでは、あなたがたはわたしをだれと言いますか。」「その時、弟子たちの中でリーダー格だったペテロさんが「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と答えたのです。ペテロさんはとても大切な、すばらしい答えをしました。イエス様こそ神様であり、ただ一人の救い主であると言いましたからです。

この言葉を聞いたイエス様はたいへん喜ばれました。そして「あなたはこの事をあらわしたのには、天にいますわたしの父です」と言われたのです。父なる神様がペテロさんに、「イエス様が神の子である」という信仰を与えられたのです。そしてペテロさんは心からこの事を信じていたのです。わたしたちのまわりには、イエス様を救い主だと認めない人がたくさんいます。けれども、イエス様だけが私たちを罪と滅びの中から救ってくださる神の御子であり、生きておられるただ一人の救い主なのです。まわりの人たちがイエス様のことをいろいろと言っても、私たちはペテロさんのようにしっかりと信じましょう。

この岩の上に

イエス様は、さらにペテロさんに「あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう」と言われました。ペテロ、それは岩という意味です。それまではシモン(小石)と呼ばれていました。イエス様は、ペテロさんの信仰告白こそ教会の土台であると言われたのです。

このペテロさんのように「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と言い表すところに教会の本物の姿があります。ですから、教会の建物がどんなに立派でも、またどれほど長く教会にいらる人であっても、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と言い表すことができれば、イエス様の教会と言ふことはできます。イエス様の教会につながる人と言ふことはできないのです。

結び

みなさんは、イエス様こそ、神の子、救い主と信じていますか。これほど重要な信仰告白はありません。

今日わたしたちも、心からイエス様が神の子であることを信じ、それを言い表しましょう。

分 級 A

〈分級活動例〉

ケンちゃん、マリちゃんおはよう!!

さあ、きょうは「わたしはだれでしょう」のあそびをしようね。いつも顔をみているお友だちだけど、みんなのことをどのくらい知っているかな。さあ、顔がよく見えるように輪になってすわりましょう。

まずはじめに先生からするね。

先生が立って「わたしはだれでしょう」といったら、みんなは先生のことを知っていること、わかることなんでもお話してちょうだいね。

「わたしはだれでしょう。」

(教師の名前、住んでいる所、家族、仕事など、何でも子どもに言ってもらいます。)

そうね、ではお友だちにかわりましょう。しようと思ってお友だちは手をあげて。

(同じように、お友だちのことについて知っていることを発表しあいます。)

これでみんなのことよくわかったね。では、「わたしはだれでしょう。」(イエス様の絵をみせます。)

この方のごとで知っていることやわかること、なんでもお話してごらん。

子ども

● イエス様

● 十字架にかかってくださったよ。

● クリスマスにうまれたんだよ。

● おいのりをきいてくださるよ。

● 天国につれていってくださいよ。

そうね、みんなよく知っているね。先生がもう一ついうね。

● 神様の子とです。

イエス様は神様の子とです。神様と同じ力があるのよ。死んだ人を生きかえらせる力もあるし、病氣もなおす力があるのは、神様の子とみだからなのよね。おぼえておこうね。

〈ワーク〉

迷路ゲームです。天国に行くことができるのは、どの入口からでしょう?

いろんな入口から入ってみましょう。

分 級 B

〈キーポイント〉

神の子

〈導入〉

十月には、すばらしい支配者なるイエス様を知って、ほんとに心強いことですね。さらにすばら

しいことに、イエス様は、「神の子」なのです。今月はこのことをしっかりと信じる月です。

〈聖書に親しむ〉

マタイ16・13～20です。きょうは、ナレーター、

イエス様、ペテロ、弟子たちとわかれて読みましょう。大切な暗唱聖句には、線を引いて覚えることにします。そして、わたしたちも、心からこのように告白できる子どもになりますように。

〈告白ワークをします〉

ペテロはイエス様のことをどのように告白しましたか。正しい文字をぬりながらたどって、ペテロからイエス様までいってください。

〈生ける神の子キリスト〉

人々はイエス様のことをいろいろに言いました。イエス様が一番知りたかったのは――。そう、弟子たちは自分を誰だと思っているかでした。ペテロが、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と告白するのを聞いて、大そう喜ばれました。それとおり、イエス様は偉い人といふのではなく、生きておられる神様のひとり子、そして救い主なのです。何で力強いのでしょうか。わたしたちもこう信じて、同じように告白しましょう。

分級C

キー・ポイント

ペテロの告白

＜導入＞

みなさんは、お友だちから「イエス様ってどんな人？」と聞かれたら、どのように答えますか。みなさんの中にそのようにだすねられて困ったことのある人はいませんか。

今日学ぶところには、イエス様がどのような方であるかがはっきりと書かれています。

＜聖書を読もう＞

マタイによる福音書16章13節～20節を開いてください。順番に読んでみましょう。16節が今日の暗唱聖句です。線を引いて覚えましょう。そして、いつものように質問に答えましょう。

＜質問＞

①イエス様は何という場所に行かれましたか。

●ピリポ・カイザリヤです。

この町は、ヘロデ大王の子ピリポによって建てられた町です。その頃の皇帝カイザルにちなんでカイザリヤとつけられたのですが、地中海沿岸のカイザリヤと区別するために、ピリポ・カイザリヤと呼ばれていました。ここはギリシャ神話の神を礼拝する場所となっていました。

②その所でイエス様は弟子たちにどのような質問をなさいましたか(13節)。

●「人々は人の子をだれと言っているか。」

③「人の子」とはどなたのことでしょうか。

●イエス様です。「人の子」とは救い主イエス様の呼び名のことです。イエス様はたびたびご自分のことを「人の子」と言われました。

④弟子たちはイエス様の質問に対してなんと答えましたか(14節)。

●「ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言います。またエリヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります。」

バプテスマのヨハネさんのことは以前学びましたね。エリヤ、エリヤとは、旧約聖書の時代に活躍した預言者たちです。人々は、イエス様のことを偉大な預言者の一人としか見ていませんでした。

⑤続いてイエス様が尋ねられたことは何ですか。

●「それでは、あなたがたはわたしをだれと言いますか。」「イエス様は質問を弟子たちに向けられたのです。」

⑥弟子たちからはどのような返事が戻ってきましたか(16節)。

●「ペテロさんがすかさず、『あなたこそ、生ける神の子キリストです』と答えました。」

最初に学んだように、ピリポ・カイザリヤは偶

像礼拝が行われていた町です。その場所で、弟子たちのリーダーであったペテロさんが「イエス様は神の子である」と答えたのはとても大切な事でした。なぜなら、世間の人々は、イエス様がどのような方であるか正しく理解することができませんでした。ところが、ペテロさんはイエス様こそ生ける神の子であり、救い主キリストである、と言いました。これこそイエス様が最も望んでおられた正しい答えです。

⑦イエス様はペテロさんに対して「何の上にわたしの教会を建てよう」と言われましたか(18節)。

●「この岩の上にわたしの教会を建てよう」と言われました。イエス様はペテロさんの答えをとて「お喜ばれました。」「この岩」とは「あなたこそ生ける神の子キリストです」という信仰告白のことです。イエス様は、イエス様を神の子と信じる信仰を土台として、ご自分の教会を建てると、ここで宣言されました。

教会は、「イエス様こそ生ける神の子キリストです」と信じている人の集まりです。この信仰の告白こそ教会の土台なのです。また、イエス様は「悪魔の力もそれに打ち勝つことはない」と言われました。イエス様を信じるなら、いつも勝利することができると言っています。

わたしたちも「イエス様こそ生ける神の子キリストです」と、心から信じて告白しましょう。

研究資料

単元 神の子

ガリラヤ伝道も終盤を迎え、イエスはご自分の受難をより強く意識し始められる。主はご自分が神の子であることを公然と表明され、そのためますますユダヤ人たちの憎しみ、妬みを買うことになる。

週題 ペテロの告白

ペテロのたいなる信仰告白を学ぶ。我らの信仰の本質がここに表明されている。

テキスト

13 イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、この町は、ヘロデ大王の子ピリポによって建てられ、当時の皇帝ティベリオ・カイザルにちなんでカイザリヤと名づけられたが、地中海沿岸のカイザリヤと区別するために、ピリポをつけて呼ばれていた。それはヘルモン山の南西に位置する、岩の多い台地にあり、古代のスアル神とギリシャ神話のパン神の礼拝場所となっていた。そういう所でイエスに対する信仰告白がなされたことは意義深い。

14 ある人々はバプテスマのヨハネだと、主の「人々は人の子をだれと言っているか」との問いに対

して、弟子たちは口々に世間の風評を紹介した。①バプテスマのヨハネ。ヘロデによって斬首刑に処せられたが、信者たちに復活すると信じられていた(14・2)。②エリヤ。ユダヤ人たちは、救い主は再来のエリヤだと信じていた(17・10、マラキ4・5)。③エリヤ。ユダヤ民族存亡のときの守護聖人として尊敬されていた預言者である。④預言者のひとり。旧約時代の名のある預言者の一人が特別の使命を帯びて復活したという見方である(ルカ9・8)。

15 それでは、あなたがたは「字義どおりには、しかし、あなたがたは、わたしをだれと言いますか」とであり、人の意見ではなく、弟子たち自身の考え方が求められた。

16 あなたこそ、生ける神の子キリストです。マルコ(8・27～30)とルカ(9・18～21)は共にこのペテロの告白を記録しているが、どちらもメシヤを意味する「キリスト」だけに限定しており、「生ける神の子」を加えているのはマタイだけである。当福音書はユダヤ人を対象に書かれた。ユダヤ人指導者たちは人間的なメシヤを受け入れたが、イエスの神性は受け入れることができなかった。イエスは、ご自分が神と等しいお方であると主張されたために、十字架につけられたのであった。

17 あなたにこの事をあらわしたのは、「血肉」は、神性と対比する人間性のことを表すラビ的表現である。御霊による神からの啓示によつてのみ、イエスを神の子として真に知ることができる。

18 あなたはペテロである。「ペテロ」はギリシ

ヤ語のペトロス(石)である。かつて主は彼を「ペテロ」と名づけられた(ヨハネ1・42)。これは主が使われたアラム語であって、そのギリシャ語訳がペトロスである。そして、わたしはこの岩の上に「岩」はペトラ(女性名詞)であり、ペトロス(男性名詞)とは別の語であることから、ペテロ個人が教会の土台となると言われたのではなく、「あなたがたこそ、生ける神の子」というイエスに対する信仰の上に神の教会が建てられると言われたのである。黄泉の力、これは、キリストと神の御国に反抗する死の力である。イエスを生ける神の子キリストと信じる信仰に立つ教会は、決してサタンの勢力に屈しない。

19 わたしは、あなたに天国のかぎを。ペテロはペンテコステの日の最初に説教したときにこの鍵を使い、天の御国をユダヤ人に開き、その日に三千人がそこに入った(使徒2章)。後日、彼はこの鍵を使って、コルネリオの家で異邦人たちに扉を開いた(同10章)。あなたが地上でつなぐことは「つなぐ」「解く」はユダヤ教の専門用語で、「つなぐ」とは、神によって禁止された事項だと宣言すること、「解く」とは、神によって許可された事項だと宣言することを表す。つまり、禁止と許可の規制や条例を神の律法にしたがって定める権能が、教会に与えられたのである。

20 自分がキリストであることをだれにも言っていない。時はまだ熟していなかった。人々には、神の国の正しい政治的な認識を理解する力が、まだなかったのである。

●週題 十字架の道

●聖書 マタイによる福音書16・21～28

●暗唱聖句 だれでもわたしについて来たいと思ふなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従うてきなさい。

●目標 どんな犠牲を払ってでも、キリストに従う者となる。

●マタイ16・24

導入

先週は、ペテロさんの「あなたこそ、生ける神の子キリストです」という信仰告白について学びました。とても大切な告白です。今日はその続きです。

十字架と復活の予告

イエス様は弟子たちに、胸がドキーンとするような、それはそれは重大な事を言われました。すなわち、イエス様はエルサレムに行かれ、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、そして三日目によみがえるという事です。多くの苦しみとは、十字架にかかられる事を意味します。一瞬シーンと静まり返りました。「えっ、大好きなイエス様が苦しみを受けられる？ そんな事があるものか？」弟子たちのリーダーであるペテロさんはイエス様をわきへ引き寄せて言いました。「主よ、こんなでもないことです。そんなことがあるはずはございません。」すると、イエス様は振り向いてペテロに向かって

て言われたのです。「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」と。それはすごいけんまくでした。ペテロさんはどんなに驚いたことでしょう。イエス様から「サタンよ」と言われ、また「わたしの邪魔をする者だ」と言われたのですから。

父なる神様のみこころ

なぜイエス様はペテロさんにそのような事を言われたのでしょうか。イエス様にはペテロさんの気持ちがおわかりにならなかったのでしょうか。いえ、決してそんなことはありません。

イエス様は、一番残酷で恐ろしい死刑の方法であった十字架にかけられるようなことは一つもなさっていませんでした。それなのに「自分から進んでエルサレムに行かれ、十字架にかかられたのです。」

それは、父なる神様のみこころに従われるためでした。わたしたちの罪の身代わりとしてイエス様が十字架の上で罰を受けられることは、神様の「計画」でした。イエス様は神様がわたしたちを救い出したいと願っておられることをよく知っておられました。ですから、イエス様が神様のみこころに従っておられる時に、その邪魔をするサタンに対して、お叱りになったのです。

自分の十字架を負って

そのあと、イエス様は弟子たちに「言われました。」「だれでもわたしについて来たいと思ふなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従うてきなさい」と。十字架とは、いかなること、つら

くて苦しいことです。だれでも苦しいことは、避けたいですね。でも、イエス様はわたしたちのために進んで十字架の道を歩んでくださいました。いつもイエス様の十字架を覚えてイエス様に従っていきましょう。

また、私たちが十字架を負う時、決して一人で負うではありません。イエス様と共に十字架を負ってください。苦しくつらい中にも、イエス様を信じて十字架を負い従う時、すばらしい祝福の道が開けるのです。

ファニーと言う美しい女の子がいました。ところが赤ちゃんの時に失明してしまつたのです。ある日のこと、お友だちと外で遊んでいました。目の見えないファニーは何かにつまづいて倒れてしまいました。すぐにとび起きると年上のお友だちが「もうイヤになっちゃうわ。ファニーはちっとも役立たないんだもの」と言います。それを聞いたファニーは家へ帰って泣きだしてしまいました。しばらくして神様にお祈りしました。「神様、わたしは目が見えません。でもあなたの子供です。人に役立たなくても神様に役立つ子どもにしてください。」このファニーこそ、その生涯に五、六千ものすばらしい賛美歌を作つたファニー・クロスビーなのです。

結び

わたしたちのために十字架にかかってくださったイエス様に、どこまでも従っていきたいですね。どんな苦しみにあつてもイエス様の弟子として、最後まで従う者になっていただきましょう。

分級 A

〈分級活動例〉

ケンちゃんもマリちゃんも、よくがんばって教会学校にきたね。先生はとてもうれしいよ。でも、もっとよくがんばりたい方はイエス様よ。」よくきたね。」って。

日曜日の朝はおもしろいテレビの番組があるんだってね。それを見たくて教会学校を休んでしまふお友だちもいるよ。みんなはどうか。そんなふうにテレビをみたいと思つて、まようことがあふかもしれないね。そんなとき、「やっぱり教会学校にいらつて教会にゐるお友だちは、イエス様についていく。」お友だちです。

イエス様についていくことはとてもたいせつなことなの。それは、イエス様が天国にいく道をおしえてくださり、つれていってくださるからよ。まいこになったら、どっちにいったらいいのかわからなくなるね。こまるね。しっかりとイエス様についていくね。

〈さんび〉

「イエス様についていく。」

(分級Bを参照してください。)

一緒に歌いましょう。楽器(タンバリン・すず・

分級 B

〈キーポイント〉

イエス様についていく

〈導入〉

一週間、神の子イエス様と共に歩みましたか？もしかして、きょう学んだようなキビシイことがあったかしら？でも、それは神の子にふさわしい歩みです。必ず、光り輝く栄光につながる道だということをしっかりと確認しましょう。

〈聖書に親しむ〉

マタイ16・21～28です。一節ずつ輪読をします。ゆっくり、げんしゅくに、考え深く読んでください。暗唱聖句には赤線を引いて、心に覚え、刻み

ましょう。

〈足あとワークをやります〉

イエス様の足あとを、十字架を背負って歩いていく足は、どの子の足でしょうか。その足には赤い十字架マークをつけよう。そでないものには×をしましょう。

〈さんびしよう〉

(1) イエス様についていく(3回)

どこまでも、どこまでも。

(2) この世をうしろにし、十字架を前にして

イエス様についていく

どこまでも、どこまでも。

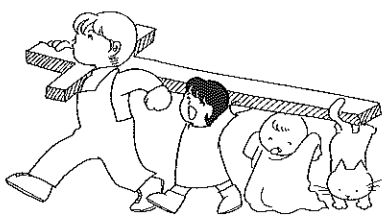
(3) イエス様についていく

どこまでも、ついていく

十字架のせまい道

どこまでも、どこまでも。

(日本ホーリネス教団出版局『子どもさんびか』11番)



分級C

—キーポイント—

十字架を負って

＜導入＞

先週は、イエス様の「あなたがたはわたしをだれと言ったか」という質問に対して、ペテロさんが「あなたこそ生ける神の子キリストです」というすばらしい信仰告白をしたことを学びました。そのすぐ後、イエス様は弟子たちに、今後起こることも大切な事を話されました。

＜聖書を読む＞

マタイによる福音書16章21節～28節を開いてください。順番に読んでみましょう。今日の暗唱聖句は24節です。線を引いて覚えましょう。

＜質問＞

①「この時から」（21節）とありますが、「この時」とはどのような時ですか。

●ペテロさんがイエス様に「あなたこそ生ける神の子キリストです」と言い表した時です。このペテロさんの言葉は、イエス様がどのような方であるかを見事に言いあてている大切な告白でした。②イエス様は弟子たちにどのような事をお話しになりましたか（21節）。

●イエス様は、「自分がエルサレムに行き、長老、

祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、そして三日目によみがえられることをお話しになりました。イエス様が、十字架と復活を予告されたのは、この時が初めてでした。

③その時ペテロさんはどうしましたか（22節）。●イエス様をわきへ引き寄せて、「主よ、ごんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と忠告しました。

④イエス様はペテロさんに何と言われましたか。

●「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ」と激しく非難されました。ペテロさんや他の弟子たちは、イエス様の厳しい言葉に驚きました。⑤イエス様はなぜペテロさんに対して「サタンよ、引きさがれ」と言われたのでしょうか。

●ペテロさんが、「主よ、ごんでもないことです」と言って、イエス様が十字架にかかられることに反対したからです。もちろん、イエス様は、ペテロさんのことをサタンと言われたではありません。彼のうちに働かかけているサタンをお叱りになったのです。

その前には「あなたこそ生ける神の子キリストです」と言って信仰告白をし、イエス様に喜ばれて有頂天になっていたペテロさんでしたが、サタンにスキをつかれてしまいました。

ペテロさんとしては大好きなイエス様のことを心配して言ったのでしょう。ところがペテロさんは、イエス様の十字架と復活を通して、救いのわざを完成しようとされていた神様のご計画を理解していませんでした。しかも、イエス様の十字架に反対したのです。これは明らかにサタンのしわ

ぎでした。サタンはいつでも、わたしたちを十字架から引き離そうとします。

⑥イエス様はご自分のあとについてきた弟子たちに、どのように従ってくださるようにならねばならないか（24節）。

●「自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従ってきなさい」と言われました。

「自分を捨てる」とはどういうことでしょうか。それは、自分中心な考え方や生活をやめて、イエス様を中心にして生活することです。

また、「自分の十字架を負って」とあります。イエス様は、わたしたちの救いのために喜んで十字架までの道を歩んでくださいました。このイエス様にお従いする時、わたしたち一人ひとりに、負うべき十字架があるのです。

⑦では、わたしたちはどうすれば、喜んで自分を捨て、自分の十字架を負って、イエス様に従っていくことができるでしょうか。Ⅱコリント5章15節を開いてみましょう。

●ここには、「自分のために死んでよみがえったかのために生きる」とありますね。イエス様がまずわたしたちを愛してご自分のいのちを与えてくださいました。イエス様の十字架が「わたしのため」と信じるなら、わたしたちの罪が赦され、わたしたちの内側が新しく造り変えられます。いつでもイエス様の十字架を見上げましょう。どんなにつらいことがあっても、イエス様がどれほどわたしたちのために苦しんでくださったかと思うなら、喜んで十字架を負うことができるのです。わたしたちも心からイエス様にお従いしましょう。

研究資料

課題 十字架の道

イエスは弟子たちに、主に従う道は十字架の道であることを示された。時あたかもガリラヤ伝道末期。まさに十字架を目前にしたイエスの、遺言のような重々しい一言一言である。

テキスト

ピリポ・カイザリヤでのペテロの告白に続く記事である。イエスは、信仰告白には実際の服従が必要であることを教えられた。

21 この時から、イエス・キリストは 本書に「この時から」が二度記されている。一度目はイエスの宣教の開始（4・17）、二度目はこの受難予告の開始である。前者は「イエスは」、後者は「イエス・キリストは」となっていることは、キリストは十字架の道を行くべき方だったことを暗示する。この時から、主は、地上におけるご自分の働きの真の目的を、だんだんと弟子たちに示された。弟子たちがイエスを神の子と告白した後でなければ、主はこのことを語ることができなかった。

22 すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せてペテロは、あたかもこのような運命から主を守ろうとするかのように、興奮して主をつかまえた。ごんでもないことでは、「神の御恵みがあります

ように」（新改訳）とも訳せる。彼は主の身の上を心配したのであるが、結果的に主の十字架を否定することになった。

23 サタンよ、引きさがれ サタンは「敵」を意味する語である。イエスに十字架を避けさせようとすることによって、ペテロは、キリストの働きに反対する敵の役割を演じていたのだ。信仰告白が主に喜ばれ、天国の鍵が授けられて有頂天になったペテロは、その直後、奈落の底に落とされる思いを味わった。十字架ぬきの救い主はありえない。生ける神の子キリストは、十字架のあがない主でなければならなかったのである。

24 だれでもわたしについてきたいと思うなら イエスが十字架に直面されなければならないばかりではなく、その弟子たちも十字架に直面しなければならない。「わたしについてきたい」とは、「わたしの弟子になる」ことを表すラビ的表現である。主の弟子になるための第一条件は自分を捨てること。自我がキリストと共に十字架につけられて己に対して死に、キリストに内住していただくことである。第二条件は、自分の十字架を負うこと。主が苦難の道を歩まれたように、我らもたとえいかなる犠牲を払ってでも、主のみ足跡に従って行くことである。これは内住の主によって、喜んでそつすることが出来る。第三条件は主に従うことである。「従ってきなさい」が現在時制であることから、絶えず心に従い続けなければならないことがわかる。

25 自分の命を救おうと思う者はそれを失い 真

の意味で命を得るためには、主のために「自分の命を失う」、つまり自分に死ななければならない。「十字架による自我の磔殺と聖霊によるキリストの内住」とバックストン師は語られた。「己に死に、主に生きていただいた者が、まことの命を見いだすのである。」

26 たとい人が全世界をもつけても この世の一切の富、地位、名誉を得たとしても、このまことの命を得なかつたら、弟子としての価値は何もない。自分に死ぬという代価を払うことを拒んで、まことの命を得損じたら、あと、もういかなる代価もありえないのである。

27 人の子は父の栄光のうちに やがてキリストは再臨され、我らすべての者をさばられる。そして実際のおこないに応じて報いられる。実際のおこないとは、我らの実績・功績ではなく、内住のキリストの恵みを得たかどうか、そして犠牲を払って主に従い、また従い続けたかどうかである。さばきの日に主が見られるのは、何をなしたか（ドウィング）ではなく、どんな状態になっているか（ビーイング）である。

28 人の子が御国の力をもって来るのを見るまでは 聖書の中の難解な箇所の一つである。有力な解釈は、これはペンテコステの日のことを指しており、弟子たちの上に主の聖霊が下られる日が来るまで、主の話を聞いている彼らの中に、死なないう者がいるという意味と理解する。御霊なる主が信じる者の内に臨まれるという恵みを、我らは受けることができるのである。

●週題 変貌山
●聖書 マタイによる福音書17・1-13
●暗唱聖句 これはわたしの愛する子、わたし
の心にかなう者である。これに聞
け。 マタイ17・5
●目標 神の栄光の輝きである主イエスの
み声に聞く者となる。

導入

もしもみなさんが、お父さんやお母さんの言う
ことに、少しも聞き従わなかったらどうでしょう。
お父さん、お母さんは、どれほど悲しむことでは
しょうか。それと同じように、神様も、わたしたちが
いつでも聞き従う者になるよう願っておられます。

姿が変えられたイエス様

イエス様が弟子たちに、十字架と復活の予告を
されてから六日がたちました。イエス様は、弟子
たちの中から選んだペテロさん、ヤコブさん、ヨ
ハネさんの三人を連れて、高い山に登られました。
お祈りをされるためでした。
ところが、祈っておられるうちに、イエス様の
お姿が突然変わりました。お顔は太陽のように輝
き、衣は光のように白くなったのです。ペテロさ
んたちはびっくり。
しかも、まぶしいばかりの輝きの中で、イエス
様のそばに二人の人が現われ、イエス様となにか

話し合っているではありませんか。その二人とは、
みなさんもよく知っているモーセさんとエリヤさ
んです。彼らはこの時、イエス様がエルサレムで
なしとげようとしておられること、すなわち、十
字架にかかられることを話し合っていたのです。
イエス様の栄光に輝いたお姿を目の前にして、
ペテロさんは感激して叫びました。「わたしたちが
ここに居るのは、すばらしいことです。ここに小
屋を三つ建てましょう。イエス様のためと、モー
セのためと、エリヤのための小屋を！」彼は、自
分でも何を言っているのかわからないくらい、興
奮していたのです。

雲の中からの声

ペテロさんがまだ言い終わらないうちに、もく
もくと雲がわき起こり、イエス様やモーセさんや
エリヤさんをおおいました。そして、雲の中から
声が聞こえてきたのです。「これはわたしの愛する
子、わたしの心にかなう者だ。これに聞け。」それ
は神様のお声でした。

ペテロさんたちは、この声を聞いてとても恐れ
ました。顔を地面に伏せて震えていると、イエス
様が手を置いて、「起きなさい、恐れることはない
」と言われます。彼らが目を上げてみると、イエス
様のほかにだれも見えませんでした。モーセさ
んもエリヤさんもうなくなり、雲も消えて、そこ
にはイエス様が一人おられるだけでした。

わたしたちが聞き従うべきお方

神様は弟子たちに「彼の言うことを聞きなさい」

分級 A

〈分級活動例〉

ね、みんな考えてみてね。
神様ってどんな色だと思う？
うーん、むつかしいな。
みたことないものね。

黒い色かな、ピンクかな、それとも赤かな？
ケンちゃんはどう思う？
金色？ そつ、どうして金色だと思ったの？
ああ、なるほどね。天国の色だからなのね。

神様はいつもかがやいていらつしやるのよね。

イエス様は、ある日、ペテロさんとヨハネさん
と、ヤコブさんをつれてお山にのぼりました。す
るとイエス様のお顔が太陽のようにかがやいて、

お洋服も光ってたんだった。
お弟子さんたちは目をあけていられないくらいいま
ぶしかったのよ。

イエス様は、神様の子もだから神様とおなじよ
うに光ってかがやきました。

わたしたちだってかがやくことができるのよ。
イエス様を信じる子どもたちは、心にイエス様が
住んでくださるから、かがやいてみえるのよ。お
ともだちや、おとなの人から、「きみはどうしてそ
んなにあかるいの？」とか「勇気があるし、やさ

しくて、がまんもできるね」とほめていたたくと
きには、「イエス様を信じているからだ」とおし
えてあげようね。

〈ワーク〉

王冠を作ってみましょう。王冠を金色か黄色に
ぬります。宝石にもいろいろな色をぬって、王冠に
はります。子どもの頭の大きさにあわせて、丸く
のりつけましょう。王冠の周囲をカラーで縁ど
りするときれいになります。

〈あそび〉

「どこまで高く積めるかな」
☆積木でなくても、空箱、本、器、けしゴムなど
の面のあるものをいろいろ用意しておきます。
☆子どもが、どれを先に選んで積んでいくかによ
って高く積めたり、途中でたおれたりします。
☆バランスのとれたかたを考えたのしくあそ
びましょう。

分級 B

――キーポイント――

かがやく神の子

〈導入〉

先週、「神の子の道」をずっと歩んで来れたかな。

とされました。神様は、ご自分の愛する御子で
あるイエス様に聞き従うように、と言われたので
す。

イエス様は、神の御子ですが、その栄光を捨て
てこの世に来てくださいました。そして、罪のな
いお方なのに十字架にかかられたのです。それは、
わたしたちを罪から救うためでした。

イエス様は、十字架にかかって死なれましたが、
三日目によみがえられました。どこまでも神様の
み心に従われたイエス様に、神様は復活の栄光を
お与えになったのです。

イエス様の山上での輝くお姿は、神の子として
のお姿であり、また、死の中からよみがえられた
栄光のお姿だったのです。神様は、ペテロさんた
ちに、そのイエス様に聞き従うようにと言われた
のです。

わたしたちが聞き従うべきお方はイエス様です。
神様ご自身であられたイエス様、また、わたした
ちの罪のために十字架にかかり、死の中からよみ
がえられたイエス様です。このイエス様に聞き従
わなければ、わたしたちは神様の祝福をいただく
ことはできません。

結び

神様は、イエス様に聞き従うすなおな心を喜ば
れます。イエス様に聞くとは、み言葉に従うこと
です。いつでもみ言葉を心にたくわえ、イエス様
にお従いしましょう。

さあ、きょうは、「何を聞くのが一番大切か」って
ことを学びます。毎日、いろいろな声や音を、わた
したちは聞きます。車の音、鳥の鳴き声、いろん
な人の声、ラジオやテレビからの声。いっぱい、
いっぱい。ではなにが一番大切でしょうか。

〈聖書に親しむ〉

マタイ17・1-13です。きょうもつづいて、ナ
レター、神の声、イエス様、ペテロ、弟子たち
とわかれて読みましょう。ドラマティックだよ。
暗唱聖句には、いつものように線を引いて、し
っかり覚えてください。

〈かがやくワークをしましょう〉

輝く雲の中から声がしました。正しいことはを
結んでいって、ふさわしい人になしましょう。
正しいことはの入った雲に色をぬって、かがやか
せてください。関係ないことはもあるので注意し

〈栄光の輝きであるイエス様に聞こう〉

輝く雲の中から神様の声がしました。イエス様
こそ神様の愛するひとり子であり、神様の喜ばれ
ることだけをしたり、言ったりしていらつしやい
ます。だからあなたがたも、このイエス様に聞き
なさいという声でした。この声はどのようにして
聞けますか。聖書を読んで、お祈りする人の心に、
静かにイエス様の声が聞こえてきます。

分級C

—キーポイント—

栄光の主

〈導入〉

先週はイエス様がわたしたちに与えてくださる十字架を負ってイエス様に従う、ということについて学びました。十字架の道は苦しい道です。しかし栄光の道なのです。どこまでもイエス様にお従いしましょう。

イエス様は神様ですが、人間の姿をとって地上に来られました。ところが、この地上で神様としてのお姿をお見せになった時があったのです。

〈聖書を読む〉

今日は、マタイによる福音書17章1節〜13節です。一節ずつ順番に読んでみましょう。今日の暗唱聖句は5節です。線を引いておぼえましょう。

〈質問〉

①イエス様は誰を連れて高い山に登られましたか。
●ペテロさん、ヤコブさん、ヨハネさんです。
ペテロさんたち三人は、よくイエス様のそばにいてことを許された人たちでした。イエス様が十字架にかかれる前、ゲッセマネの園でお祈りさ

れた時にもイエス様のそばにいました。
②高い山に登られたとき、イエス様のお姿はどのようにになりましたか(2節)。

●弟子たちの前でお姿が変わり、その顔は太陽のように輝き、着ておられた衣は光のように白くなりました。ペテロさんたちはとても驚きました。なぜなら、それまでずっとイエス様といっしょに生活してきたペテロさんたちでしたが、目の前のイエス様は、今までに一度も見ることがないお姿だったからです。

③彼らの前に現れて、イエス様と語り合っていたのは誰ですか。

●モーセさんとエリヤさんです。旧約聖書の時代の中でも、特に大きな働きをした二人が現れて、イエス様と話を始めたのです。これも弟子たちにとって驚くべきことでした。

④モーセさんとエリヤさんはイエス様と何を話していたのでしょうか(ルカ9・31)。

●イエス様がエルサレムで遂げようとする最後のことにについて、すなわち十字架のあがないについて話していました。

⑤イエス様の栄光に輝く姿を見て、ペテロさんは感動しながらイエス様に何と言いましたか。

●「主よ、わたしたちがここに居るのはすばらしいことです」と感激のあまり、口に出しました。そして、「ここに小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために」と言ったのです。ペテロさんは、あまりにもすばらしい光景にとっても感動していま

した。そして、イエス様はもちろん、モーセさんやエリヤさんにも、ずっと長くそこにいていただきたいと思っただけです。

⑥ペテロさんが話し終えないうちに、輝く雲が彼らをおおいました。その後、どこから声が聞こえましたか(5節)。

●雲の中からです。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け。」何とそれは、天におられる父なる神様のお声でした。この言葉はどこかで聞いたことがありますね。そうです。イエス様がバプテスマを受けられた時も、神様は、イエス様が愛する御子であると語られたのです。

ペテロさんたちは、天からのお声に恐れを覚え、地にひれ伏しました。でも、イエス様は「恐れることはない」と優しく声をかけてくださいました。⑦天からの声は「だれに聞け」と言われましたか。●イエス様です。わたしたちが聞いて従うべきお方は、イエス様ただ一人なのです。

わたしたちにはいろいろな声が聞こえてきますね。お父さん、お母さん、兄弟姉妹、お友だち、学校の先生、自分の声、それに時には悪魔の声。でも最も大切なのは、イエス様の声を聞くことです。イエス様は、聖書のみ言葉を通して、お祈りを通して、またお話を通してわたしたちに語りかけてくださいます。

ラジオを聞くと、まず周波数を含ませるように、わたしたちも心の周波数を整えていただいて、イエス様の声をお聞きしましょう。

研究資料

週題 変貌山

「生ける神の子キリスト」と告白され、十字架の道を示されたイエスは、その十字架の後に着せられるべき栄光のお姿を現された。

テキスト

前週、前々週の記事と同様、共観福音書に記録されているもので、並行記事はマルコ9・2〜8、ルカ9・28〜36である。

1 六日のうち、ピリポ・カイザリヤのできごとから六日後である。ルカは八日後と記しているが、何ら矛盾はない。ルカは、マタイとマルコが数えた日数の前後も加えているからである。ペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネだけを連れて主がこの三人だけをお連れになったのは、ほかにヤイロの娘の生き返りのとき(マルコ5・37)と、ゲッセマネの園での祈りのとき(26・37)である。主は、やがて初代教会の柱になるべき三人を訓練するために、重要な場面で同行された。高い山、万年雪を頂くヘルモン山と思われる(タボル山という説もある)。ピリポ・カイザリヤはその山麓にあった。主が山に登られたのは、祈るためであったとルカは記している(9・28)。

2 ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変わりこの栄光の姿は、イエスの復活の姿であり、さらに再臨の姿でもある。「姿が変わる」はメタモルフオー、福音書以外には、ロマ12・2、IIコリント3・18にだけ出てくる。主の姿が変貌されたように、我らも霊的に姿変わりさせられることが示されている。信仰によってキリストを内にいだくと、我らも変貌させられるのである。

3 すると、見よ、モーセとエリヤが 何を話していたかはルカだけが記す(9・31)。すなわち「イエスがエルサレムで遂げようとする最後のこと」、十字架のあがないについてであった。モーセは律法の代表、エリヤは預言者の代表で、いずれもキリストを指し示しており、特に五書と預言者とは、救い主の贖罪死を預言している。

4 主よ、我らがここに居るのは ペテロの歓喜のほどは察せられるが、しかし、彼の心にはまだ受難の予告のことが正しく理解されていなかったようである。彼が求めたのは栄光のメシヤであって、受難のメシヤではなかった。

5 たちまち、輝く雲が彼らをおおい 聖書では、雲は神の臨在を表す。幕屋が完成したとき、雲が幕屋をおおい、主の栄光が幕屋に満ちた(出エジプト40・34、35)。また神殿が完成し、ソロモンが祈り終わったときも、天から火が下って主の栄光が満ちた(歴代下7・1)。シェキナの栄光である。変貌の主は、まさに神の栄光の輝きであった。これはわたしの愛する子 バプテスマのときにもイエスにこのみ声があった(3・17)。イザヤ42・1

の引用で、イエスが神から信任されて遣わされたしもべであるとともに、神の生みたまえるひとり子(詩篇2・7、ヘブル1・5)であることを、神ご自身が証明された。神は「これに聞け」と言われ聞き従うべきお方は受難のキリストであることを示された。

8 彼らが目をあげると、イエスのほかには 雲も声も消え、モーセもエリヤも、イエスの輝きも消えたあと、残っておられたのはいつものイエスただ一人であった。我らの見るべきものは、様々な奇跡や功績ではなく、十字架のキリストである。「彼ら目を挙げしに、イエス一人の他は誰も見えざりき」(文語訳)。

9 人の子が死人の中から 口止めの理由は、この主の変貌が民衆に誤解されて、十字架の前に主がメシヤとつかぎ上げられ、反乱へと発展していくことを懸念されたからであろう。

10 いっさい、律法学者たちは、マラキ4・5を論拠に、メシヤ到来の前にエリヤが来ると言っていた。エリヤがまだ来ていないのにメシヤが来るはずがない、だからイエスはメシヤではない、というのが彼らの言い分だった。12 エリヤはすでにきたのだ エリヤはバプテスマのヨハネとして、万事を元どりに改める(11節)、つまり主の道備えをするために、すでに来たのに、彼らは自分かつてに彼をあしらった。同じように、メシヤであるイエスも、不信仰な彼らの手によって苦難をお受けになる。彼らの心のかたくなさのゆえであった。

収穫感謝の日

● 週 題 実りを携えて

● 聖 書 申命記26・1-11

● 暗唱聖句 主よ、ごらんください。あなたが

わたしに賜(わ)った地の実の初物を、いま携えてきました。

申命記26・10

● 目 標 たくさんの収穫を与えてくださる主に心から感謝することを教える。

導入

今日の礼拝は収穫感謝の礼拝です。神様は、いつも私たちを豊かに養い、満たしてくださっています。心からの感謝を神様におさげしましょう。

感謝のさざげもの

神様はイスラエルの人々に、乳と蜜の流れる地、カナンの国に入る事を約束されました。そしてそこに入ったなら、まずそこでとれる物の中から一番最初にできた物を神様におさげするように命じられました。これは、かつて神様がどんなにすばらしい事をしてくださったかを覚え、心から感謝するためでした。

大いなる救い

むかし、イスラエルの人たちはエジプトの国で四百年間もバロという王様のもとに奴隷として苦

しめられていました。神様は彼らの悩みを知らんになり、その叫びを聞かれ、彼らをエジプトから救おうとされたのです。その時立てられた指導者がモーセでした。モーセは何度もバロの前に出ますが、バロは貝のように心を堅く閉ざして、エジプトからイスラエルの人々を出すことを拒みまし

た。その間に神様は、十回にもわたる災いをバロとエジプトに与えられたのです。そしてついに、エジプト人の最初に生まれた子どもすべてが神様に打たれたのを見たバロは、彼らをエジプトから出すことを許しました。

イスラエルの人々の間では大歓声が起こりました。四百年という長い奴隷状態からやっと解放されたからです。大喜びでエジプトをあとにして紅海の前に来た時、後を見るとなんとあの恐ろしいエジプトの軍隊が追いかけて来るではありませんか！前を見ると紅海。後にはエジプト軍。恐れ惑った彼らは、モーセに向かって大声で叫びました。「こんな所で死ぬくらいなら、奴隷としてエジプトにいた方がましだ。」しかし、モーセは、神様を信じて疑いませんでした。そして、神様の言われる通りに持っていた杖を紅海にさし伸べた時です。なんと紅海はまっ二つに分かれたのです。イスラエルの人々は海底を渡って行くことができました。全員が渡り終わった後、モーセが杖を海に伸ばした時に、海はもとのようになり、エジプト軍は全滅したのです。神様は、なんとすばらしいみわざを現されたことでしょう。

私たちの神様は生きておられる方です。神様は

私たちを恐ろしい罪から救うために、ひとり子イエス様をつかわしてくださいました。イエス様が、十字架にかかってくださったことによって私たちの罪はすべてゆるされ、救われる道が開かれたのです。私たちはいつでも、どこにいても神様がなしてくださった、このすばらしい救いのみわざを覚えて感謝しましょう。

神様のすばらしい導き

紅海を渡り終えたイスラエルの人々が通るべき所は、緑も水もない荒野でした。しかしそのような所でも、神様が導かれたのです。本当ならイスラエルの人々は十一日間で、約束の地カナンに入ることができるはずでした。しかし、何度も何度もつぶやいては、神様に従わなかったために、彼らは四十年間も荒野を旅しなければならなかったのです。神様はそうした中でも忍耐強く彼らを守り、必要な食べ物や水を与えて養い、導かれました。

荒野で死んでしまった人も多くいましたが、神様は、ついにイスラエルの人々をカナンに導き入れました。そして彼らは、神様の命令に従って、神様に心からの感謝の礼拝をささげたのです。

結び

神様は、わたしたちを罪と滅びから救い出してくださいました。わたしたちの生活に必要なものを豊かに与えてくださっています。一つ一つの恵みを数えて、神様に感謝をささげましょう。

分級 A

＜準備するもの＞

みかん、柿、りんごなどみんなでいっしょに食べられるものを切ってお皿に盛っておきましょう。

＜分級活動例＞

きょうは「収穫感謝の日」といって、神様がわたしたちにくださるたくさんのお菓子を「ありがとう」という日なのよ。

ケンちゃんもマリちゃんも「ごはんをしっかりと食べてますか？ 赤ちゃんのときはお母さんのオッパイしかのめなかったのに、だんだん大きくなると少しずつわらかいたべものがたべられるようになります。そして歯がはえるといういろいろなべものがたべられるようになりました。だからこんなに大きくなって強くなったのね。お母さんが作ってくださるごはんやおかずはなんでもおいしくたべられるかな？

どんなものが好きなのか教えてほしいな。みんなのおうちのお台所に野菜やくだものがあるまでどこにあったのかしら？ そうね、お店。お店に売っている野菜やくだものはどこでつくっているのかな？ そうね、畑よ。でもいったいだれがつくっているのかな。

分級 B

＜キーポイント＞

ゆたかな実り

それは、農業をするお百姓さんたち。お百姓さんは、土をやわらかくして、種をまいて、お水をかけたり、草とりをしたり、虫をとったり、いろいろお世話をしてくださるのよ。でもね、その種から芽をだしておやさいが大きくなるように育ててくださるのはだれでしょう。そうね、神様です。神様は、わたしたち人間のために食べるものをちゃんとつくってくださいなのよ。これからは、食べるときに「神様、このたべものをありがとう」といいます」と感謝していただくね。

さあ、みんなで神様がくださったものを「ありがとう」といって、いっしょにいただきますしよ。

「おいしいね。」
「うん、おいしい。」

＜ワーク＞

たくさんのお菓子が描かれていますね。一番好きなものを選んで、自分でも絵にかきましょう。そして、「かみさま、ありがとう」とお祈りしましょう。

＜導入＞

イエス様のみ声を聞きながらの一週間、どうでしたか？ きょうは、「収穫感謝の日」です。神様に、心いっぱい、「ゆたかな実り」を感謝したいですね。

＜聖書に親しむ＞

申命記26・1-11です。一節ずつ輪読して、暗唱聖句には赤線を引いて、みんなで暗唱しましょう。

＜みのりワークにちようせん＞

右にあげたフルーツや野菜の名が、表の中にかくれています。タテ(上下)、ヨコ(左右)、ナナメとさがしてみてください。二回、三回と出てくるものもありますよ。その文字のワークを全部ぬっていきってください。さあ、一度もつかわずぬり残された文字で一つのこぼができます。何かな？ (こたえ かみさま)

＜ゆたかな実りを感謝して＞

フルーツ！こんなにたくさんフルーツや野菜。日本にないフルーツや野菜もどっさりあるね。オドロキノしかもそれらを食べると体のためになるんだから、ますますビックリ。神様ってほんとにすばらしい。カナンの実り、アメリカの収穫感謝日の感動のお話も先生にしてもらいましょう。そして、心から感謝して、何でも食べて、体も心も元気な子どもになりましょう。

分級C

—キ・ポイント—

収穫感謝

〈導入〉

今日は収穫感謝の日です。わたしたちは毎日豊かに満たされた生活をしていて、つい感謝が出て来なくなったりします。恵まれた状態になれてしまっていないでしょうか。今日の収穫感謝の日を機会に、もう一度神様が与えてくださっている豊かな恵みを思い起し、感謝をささげましょう。

〈収穫感謝の由来〉

今から四百年ほど前の一六二〇年九月六日、イギリスの清教徒（ピューリタン）と呼ばれる人たちが一〇二名が、信仰の自由を求め、メイフラワー号に乗ってアメリカ大陸に渡りました。彼らは森を切り開き、まず教会と住むための小屋を建てました。ところが、その年の冬の寒さは特に厳しく、食べ物もほとんど手に入らず、およそ半数の人たちが亡くなってしまいました。

そのような彼らを助けたのが、アメリカインディアンたちでした。春になって彼らは、インディアンたちから、とうもろこし、エンドウ、小麦、大麦などの作り方を教わり、その年の秋には予想以上のたくさんの収穫を得ることができたのです。

人々は皆教会に集まり、収穫感謝の礼拝をささげ、家庭ではインディアンたちを招いて、感謝祭の食事をしました。小麦のパンケーキ、七面鳥や力モの焼肉、魚などが用意され、豊かな食卓を囲むことができました。

一八六三年、リンカーン大統領は、十一月の第四木曜日を収穫感謝の日として定め、やがて日本の教会では、十一月の第四日曜日に収穫感謝礼拝を行うことになりました。

〈聖書を読もう〉

申命記26章1節～11節を開いてください。ここにはどのような事が書かれているのか、よく考えながら読んでみましょう。今日の暗唱聖句は10節です。しっかりと線を引いて覚えましょう。

〈質問〉

- ①イスラエルの人たちはどこに入ろうとしていましたか（1節）。
- 神様が約束してくださっていた嗣業の土地（相続地）です。それは、カナンの地で、むかし、イスラエルの先祖たちが住んでいた場所でした。
- ②イスラエルの人々を長い間、悩ませていたのはどれですか（6節）。
- エジプト人です。彼らは、イスラエルの人々がエジプトの国でどんどん増えていくのを見て、恐れしました。そこで、彼らを奴隷として扱い、たいへんな労働をするように命じました。なんとその期間は四百年（使徒7・6）も続いたのです。
- ③苦しめられていた人々は、だれに助けを呼び求めましたか（7節）。

●主なる神様です。イスラエルの人々は、先祖アブラハム、イサク、ヤコブの時代から、生きておられるまことの神様を信じる信仰を受け継いでいました。

④神様は、その叫びにどのように答えてくださいましたか（8節）。

●神様は、彼らがひどい労働をさせられて、悩み苦しんでいる姿をすでに「ごらんになっておられました。また、彼らの叫ぶ声をも聞かれたのです。」

そこで、神様はイスラエルの人々を救い出されために、モーセを指導者として立てられました。神様は、モーセを通して力ある恐ろしい災いをエジプトに下され、ついに彼らをエジプトの地から導き出されたのです。

⑤人々が約束の地に住み始めてからのことですが、神様は何を神様の前に持ってきて、神様を礼拝するように命じられましたか（10節）。

●神様が与えてくださった土地で最初に収穫できた作物です。もちろん、野菜や果物は、人々が一生懸命畑を耕し、肥料をあげて育てたものです。でも、もし太陽が照らず、雨が降らなければ、作物はできませんね。神様が土地を祝福してくださるからこそ、収穫ができるのです。ですから、とれた作物をまず神様におささげるのです。心いっぱいの感謝のささげものを神様はどれほど喜んでくださることでしょう。

今日わたしたちも、神様からどれほどの祝福をいただいていることが、書き出してみましょう。そして、心からの感謝のお祈りを神様におさげしましょう。

研究資料

週題 実りをたずさえて

収穫感謝日の由来

英国国教会の宗教改革に満足せず、純粋な信仰を守ろうとしたピューリタン（清教徒）は、一六二〇年九月にメイフラワー号でイギリスを出航し、同年十一月二十一日、ニューイングランド州のプリマスに上陸した。いわゆるピルグリム・ファーザーズの名で知られている一〇二名の入植者である。

彼らを導いたのは、ジョン・カーヴァーであり、プリマス植民地の最初の総督となった人である。彼らは教会堂を建て、住居を設けて、新しい生活を始めた。しかし、その年の冬はたいへん厳しく、指導者のカーヴァーを含む約半数が死んだ。カーヴァーの後継者ウィリアム・ブラッドフォードの指導で、地元のインディアンとの大きな助けにより、翌年の秋、多くの穀物を収穫することができた。彼らは互いに収穫物を持ち寄り、神に感謝をささげた。また、彼らに農耕を教えてくれたインディアン約九十名を招いて祝賀会を開いた。これが最初の収穫感謝の祝いであった。

しかし、毎年の行事となっていたのは一六六〇年以降のことであり、ニューイングランド地方

にこの習慣が広まったのは、十八世紀末のことであった。一七八九年十一月二十六日、ジョージ・ワシントンによって収穫感謝日は最初の「国民の日」に決められ、さらに一八六三年十一月二十六日、アブラハム・リンカーンによって、十一月の第四木曜日が毎年「収穫感謝の日」と定められた。そして、一九四一年の米国議会において、十一月の第四木曜日が収穫感謝の日（サンクスギビング・デー）として定められ、その習慣が全世界に広まったのである。日本でも、十一月二十三日が勤労感謝の日と定められている（『牧羊者』一九八八年十一月号三六ページ「研究資料」参照）。

テキスト

申命記の中心テーマは、イスラエルの民が、カナン入国後に歩むべき正しい道である。そのため十戒が再説され（5章～11章）、また、その他の命令がていねいに述べられている（12章～26章）。今日のテキストはその最後の部分で、初物をささげるための典礼について述べている。

1、2 あなたの神、主が嗣業として、携えて行かなければならない。約束の地カナンに入国し、定住するとき、まず収穫物の初物の献納が求められた。それは、出エジプト以来、主が真実をもって民を導き、約束の地に携え入れたもうたことへの感謝のしるしであった。

5 そして、あなたはあなたの神、主の前に、さし、礼拝の中で言葉で感謝を言いつることが要求された（10節まで）。わたしの先祖は、さすらい

の一アラムびとでありましたが、礼拝者たちは、ここまで導かれたすばらしい解放のみわざを列挙した。特にヤコブが経験したラバンからの解放と、イスラエルのエジプトからの解放が実例として挙げられている。ヤコブは、その母がアラム・ナハライム出身であり（創世記24・10）、彼自身もそこでラバンに仕えて長年を過ごした（29～31章）ので、アラム人（シリア人）として述べられている。

6 ところがエジプトびとは、礼拝者たちは、自分たちが主によってそこから自由にされた（7、8節）のだが、エジプトにおける過酷な労働を語らなければならなかった。かつて自分たちが惨めな奴隷状態であったこと、そして、主のあわれみが、そのどん底にまで及んだことを、決して忘れることのないためであった。

9 われわれをこの所へ連れてきて、新しいカナンの地は、神が備えたもうた賜物であった。礼拝者たちは、この恵みをかみしめる必要があった。10 主よ、ごらんください。主から与えられた初物をささげることが、大きな喜びをもたらすものであった。

まことの感謝は、あがないのみわざを覚えることから生まれる。イスラエルの民にとって、出エジプトが永遠に記念すべき体験であったように、我らにとっても、キリストの十字架のあがないは、絶えず覚えるべき神の恵みである。このあがないを感謝することをぬきにしては、収穫感謝はただの形式、儀礼になってしまうことを忘れてはならない。

研究資料